

高齢者実態調査報告書

《本人調査・ひとり暮らし調査》

(案)

令和元年●月

大阪市

目次

1	調査概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査設計 (本人調査・ひとり暮らし調査)	1
	(3) 調査項目	1
	(4) 回収状況	2
	(5) 報告書の見方	3
2	本人調査結果	5
	(1) 調査回答者の基本属性	5
	問1 記入者	5
	問2 (1) 本人の性別	6
	問2 (2) 本人の年齢	8
	問2 (3) 居住区	10
	問2 (4) 居住年数	12
	(2) 世帯・住まいの状況	14
	問3 世帯状況	14
	問3-1 昼間の状況	17
	(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	18
	問4 要介護・要支援認定状況	18
	問4-1 介護保険の認定申請をしていない理由	21
	問5 日常生活の状況	23
	問6 外出の頻度	25
	問6-1 外出しない理由	28
	問7 外出の目的	29
	問8 介護予防のための取組み	34
	問9 参加してみたい介護予防事業	46
	問10 運動やスポーツの頻度	49
	問11 かかりつけの医師の有無	51
	問11-1 かかりつけの医師の訪問診療の有無	54
	問12 かかりつけの歯科医師の有無	55
	問12-1 かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無	58
	問13 かかりつけ薬剤師・薬局の有無	59
	問13-1 かかりつけ薬剤師・薬局の在宅訪問の有無	62
	問14 歯の本数	63
	問15 かんで食べることの可否	65
	問16 飲み込みにくいと感ずることの有無	67
	問17 医療の相談先	69
	問18 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度	70

問19	在宅医療の利用状況	72
問20	人生会議（ACP）の認知度	75
問21	人生の最終段階に過ごしたい場所	77
問22	人生の最終段階についての話し合いの有無	81
問22-1	人生の最終段階について話し合った相手	83
問22-2	話し合いで決めた内容の共有有無	87
問23	日常生活への不安	88
（４）就労・地域生活の状況・意向、いきがいの状況		92
問24	就労の状況	92
問25	就労の意向	93
問25-1	就労の意向がある理由	94
問25-2	就労の意向がない理由	95
問26	近所付き合いの有無	96
問26-1	近所付き合いがほとんどない理由	98
問27	地域活動への参画の有無	99
問27-1	地域活動に参加するようになったきっかけ	102
問27-2	地域活動に参加していない理由	103
問28	地域貢献のための活動	104
問29	近隣への支援と近隣からの支援	106
問30	楽しみや生きがい	110
問31	共食頻度	113
（５）将来の介護や援護に対する考え		116
問32	介護が必要になった場合の暮らし方	116
問33	特養入所意向	121
問34	特養の整備と介護保険料	123
問35	在宅生活継続のための支援	126
（６）生活の満足度		130
問36	現在の健康状態	130
問37	現在の生活の満足度	132
（７）地域生活支援		133
問38	地域包括支援センター・ブランチの利用状況	133
問38-1	地域包括支援センター・ブランチを知った経緯	137
問38-2	地域包括支援センター・ブランチの利用目的と満足度	140
問39	高齢者虐待の相談先の認知度	142
問40	消費者被害の経験有無	146
問41	認知症の認知度	147
問42	認知症についての相談先	149
問43	認知症の人の支援	152
問44	孤立死に対する意識	155
問44-1	孤立死を身近に感じる理由	158
問45	地域での見守り活動の認知度と必要性	159
問46	災害時・緊急時にひとりでの避難の可否	169

問46-1	災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無	172
問47	災害時の心配事	174
問48	避難所生活するうえで必要なもの	177
問49	困ったときの相談先	179
(8)	高齢者施策全般	182
問50	高齢者向け施設・事業の利用状況・意向	182
問51	老人福祉センターの利用状況	194
問51-1	老人福祉センターを利用していない理由	195
問52	高齢者入浴利用料割引事業の利用状況	196
問52-1	高齢者入浴利用料割引事業を利用していない理由	197
問53	高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況・意向	198
問54	サービス情報の取得方法	210
問55	自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向	213
問56	住み慣れた地域での自立した生活に対する見解	214
問57	重点を置いてほしい高齢者施策	216
付問57	特に重点を置いてほしい高齢者施策	224
3	ひとり暮らし調査結果	225
(1)	ひとり暮らし調査	225
問1	ひとりで暮らしている期間	225
問2	連絡や行き来する相手	226
付問2	一番親しくしている相手	227
問3	もっとも親しい相手の居住地	228
問4	もっとも親しい相手と連絡や行き来する頻度	229
問5	誰とも話をしない日の頻度	231
問6	急なけがや病気などの時にすぐに来てくれる人の有無	233
問6-1	すぐに来てくれる相手	234
問7	身体的介護や生活介護が必要な状態になった経験	235
問7-1	身体的介護や生活介護が必要な状態になった時の療養先	235
(2)	本人調査における「ひとり暮らし世帯」回答結果（世帯比較）	237
問1	記入者	237
問2 (1)	本人の性別	237
問2 (2)	本人の年齢	237
問2 (3)	居住区	238
問2 (4)	居住年数	239
問4	要介護・要支援認定状況	239
問4-1	介護保険の認定申請をしていない理由	240
問5	日常生活の状況	240
問6	外出の頻度	241
問6-1	外出しない理由	241
問7	外出の目的	242
問8	介護予防のための取組み	243

問9	参加してみたい介護予防事業	245
問10	運動やスポーツの頻度	245
問11	かかりつけの医師の有無	246
問11-1	かかりつけの医師の訪問診療の有無	246
問12	かかりつけの歯科医師の有無	246
問12-1	かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無	247
問13	かかりつけ薬剤師・薬局の有無	247
問13-1	かかりつけ薬剤師・薬局の在宅訪問の有無	247
問14	歯の本数	248
問15	かんで食べることの可否	248
問16	飲み込みにくいと感ずることの有無	248
問17	医療の相談先	249
問18	希望すれば在宅医療を受けられることの認知度	250
問19	在宅医療の利用状況	250
問20	人生会議（ACP）の認知度	251
問21	人生の最終段階に過ごしたい場所	252
問22	人生の最終段階についての話し合いの有無	252
問22-1	人生の最終段階について話し合った相手	253
問22-2	話し合いで決めた内容の共有有無	253
問23	日常生活への不安	254
問24	就労の状況	255
問25	就労の意向	255
問25-1	就労の意向がある理由	256
問25-2	就労の意向がない理由	257
問26	近所付き合いの有無	257
問26-1	近所付き合いがほとんどない理由	258
問27	地域活動への参画の有無	259
問27-1	地域活動に参加するようになったきっかけ	260
問27-2	地域活動に参加していない理由	261
問28	地域貢献のための活動	262
問29	近隣への支援と近隣からの支援	263
問30	楽しみや生きがい	265
問31	共食頻度	266
問32	介護が必要になった場合の暮らし方	267
問33	特養入所意向	268
問34	特養の整備と介護保険料	268
問35	在宅生活継続のための支援	269
問36	現在の健康状態	270
問37	現在の生活の満足度	270
問38	地域包括支援センター・ランチの利用状況	270
問38-1	地域包括支援センター・ランチを知った経緯	271
問38-2	地域包括支援センター・ランチの利用目的と満足度	272

問39	高齢者虐待の相談先の認知度	274
問40	消費者被害の経験有無	274
問41	認知症の認知度	274
問42	認知症についての相談先	275
問43	認知症の人の支援	276
問44	孤立死に対する意識	277
問44-1	孤立死を身近に感じる理由	277
問45	地域での見守り活動の認知度と必要性	278
問46	災害時・緊急時にひとりでの避難の可否	280
問46-1	災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無	280
問47	災害時の心配事	281
問48	避難所生活するうえで必要なもの	282
問49	困ったときの相談先	283
問50	高齢者向け施設・事業の利用状況・意向	284
問51	老人福祉センターの利用状況	286
問51-1	老人福祉センターを利用していない理由	286
問52	高齢者入浴利用料割引事業の利用状況	287
問52-1	高齢者入浴利用料割引事業を利用していない理由	287
問53	高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況・意向	288
問54	サービス情報の取得方法	290
問55	自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向	291
問56	住み慣れた地域での自立した生活に対する見解	291
問57	重点を置いてほしい高齢者施策	292
付問57	特に重点を置いてほしい高齢者施策	293

1 調査概要

(1) 調査目的

〔1〕 本人調査

大阪市内に居住する65歳以上の高齢者を対象に、世帯の状況、日常生活の状況、就労・いきがいの状況、地域活動・社会参加の状況、将来の介護に対する考え、地域生活の状況、高齢者向けサービスの利用状況と利用意向などを把握し、大阪市内における今後の高齢者施策及び介護保険事業制度の運営に資する基礎資料を得ることを目的に実施した。

〔2〕 ひとり暮らし調査

大阪市内に居住する65歳以上のひとり暮らし世帯の高齢者を対象に、健康状態、日常的なつながり、緊急時の支援者の状況等を把握し、大阪市内における今後の高齢者施策及び介護保険事業制度の運営に資する基礎資料を得ることを目的に実施した。

(2) 調査設計（本人調査・ひとり暮らし調査）

- ① 調査地域：大阪市内全域
- ② 調査対象：大阪市内に居住する満65歳以上の高齢者から無作為に抽出した20,400人
(ひとり暮らし調査は20,400人のうち、ひとり暮らしの方が対象)
- ③ 調査方法：郵送配布、郵送回収
- ④ 調査期間：令和元年7月8日（月）から令和元年9月19日（木）

(3) 調査項目

〔1〕 本人調査

- ① 調査回答者の基本属性
記入者、性別、年齢、居住区、居住年数
- ② 世帯・住まいの状況
世帯状況、昼間の状況
- ③ 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況
要介護・要支援認定の状況、日常生活の状況、外出の頻度・目的、介護予防のための取組み・参加意向、運動習慣、かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師の状況、口腔状態、医療の相談先、在宅医療の利用状況、人生会議（ACP）の状況、日常生活への不安
- ④ 就労・地域生活の状況・意向、いきがいの状況
就労に関すること、地域・近隣との関わり、楽しみ・生きがい、共食頻度
- ⑤ 将来の介護や援護に対する考え
今後の暮らし方、特養入所意向、特養整備と介護保険料、在宅生活継続のための支援
- ⑥ 生活の満足度
健康状態、生活の満足度
- ⑦ 地域生活支援
地域包括支援センター・ランチの利用状況、高齢者虐待の相談先、消費者被害の経験有無、認知症に関すること、孤立死に対する意識、災害時・緊急時の支援、困ったときの相談先

⑧ 高齢者施策全般

高齢者向け施設・事業の利用状況・意向、高齢者向け福祉サービス・制度の利用状況・意向、サービス情報の取得方法、自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントについて、重点を置くべき高齢者施策

⑨ 高齢者施策に関する意見・要望等

〔2〕ひとり暮らし調査

① ひとりで暮らしている期間

② 日常的なつながり

連絡や行き来する相手・相手の居住地・相手との交流頻度

③ 緊急時の支援者の有無

すぐ来てくれる相手

④ 介護が必要なときの療養について

介護が必要な状態になった経験、療養先

(4) 回収状況

〔1〕本人調査

調査対象者 (a)	回収数 (b)	集計対象外数 (c)	有効回答数 (d)=(b)-(c)	有効回答率 (e)=(d)/(a)
20,400	10,883	315	10,568	51.8%

※集計対象外数の内訳（調査票の返送があったが、下記の理由により集計対象から外したもの）

病院に入 院中	特別養護老人 ホームや介護 老人保健施設 等の施設に入 所中	本人の意 思が確認 できない	転居	死亡	その他	白票	計
71	151	37	9	24	10	13	315

【介護保険料段階】有効回答数を全体とした各段階の人数（上段）と割合（下段）

第 1 段 階	第 2 段 階	第 3 段 階	第 4 段 階	第 5 段 階	第 6 段 階	第 7 段 階	第 8 段 階	第 9 段 階	第 10 段 階	第 11 段 階
771	1,811	1,001	1,000	1,092	961	1,354	1,151	910	279	238
7.3%	17.1%	9.5%	9.5%	10.3%	9.1%	12.8%	10.9%	8.6%	2.6%	2.3%

〔2〕ひとり暮らし調査

本人調査 有効回答数 (a)	ひとり暮らし 有効回答数 (b)	ひとり暮らし 割合 (c)=(b)/(a)
10,568	3,203	30.3%

(5) 報告書の見方

- ① 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- ② 図表上の「MA％」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA％」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。
- ③ コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- ④ 報告書記載の「前回調査」とは、平成28年7月実施の高齢者実態調査の結果を示している。

本人調査 編

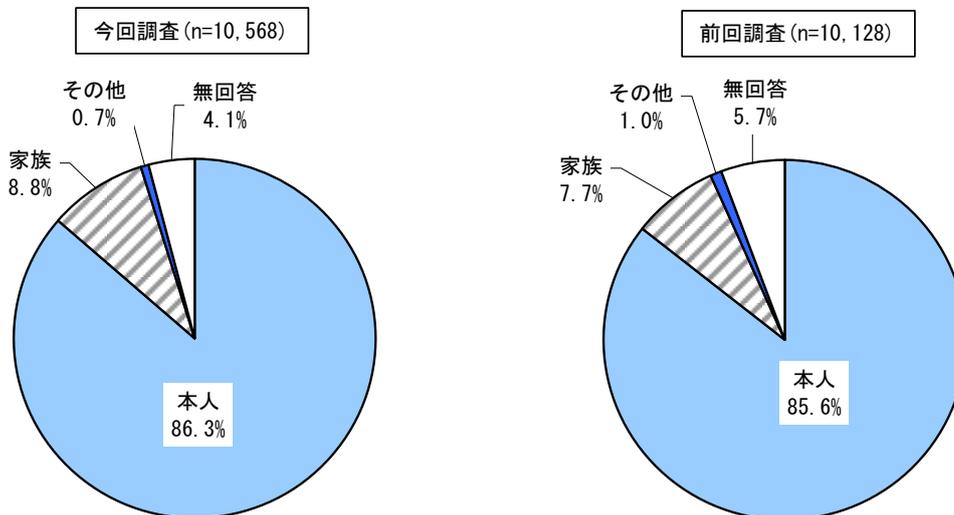
2 本人調査結果

(1) 調査回答者の基本属性

問1 記入者

この調査票をご記入されるのはどなたですか。(〇はひとつ)

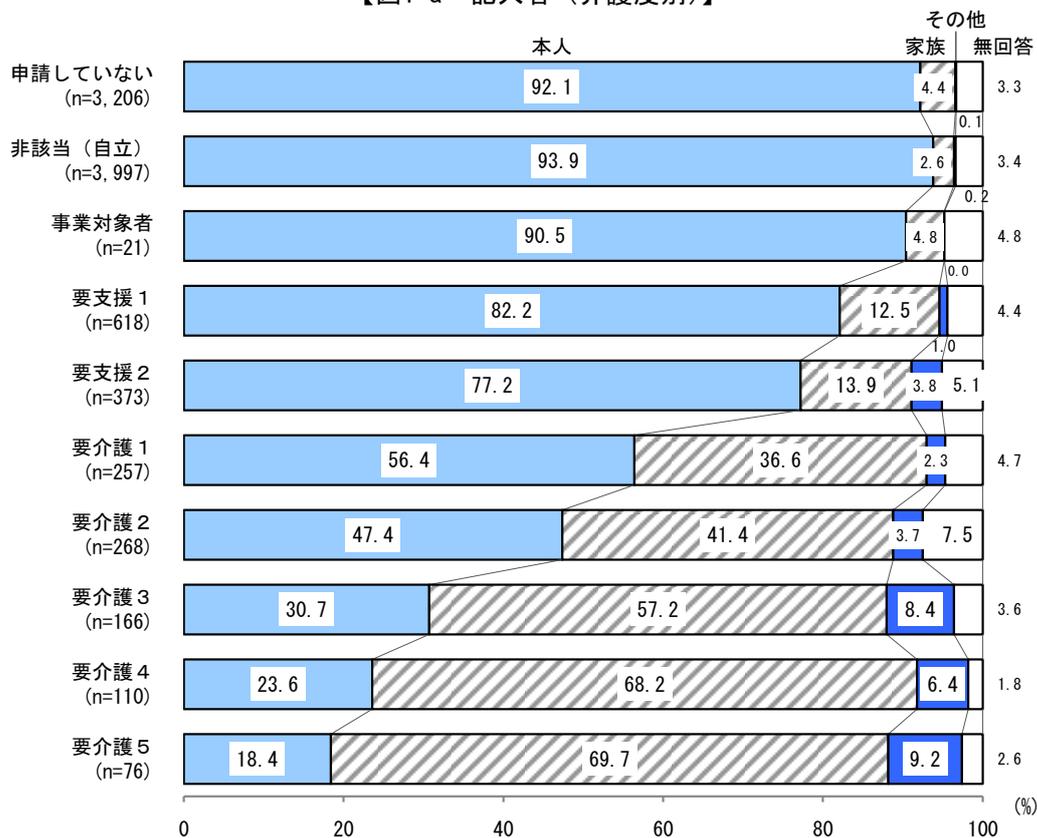
【図1 記入者（経年比較）】



記入者は、「本人」が86.3%、「家族」が8.8%となっている。前回調査と同様に、8割以上の方は、ご本人が調査に協力いただいている。(図1)

介護度別でみると、介護度が上がるほど「本人」が記入の割合は下がっており、要介護3以上では、5割以上の方が「家族」等の協力による回答となっている。(図1-a)

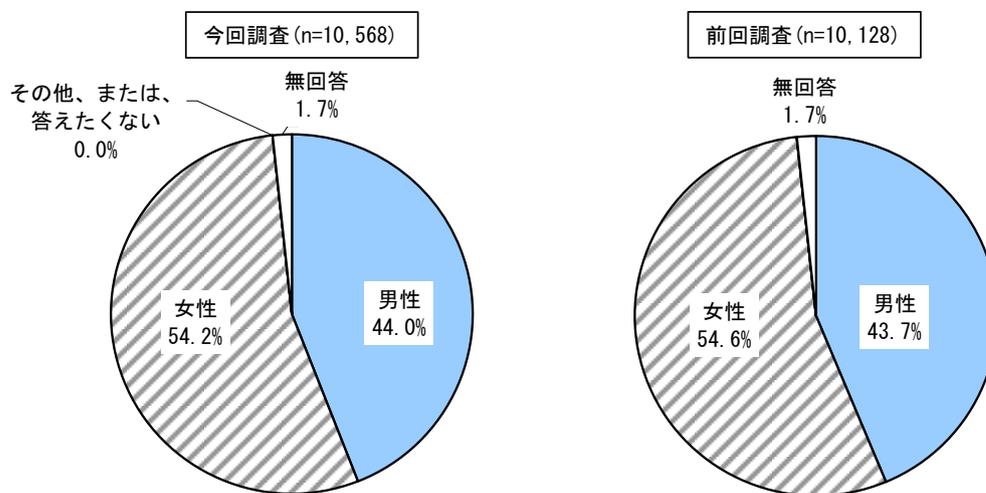
【図1-a 記入者（介護度別）】



問2 (1) 本人の性別

あなた（あて名ご本人：以降の質問も同じ）の性別、年齢などについておうかがいします。
あなたの性別をお答えください。（○はひとつ）

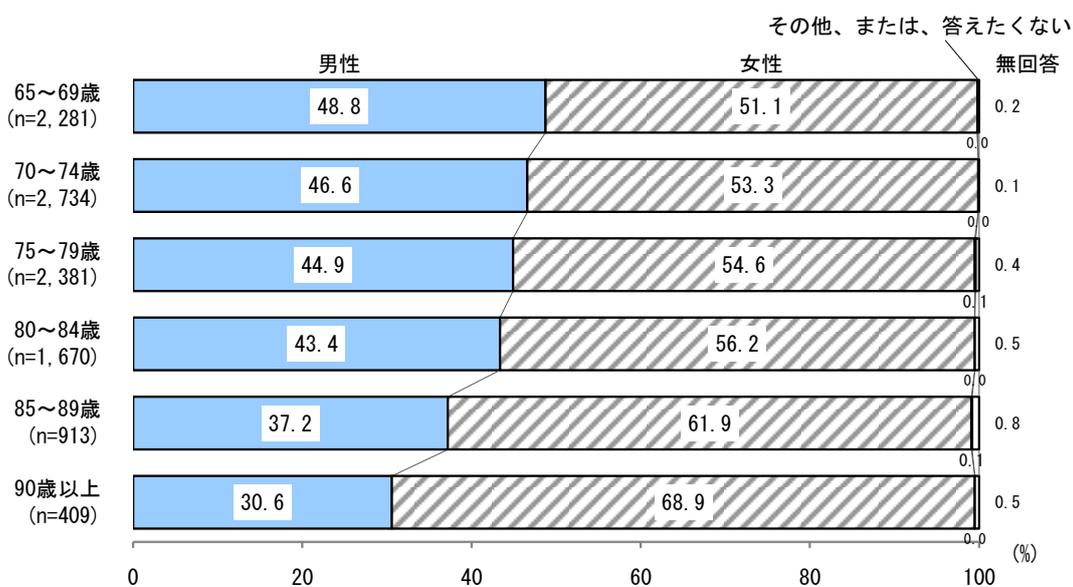
【図2(1) 本人の性別（経年比較）】



※「その他、または、答えたくない」は、今回調査の新規項目である。

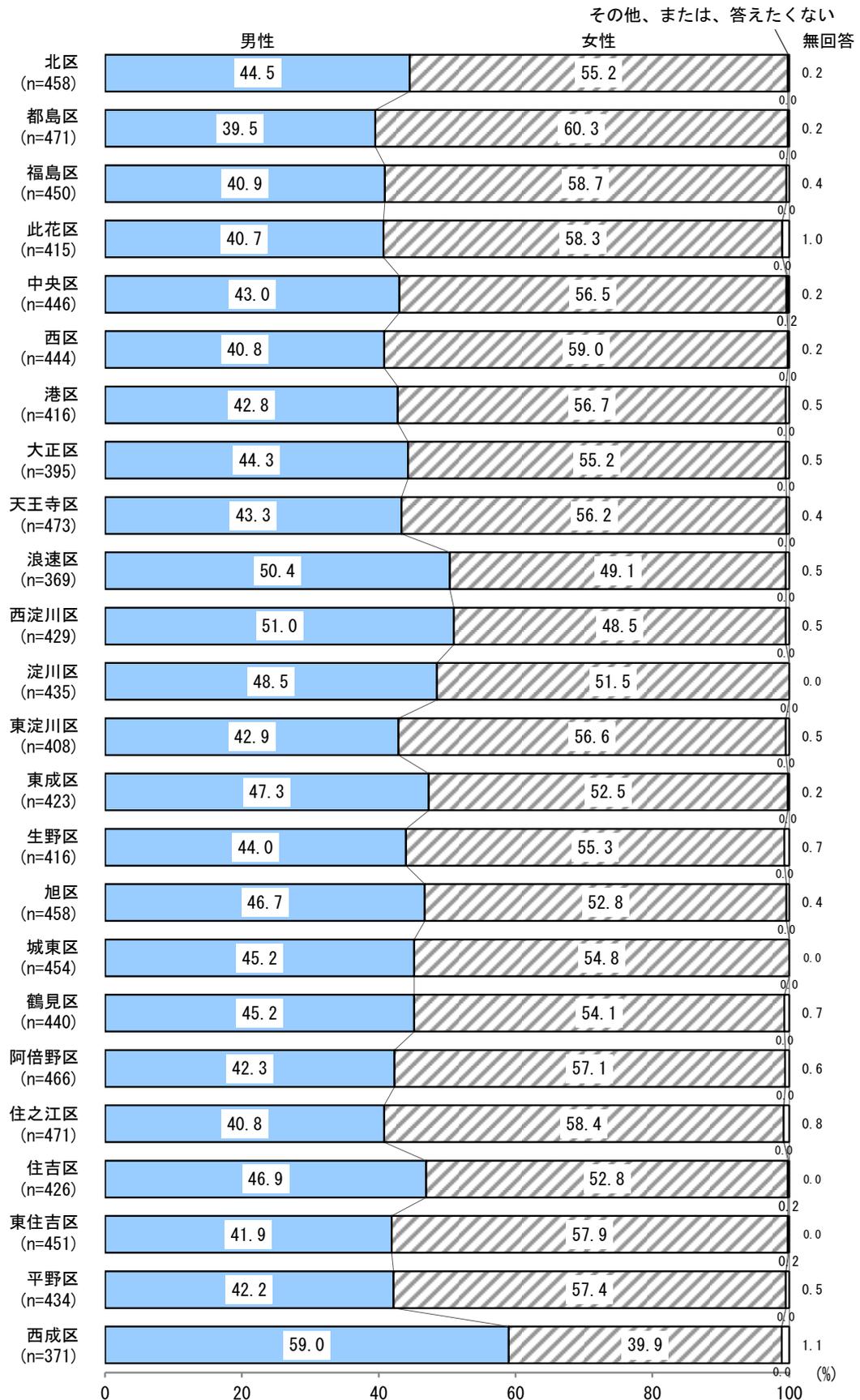
本人の性別では、「男性」より「女性」のほうが多くなっている。
前回調査と比較すると、回答者の性別の割合は、概ね前回調査と同様となっている。(図2(1))
年齢別にみると、高齢になるほど、男性の割合が低くなっている。(図2(1)-a)

【図2(1)-a 本人の性別（年齢別）】



居住区別でみると、男性は浪速区（50.4%）、西淀川区（51.0%）西成区（59.0%）で過半数を占めており、それ以外の区については女性のほうが多くなっている。（図2(1)-b）

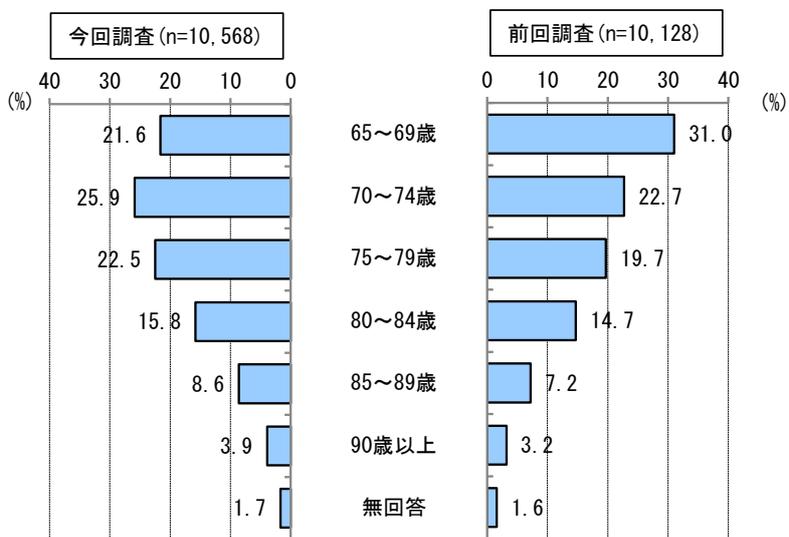
【図2(1)-b 調査回答者の性別（居住区別）】



問2 (2) 本人の年齢

あなたの年齢をお答えください。(〇はひとつ)

【図2(2) 本人の年齢（経年比較）】

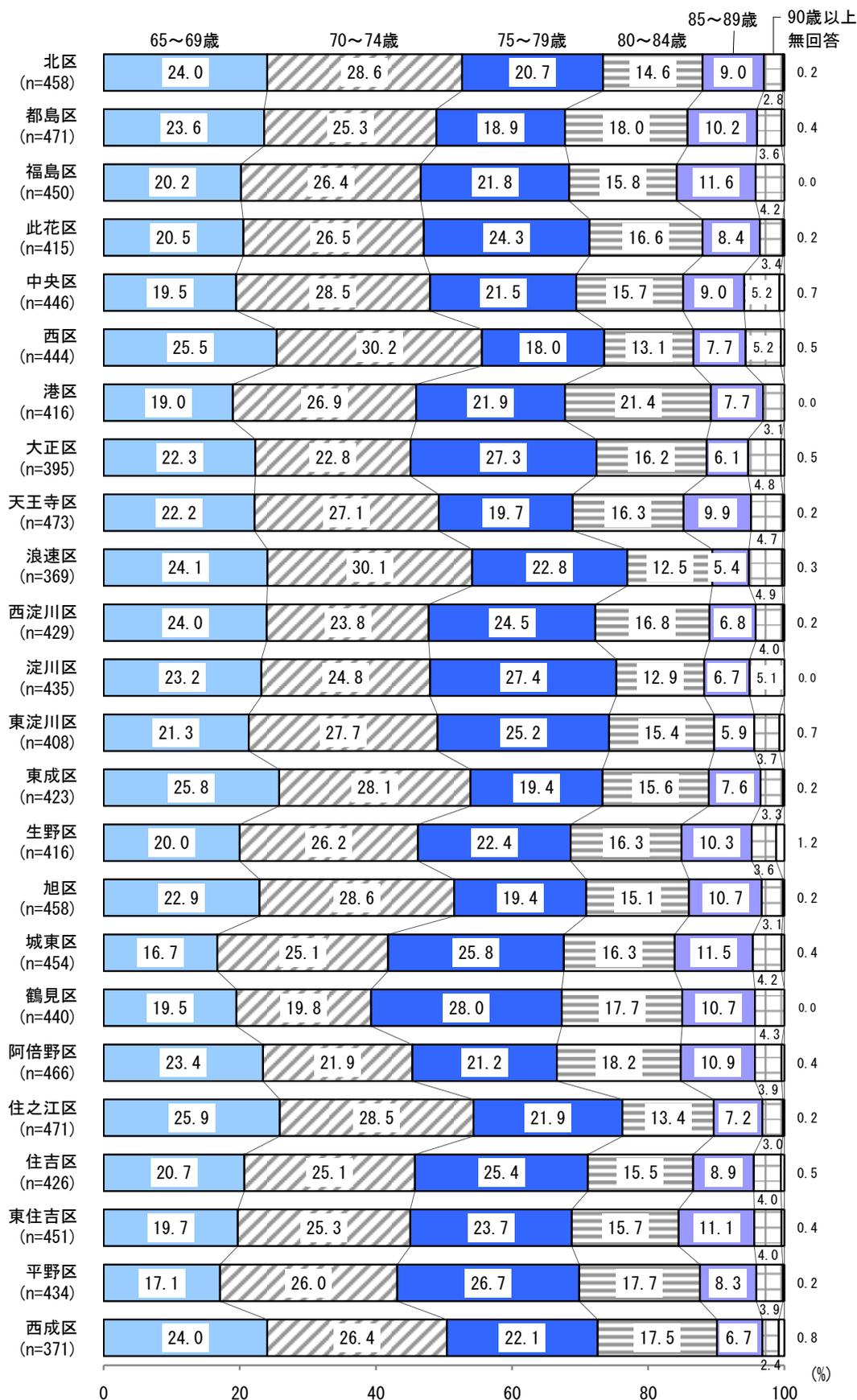


本人の年齢では、後期高齢者（75歳以上）が50.8%と5割を超えており、前期高齢者（65～74歳）は47.5%となっている。

前回調査と比較すると、「65～69歳」の割合が減少し、70歳以上の年代の割合がやや増えており、平均年齢が上がっている。(図2(2))

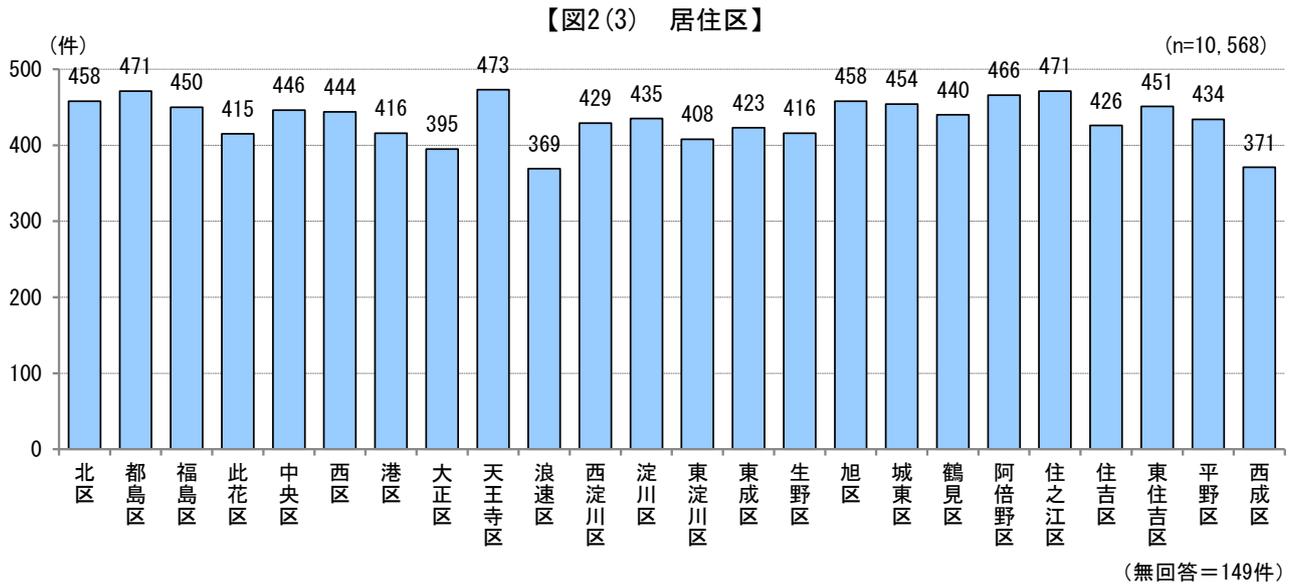
居住区別にみると、「65～69歳」は住之江区が25.9%で最も高い。65～74歳の前期高齢者は西区（55.7%）で最も高く、次いで住之江区（54.4%）となっている。（図2(2)-a）

【図2(2)-a 調査回答者の年齢（居住区別）】



問2(3) 居住区

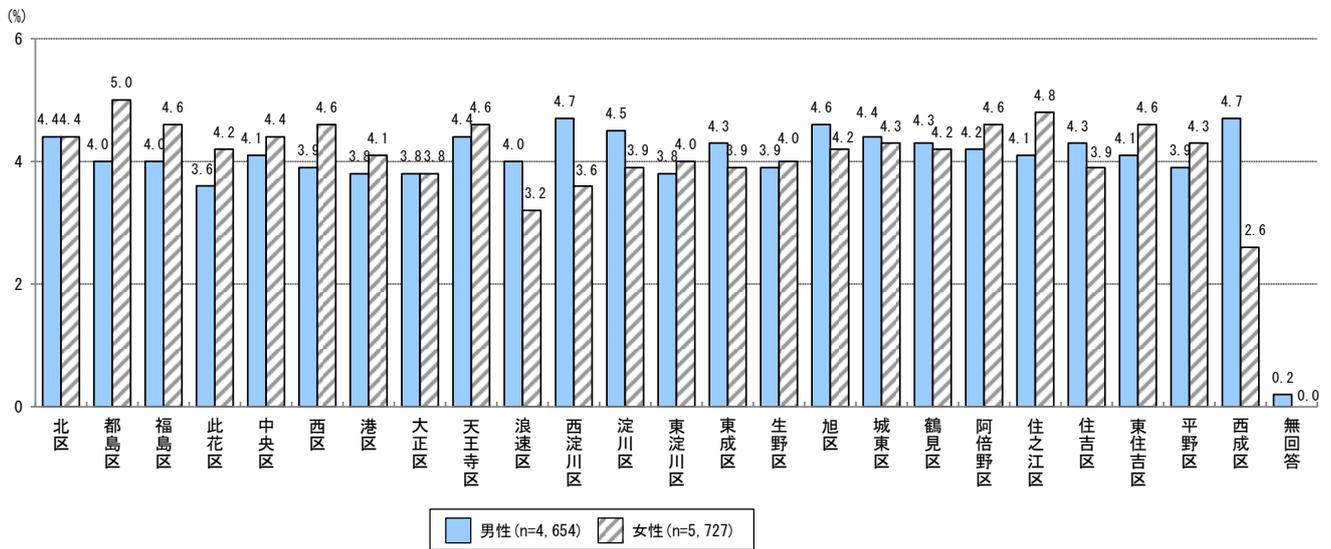
あなたのお住まいの区はどちらですか。(〇はひとつ)



居住区では、24区別に400件程度の回答を得ているが、「浪速区」と「西成区」の回答がやや少なくなっている。(図2(3))

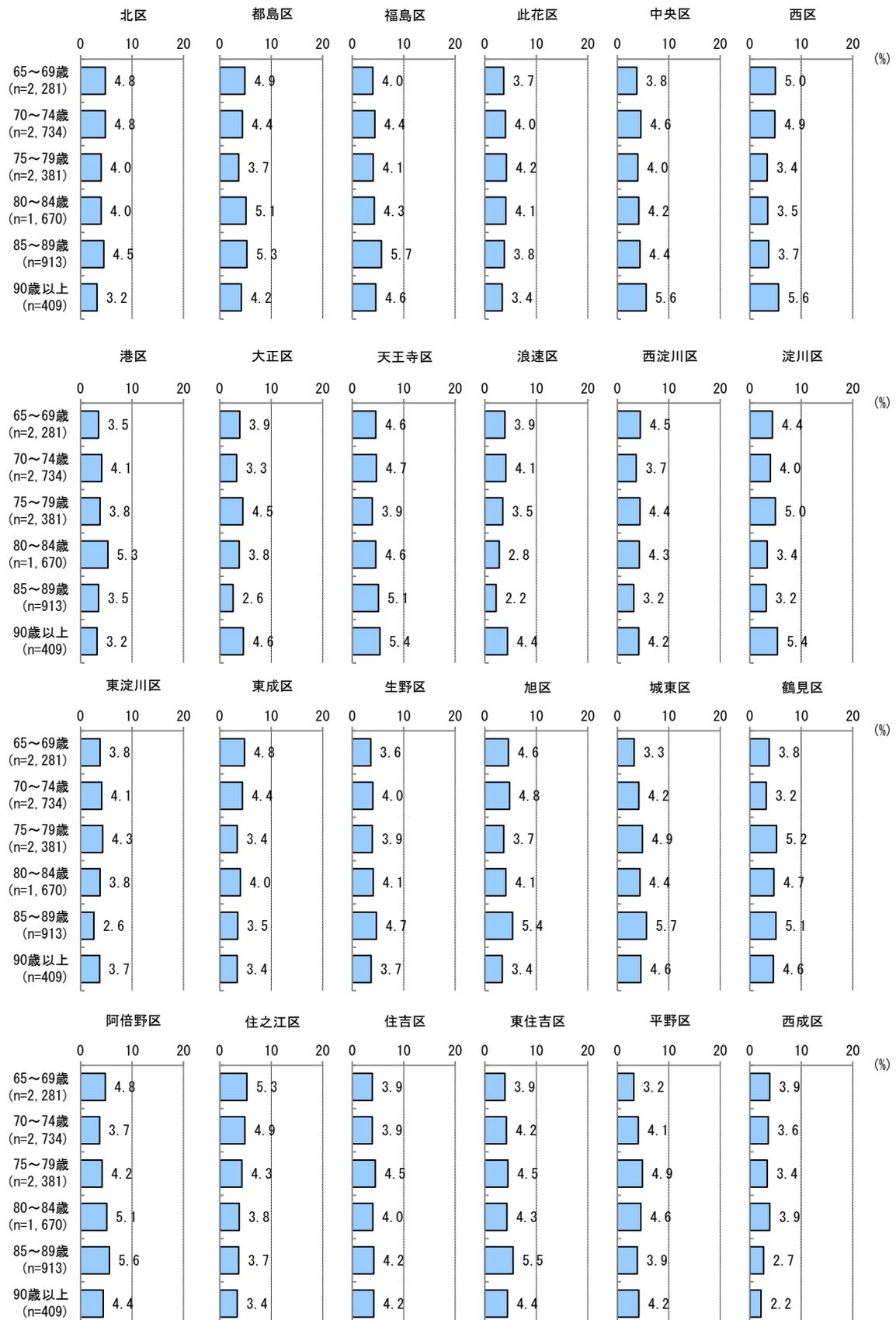
性別でみると、男性では「西淀川区」と「西成区」が4.7%で最も多く、女性は「都島区」が5.0%で最も多い。(図2(3)-a)

【図2(3)-a 居住区(性別)】



年齢別でみると、「中央区」、「西区」、「天王寺区」、「淀川区」では90歳以上が5%台と高くなっている。(図2(3)-b)

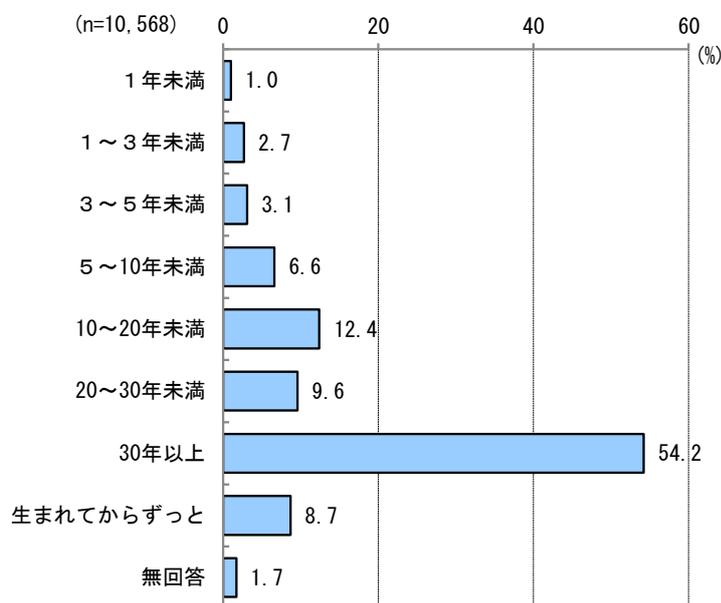
【図2(3)-b 居住区（年齢別）】



問2(4) 居住年数

あなたは、現在お住まいの区内に暮らし始めてどれくらい経ちますか。(〇はひとつ)

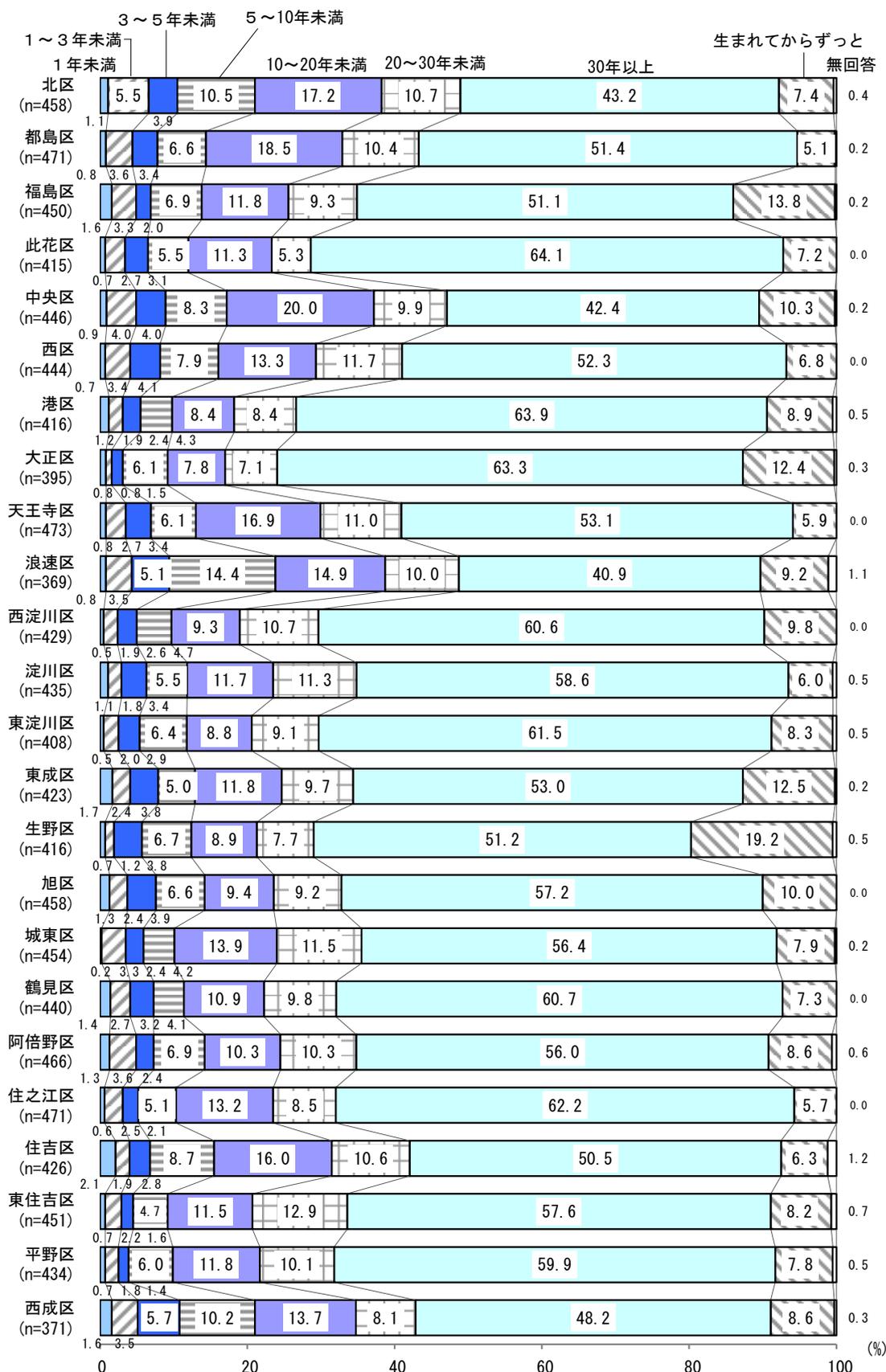
【図2(4) 居住年数】



現在住んでいる区にどれくらい住み続けているかについては、「30年以上」が54.2%で最も多く、次いで「10～20年未満」が12.4%、20～30年未満が9.6%となっている。(図2(4))

調査回答者の居住区における年数については、「生まれてからずっと」を含む30年以上の居住者が此花区、港区、大正区、西淀川区、生野区で7割を超えており、いずれの区も過半数を占めている。(図2(4)-a)

【図2(4)-a 居住年数(居住区別)】

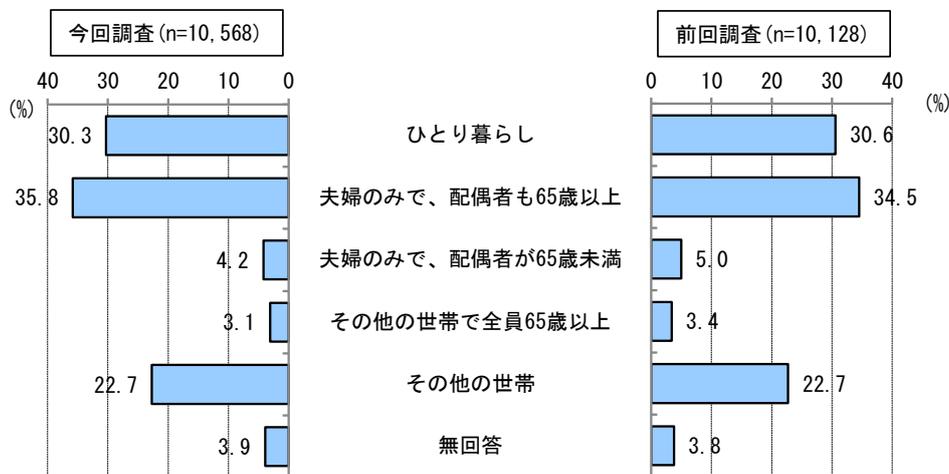


(2) 世帯・住まいの状況

問3 世帯状況

あなたの世帯の状況についてお答えください。(〇はひとつ)

【図3 世帯状況（経年比較）】

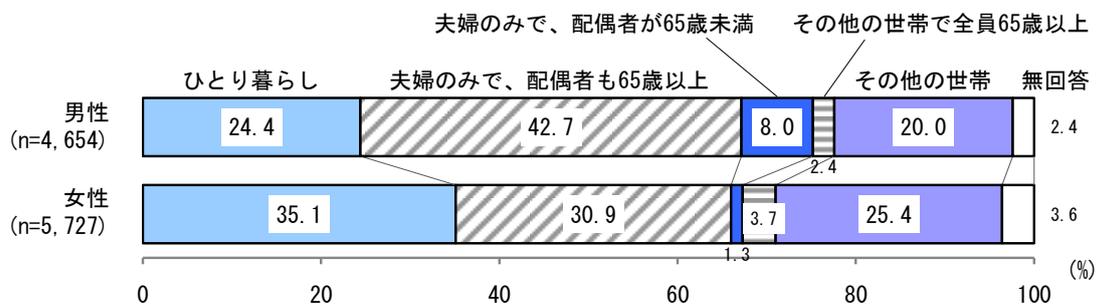


世帯状況については、「夫婦のみで、配偶者も65歳以上」が35.8%で最も多く、次いで「ひとり暮らし」が30.3%となっている。

前回調査と比較すると、傾向は変わらない。(図3)

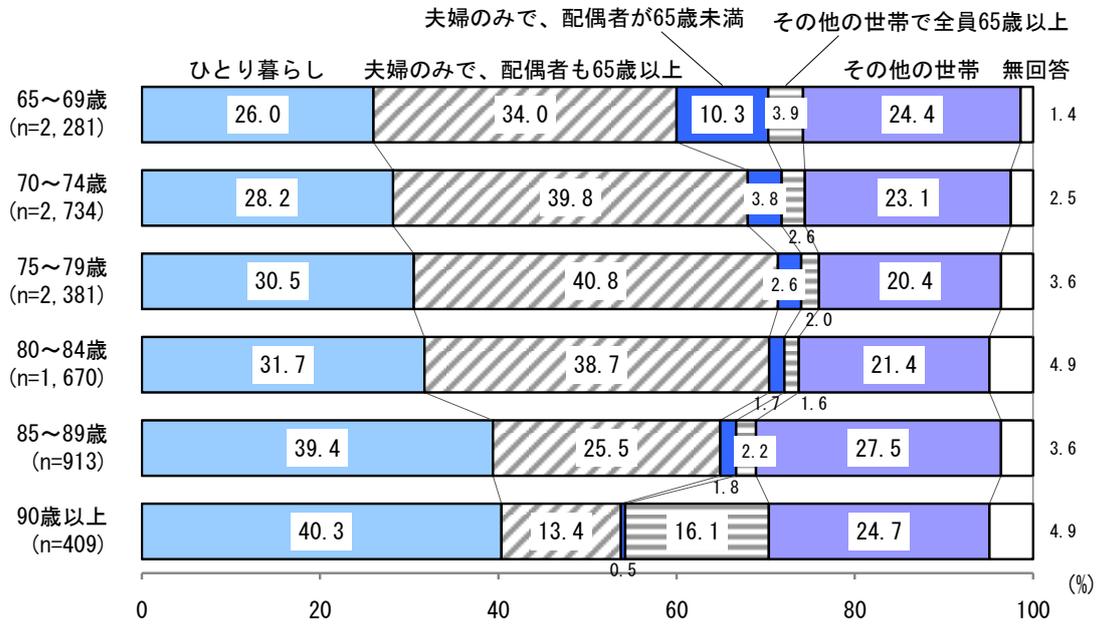
性別でみると、「ひとり暮らし」は、男性(24.4%)に比べ女性(35.1%)のほうが10.7ポイント高くなっている。(図3-a)

【図3-a 世帯の状況（性別）】



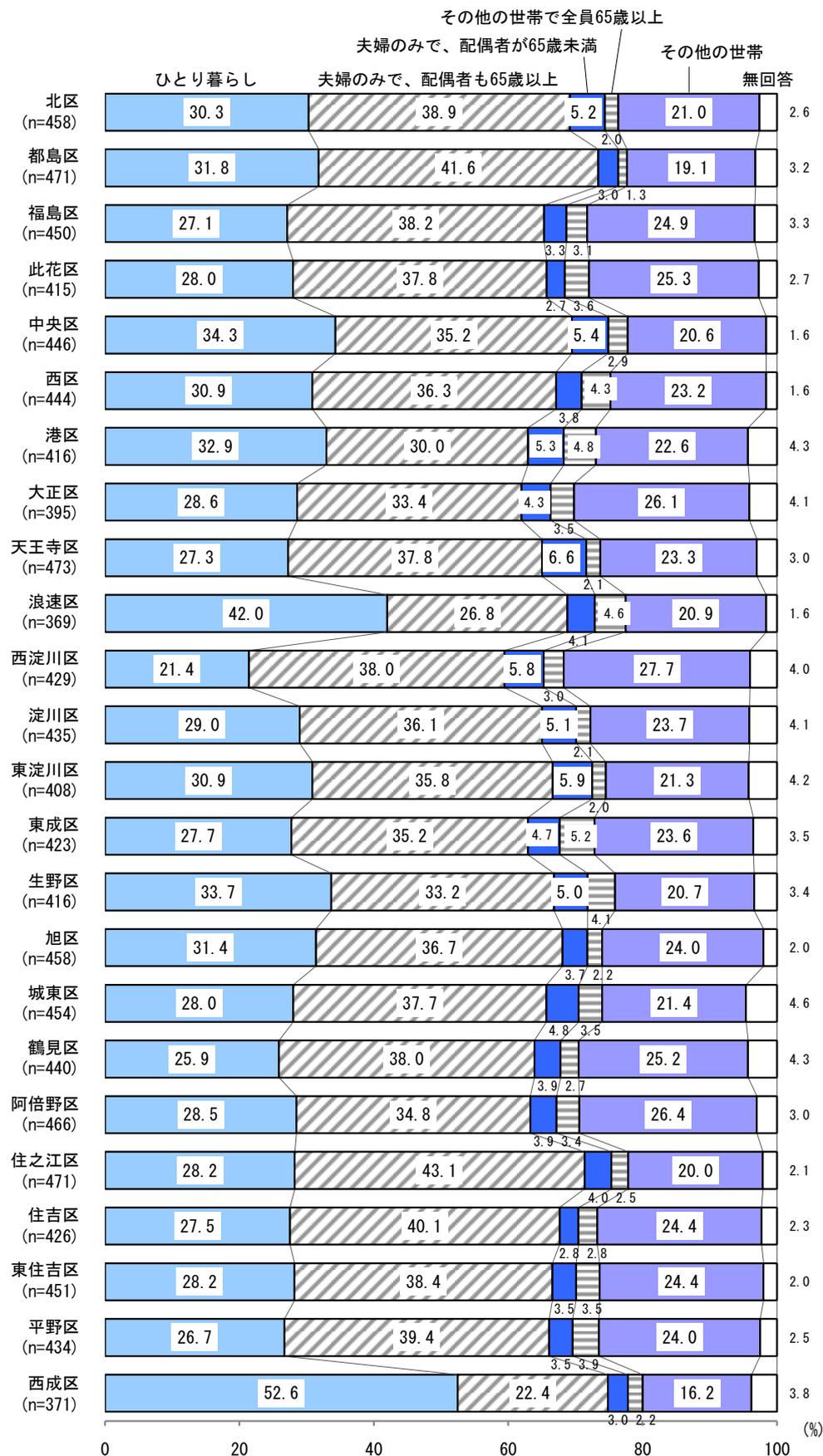
年齢別では、概ね高齢になるほど、「ひとり暮らし」の割合が増え、『夫婦のみ世帯』の割合が減少する。また、90歳以上では、「その他の世帯で、全員65歳以上」が他よりも高い。(図3-b)

【図3-b 世帯の状況（年齢別）】



居住区別でみると、「ひとり暮らし」は西成区が52.6%で最も高く、次いで浪速区が42.0%となっている。「夫婦のみで、配偶者も65歳以上」は住之江区が43.1%で最も高くなっている。
 (図3-c)

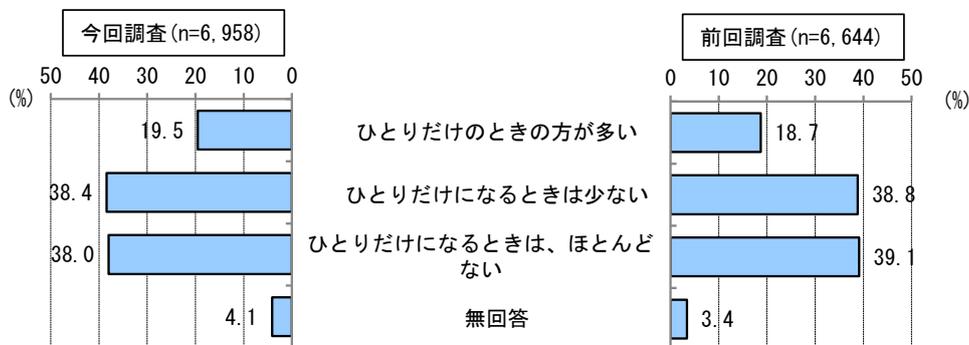
【図3-c 世帯の状況（居住区別）】



問3-1 昼間の状況

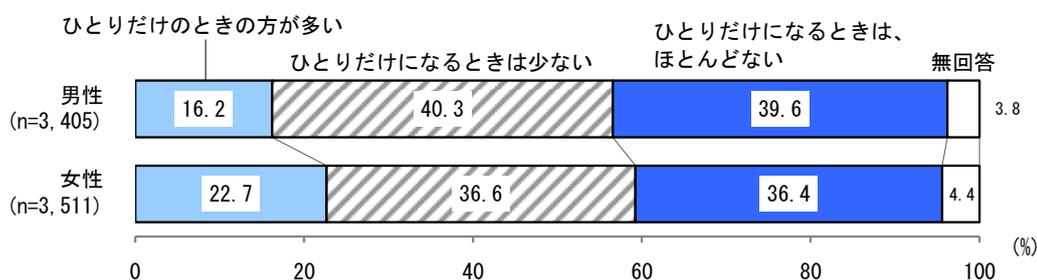
【問3で「2～5」と回答された方におうかがいします。
あなたの昼間の状況は、次のどれにあてはまりますか。(○はひとつ)

【図3-1 昼間の状況（経年比較）】



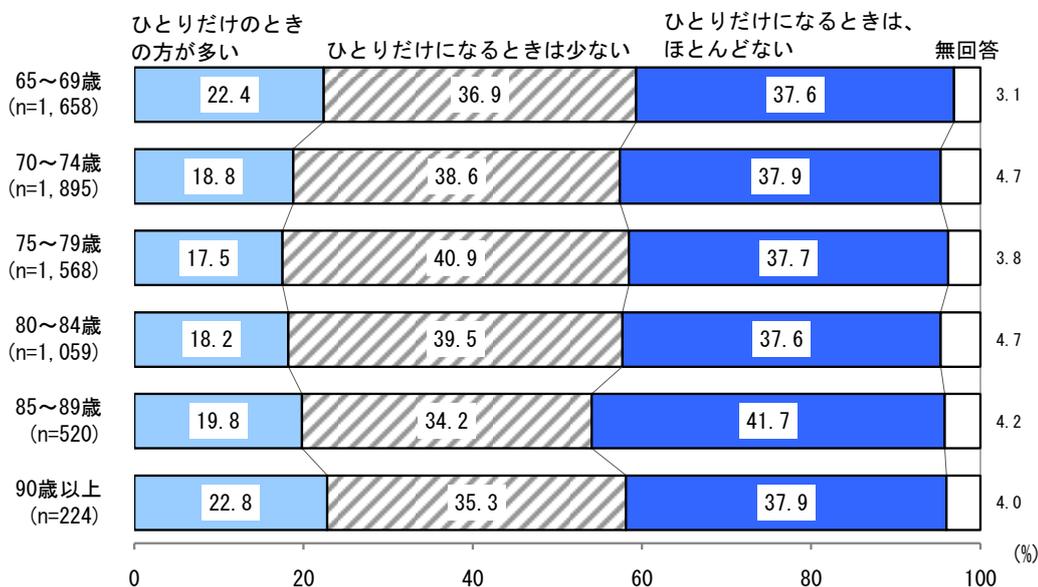
同居者のいる世帯の回答者に、昼間の状況についてたずねると、「ひとりだけになるときは少ない」と「ひとりだけになるときは、ほとんどない」をあわせると76.4%となっている。前回調査と比較すると、全体的には、概ね前回と同様の構成割合となっている。(図3-1) 性別でみると、男性よりも女性のほうが、「ひとりだけのときの方が多い」の回答割合が高くなっている。(図3-1-a)

【図3-1-a 昼間独居の状況（性別）】



年齢別では、「ひとりだけのときの方が多い」は90歳以上で回答割合が最も高くなっている。(図3-1-b)

【図3-1-b 昼間独居の状況（年齢別）】

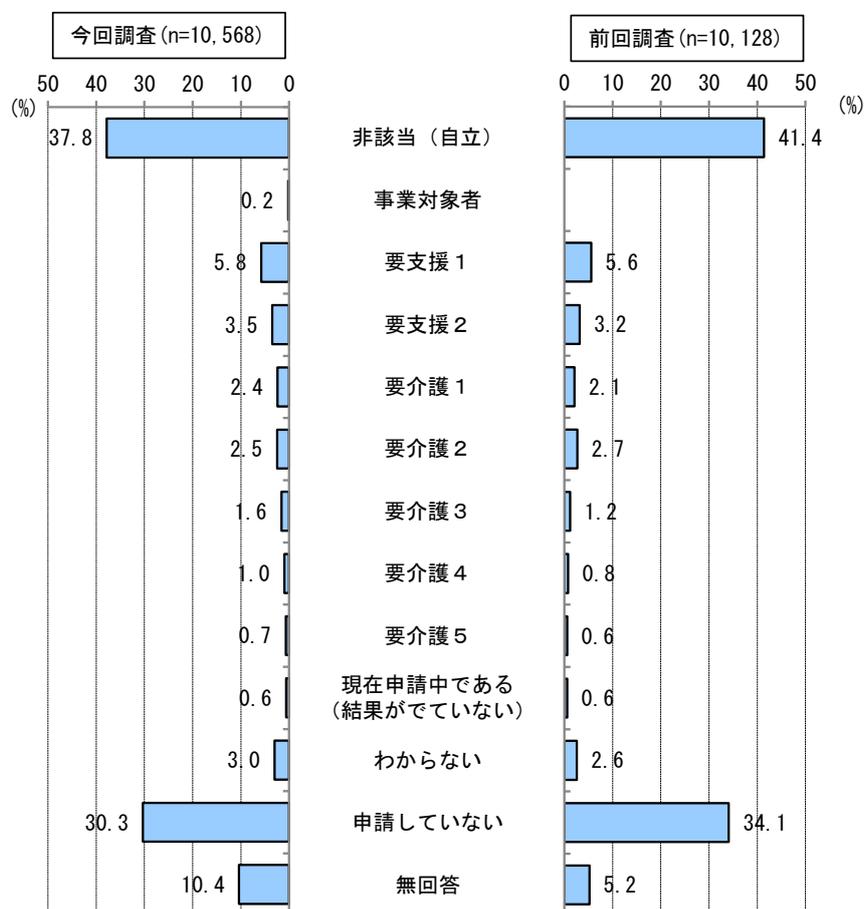


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問4 要介護・要支援認定状況

あなたの介護保険の申請、認定状況は、次のどれにあてはまりますか。(〇はひとつ)

【図4 要介護・要支援認定状況（経年比較）】



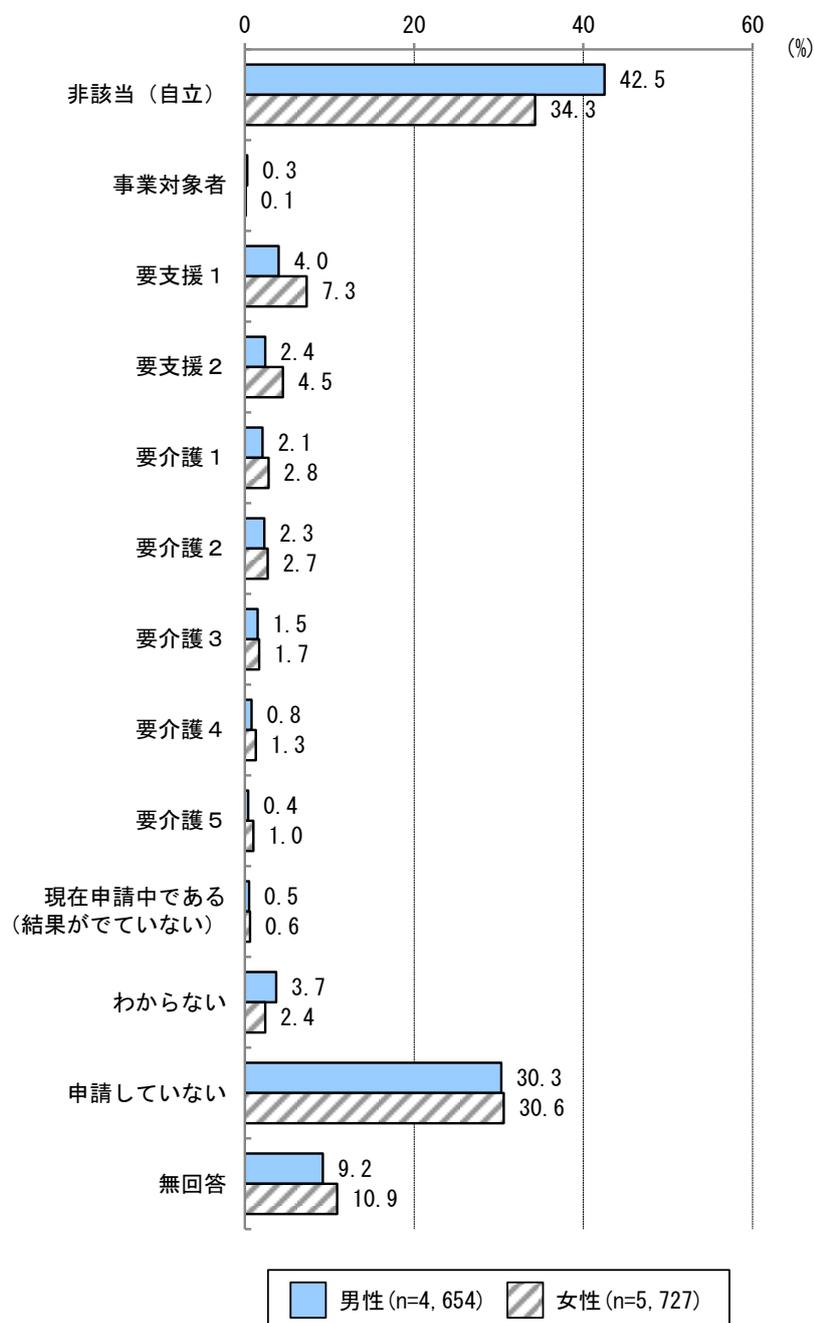
※「事業対象者」は、今回調査の新規項目である。

要介護・要支援認定状況については、「非該当（自立）」が37.8%で最も多く、次いで申請していない」が30.3%となっており、2つをあわせると7割近くになる。また、認定を受けている方の中では、「要支援1」「要支援2」「要介護2」の順に多く、比較的軽度のほうが多くなっている。

前回調査と比較すると、「非該当（自立）」の割合は3.6ポイント、「申請していない」の割合は3.8ポイントそれぞれ低くなっている。(図4)

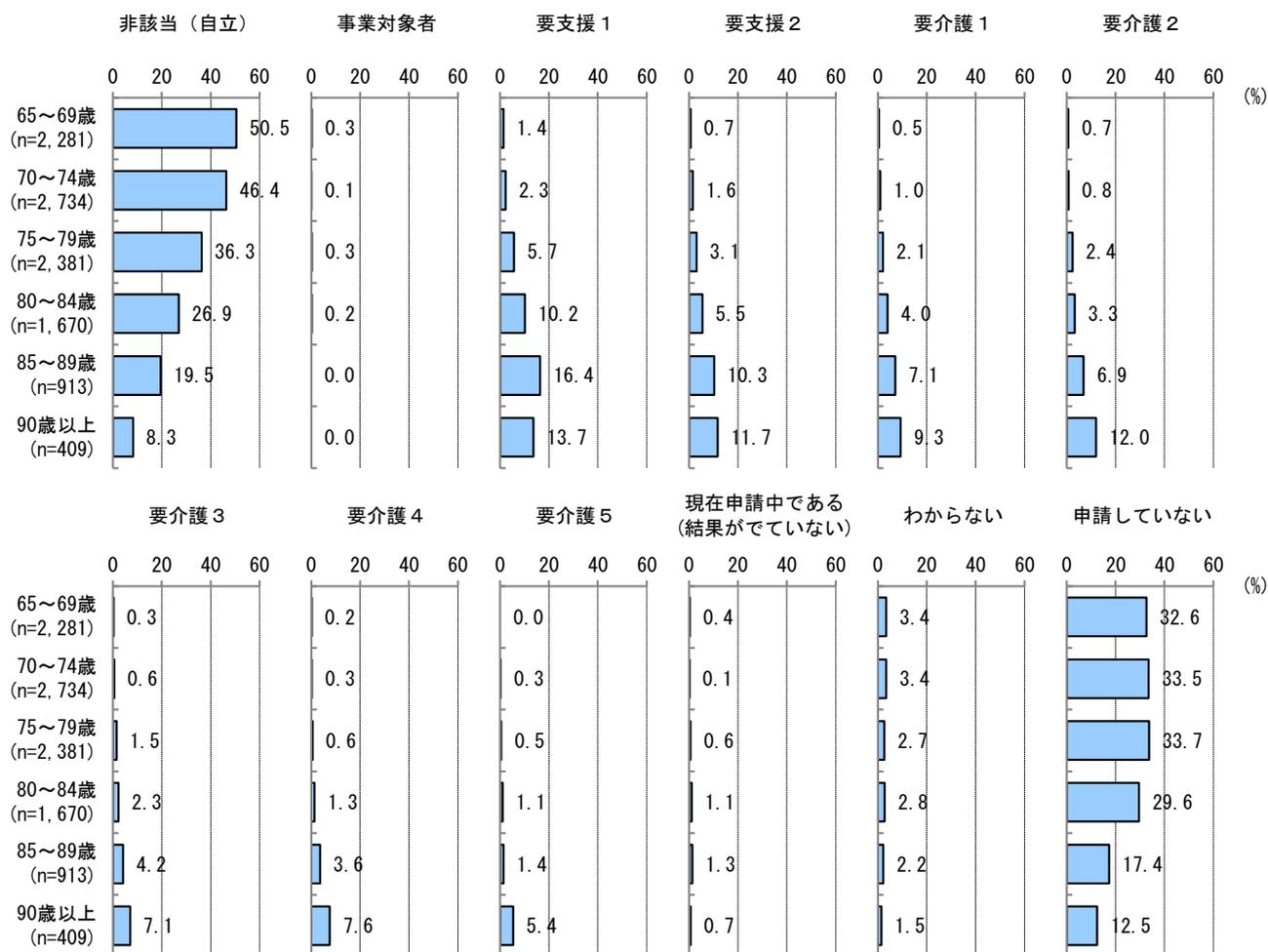
性別で見ると、男性では、「非該当（自立）」の回答割合が女性より高く、「要介護（要支援）認定を受けている方」の回答割合は概ね女性のほうが高い。（図4-a）

【図4-a 介護保険の申請・認定の状況（性別）】



年齢別では、要支援2～要介護5では高齢になるほど割合が高くなる傾向にある。90歳以上では「要支援1」の回答割合が最も高くなっている。(図4-b)

【図4-b 介護保険の申請・認定の状況（年齢別）】

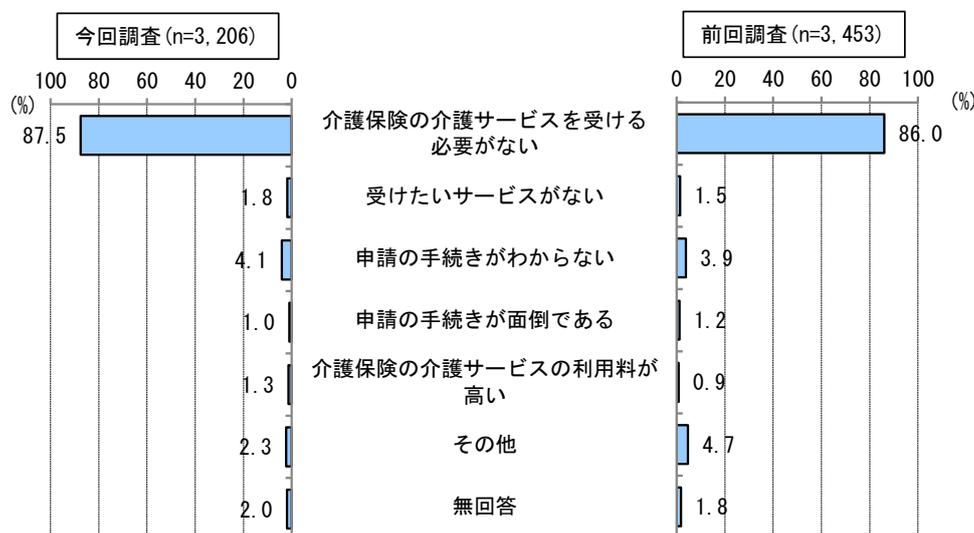


問4-1 介護保険の認定申請をしていない理由

【問4で「12 申請していない」と回答された方におうかがいします。】

あなたが介護保険の認定申請をしていない理由は何ですか。(〇はひとつ)

【図4-1 介護保険の認定申請をしていない理由（経年比較）】

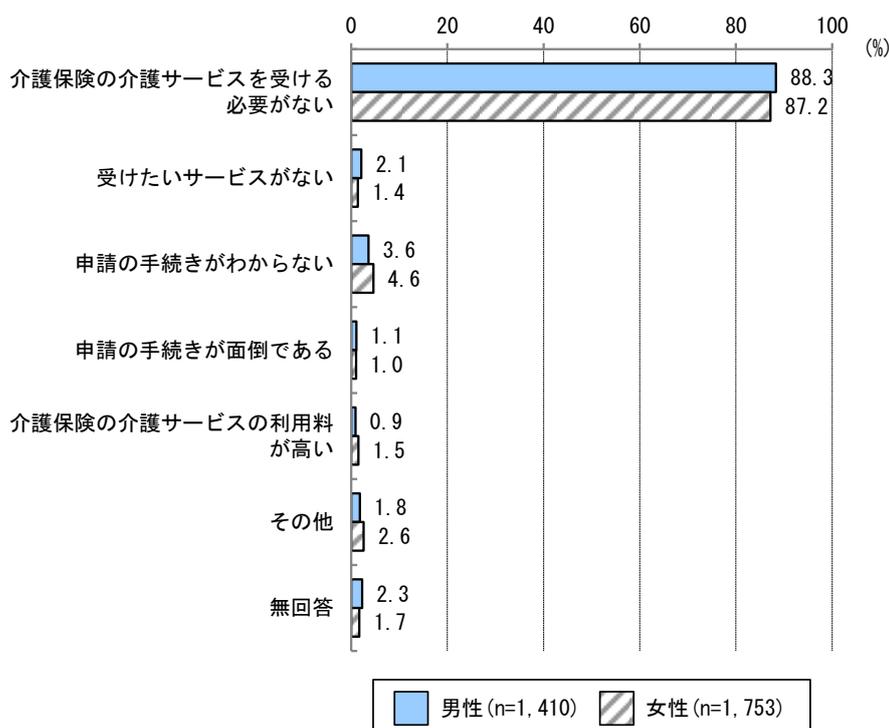


介護保険を申請していないと回答した人に、その理由をたずねると、「介護保険の介護サービスを受ける必要がない」が87.5%で大部分を占めている。

前回調査と比較しても、傾向は変わらない。(図4-1)

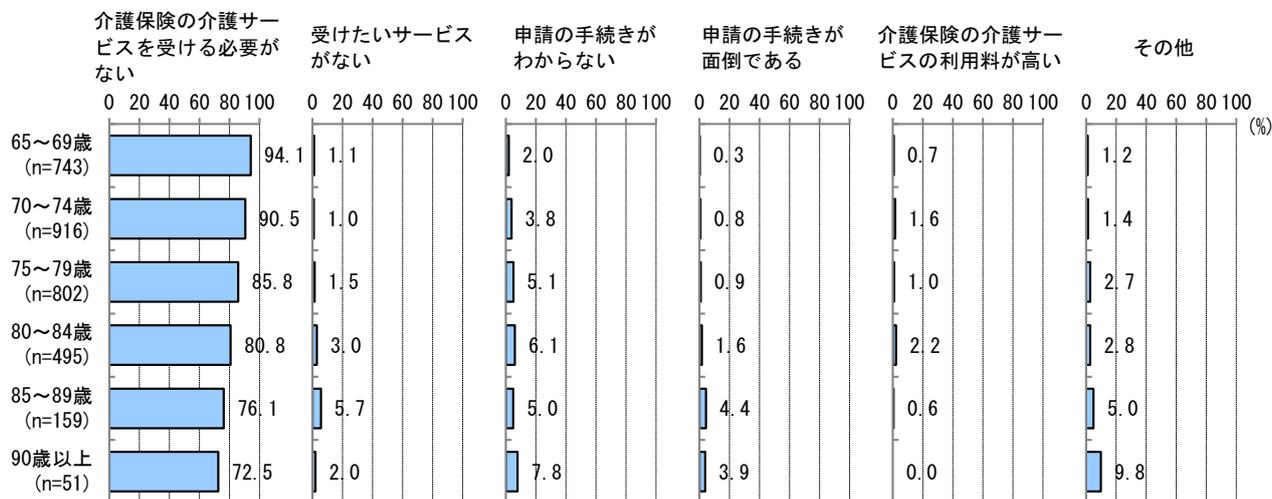
性別でみると、「介護保険の介護サービスを受ける必要がない」の回答割合は男性のほうが高くなっている。(図4-1-a)

【図4-1-a 申請をしていない理由（性別）】



年齢別で見ると、概ね高齢になるほど「介護保険の介護保険サービスを受ける必要がない」の回答割合が低くなっている。また、90歳以上では、「申請の手続きがわからない」の回答割合が他よりも高い。(図4-1-b)

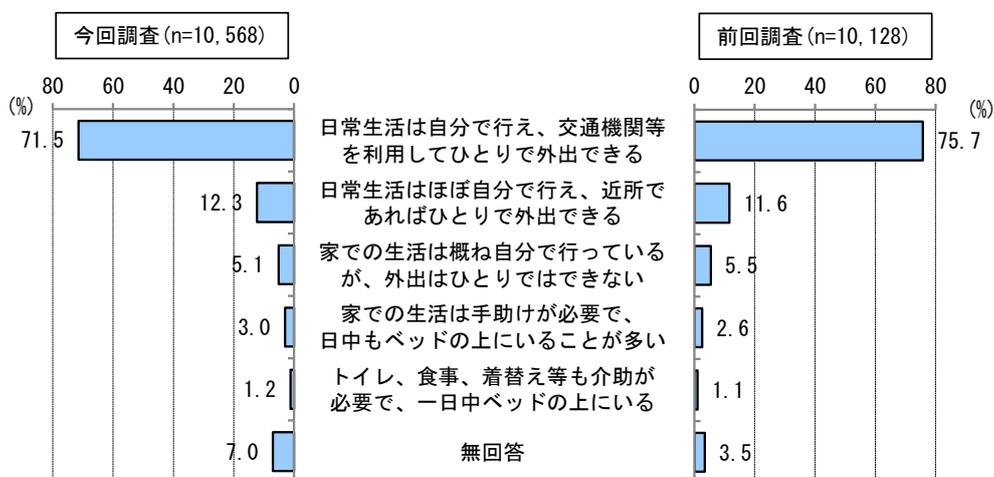
【図4-1-b 申請をしていない理由（年齢別）】



問5 日常生活の状況

あなたの日常生活の状況は、次のどれにあてはまりますか。(○はひとつ)

【図5 日常生活の状況（経年比較）】

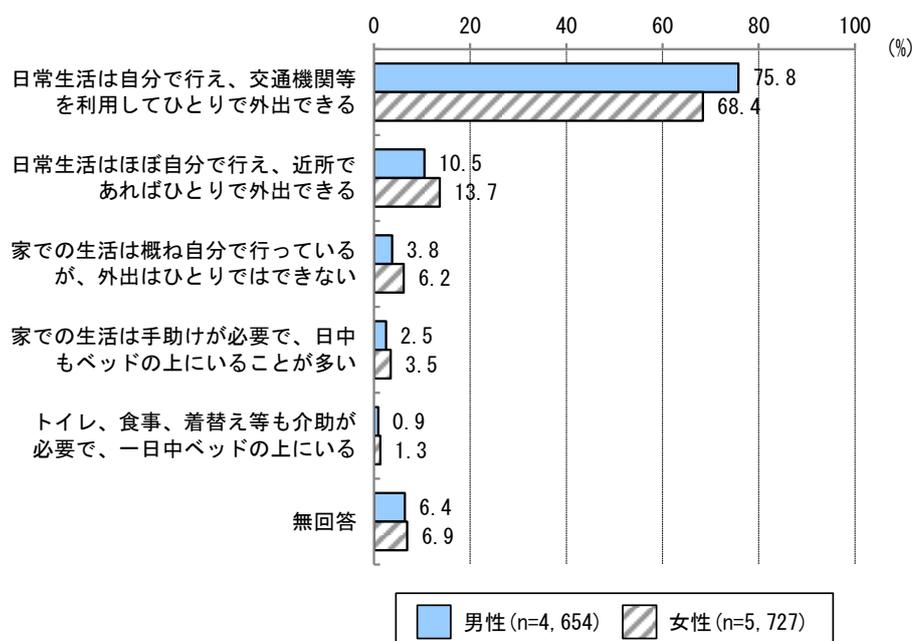


日常生活の状況については、「日常生活は自分で行え、交通機関等を利用してひとりで外出できる」が71.5%で最も多く、次いで「日常生活はほぼ自分で行え、近所であればひとりで外出できる」が12.3%となっている。

前回調査と比較すると、「日常生活は自分で行え、交通機関等を利用してひとりで外出できる」が4.2ポイント低くなっている。(図5)

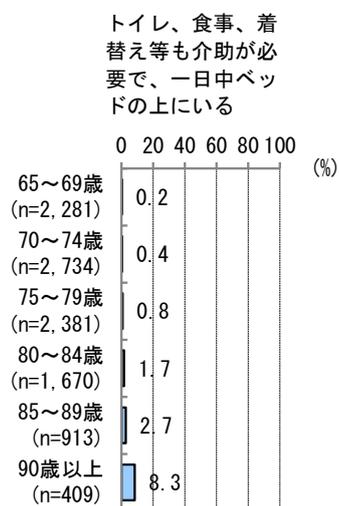
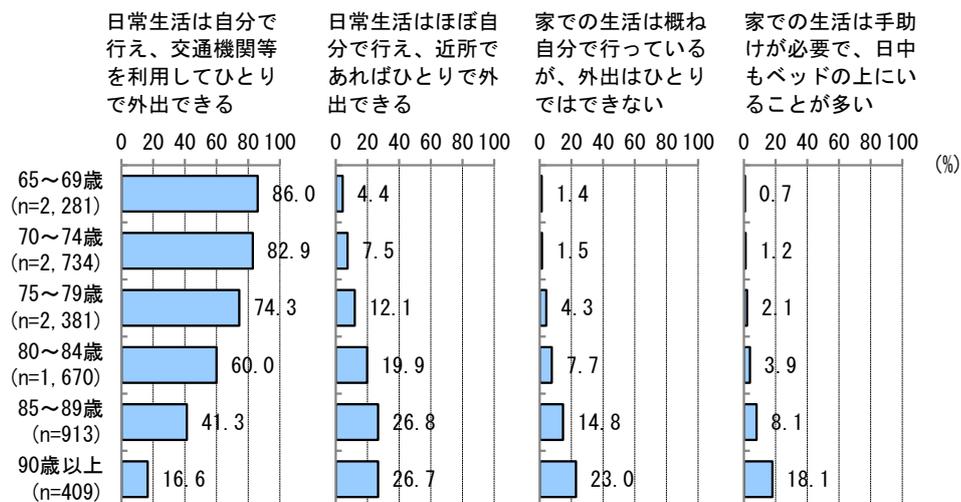
性別でみると、「日常生活は自分で行え、交通機関等を利用してひとりで外出できる」割合は、女性よりも男性のほうが高い。(図5-a)

【図5-a 日常生活動作・日常的な活動の状況（性別）】



年齢別にみると、高齢になるほど、介護や援助が必要な状態が高くなっている。(図5-b)

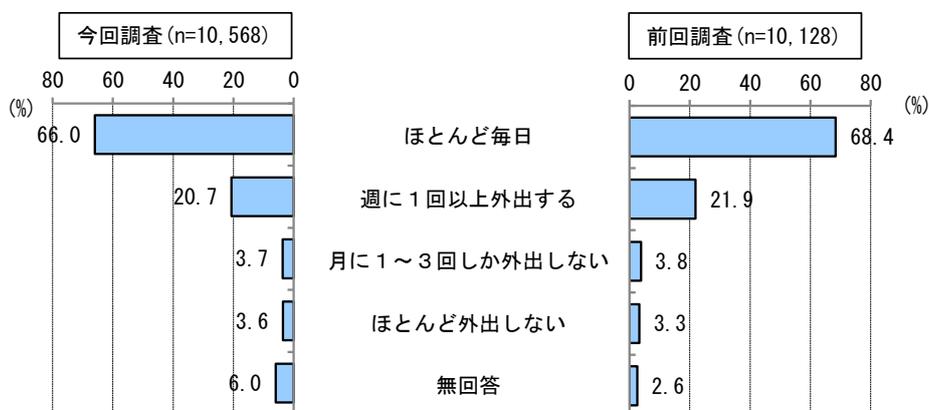
【図5-b 日常生活動作・日常的な活動の状況（年齢別）】



問6 外出の頻度

あなたは、買い物や散歩を含め、どれくらい外出しますか。(〇はひとつ)

【図6 外出の頻度（経年比較）】

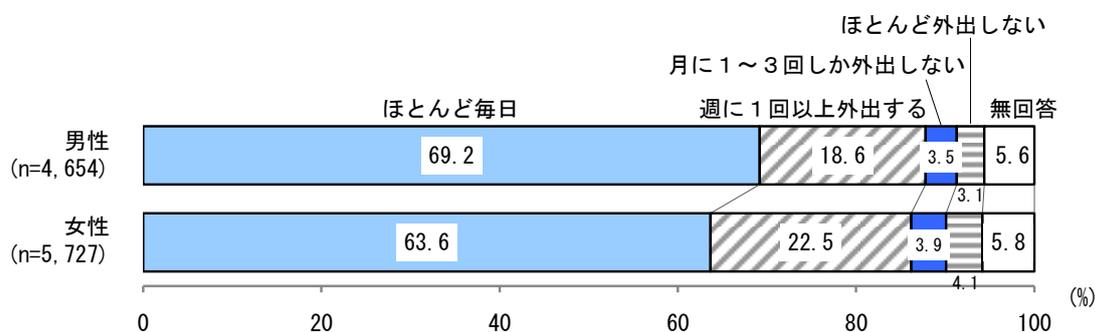


外出の頻度については、「ほとんど毎日」が66.0%で最も多く、次いで「週に1回以上外出する」が20.7%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。(図6)

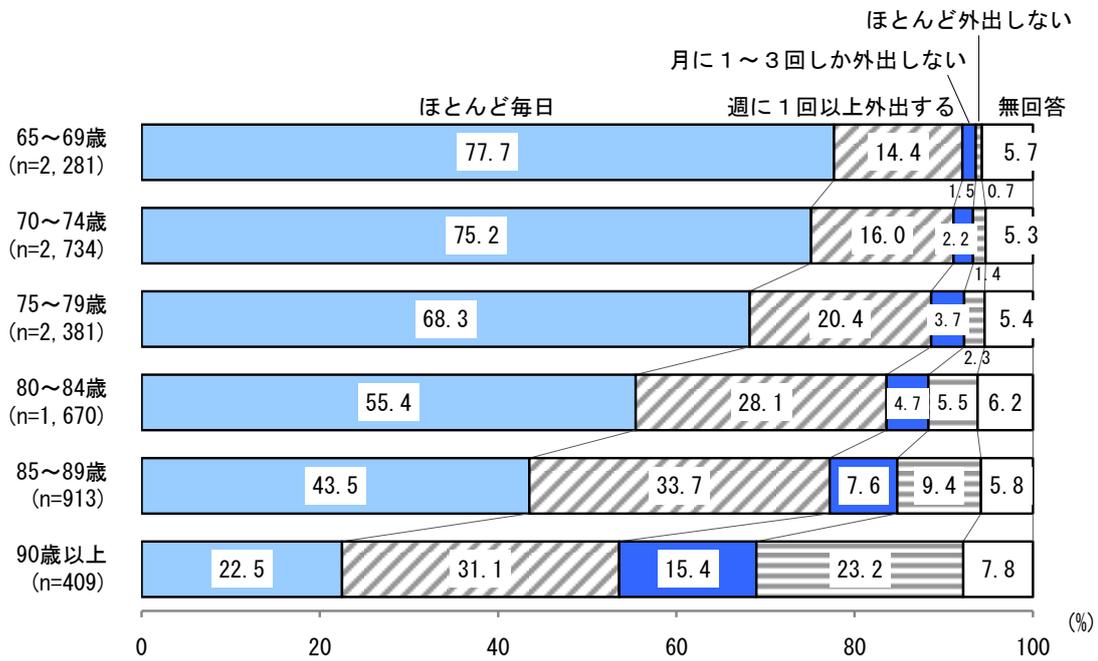
性別でみると、「ほとんど毎日」の回答割合は女性より男性のほうが高い。(図6-a)

【図6-a 外出の頻度（性別）】



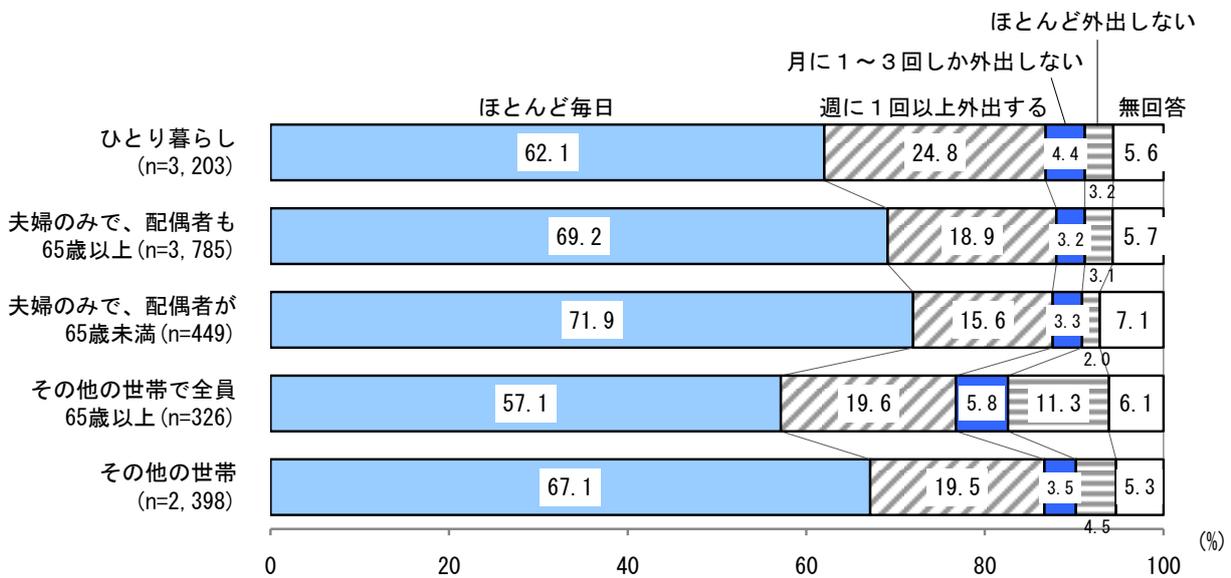
年齢別にみると、外出の頻度は、高齢になるほど少なくなっているが、90歳以上でも約5割の方が週に1回以上外出しているとの回答となっている。(図6-b)

【図6-b 外出の頻度（年齢別）】



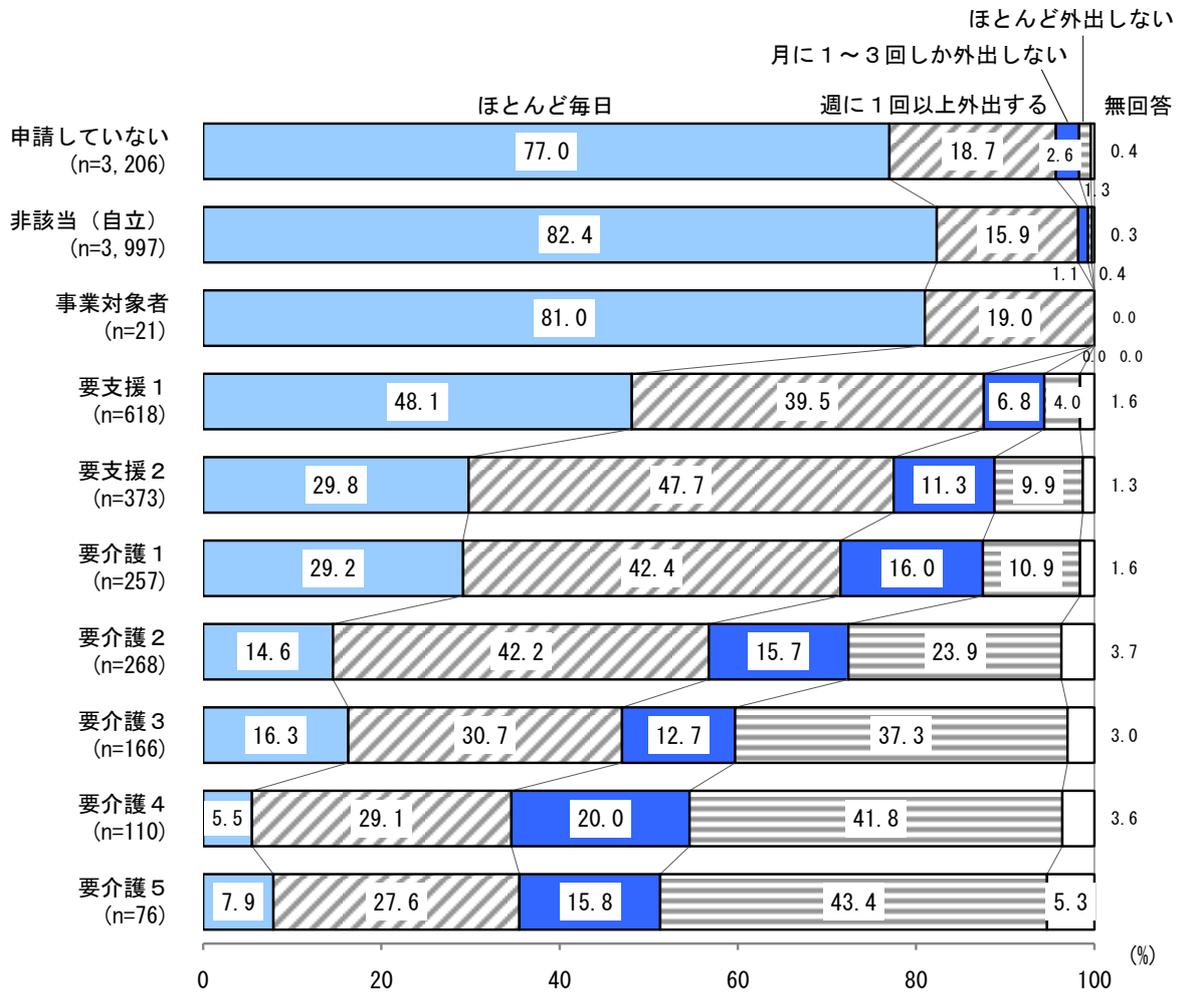
世帯状況別でみると、いずれの世帯も「ほとんど毎日」が過半数を占めているが、なかでも夫婦のみの世帯で約7割と高い。(図6-c)

【図6-c 外出の頻度（世帯状況別）】



介護度別でみると、「ほとんど毎日」は“申請していない”と“非該当（自立）”、“事業対象者”で8割前後を占めて高く、介護度が上がるほど外出頻度が少なくなる傾向にある。（図6-d）

【図6-d 外出の頻度（介護度別）】

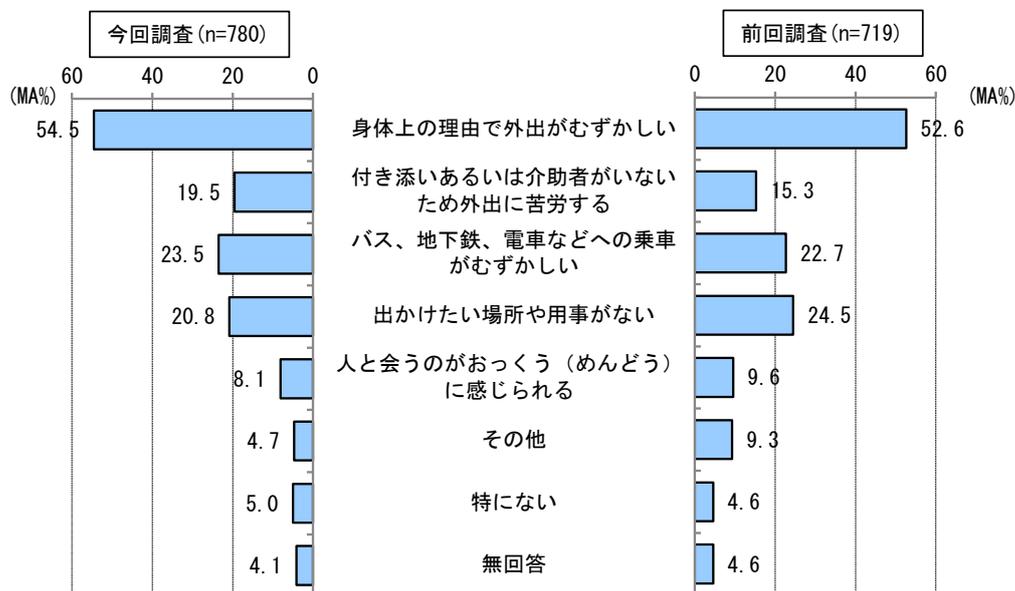


問6-1 外出しない理由

【問6で「3～4」と回答された方におうかがいします。】

外出しない（外出が少ない）理由は何ですか。（〇はいくつでも）

【図6-1 外出しない理由（経年比較）】



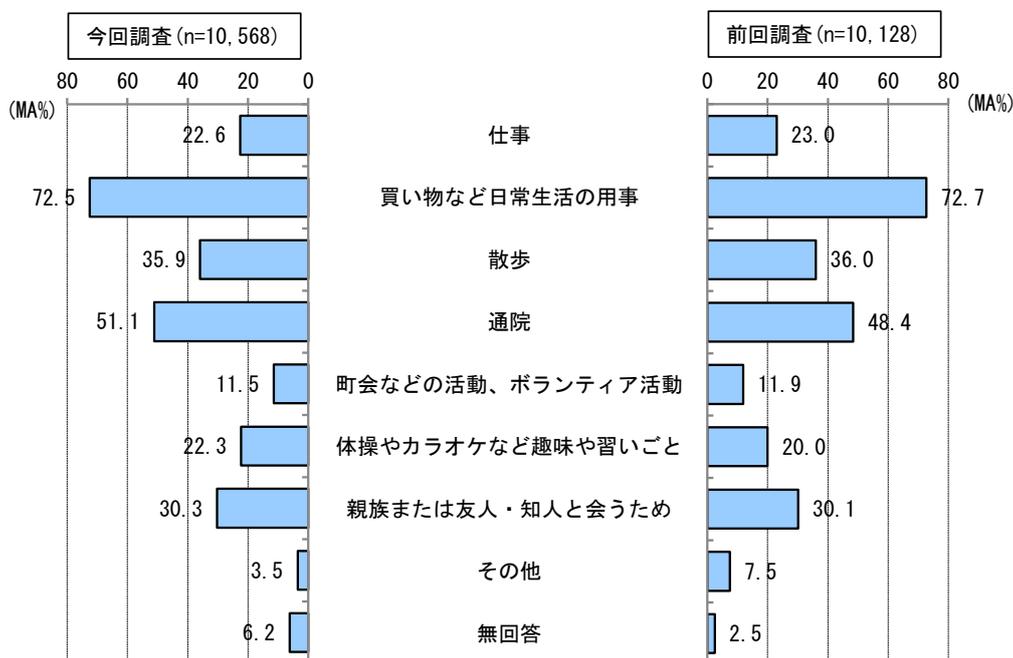
週に1回も外出しないと回答した人に、その理由をたずねると、「身体上の理由で外出がむずかしい」が54.5%で最も多く、次いで「バス・地下鉄、電車などへの乗車がむずかしい」が23.5%、「出かけたい場所や用事がない」が20.8%となっている。

前回調査と比較すると、「付き添いあるいは介助者がいないため外出に苦勞する」が4.2ポイント高くなっている。（図6-1）

問7 外出の目的

あなたは、外出するときは、どのような目的で外出しますか。(〇はいくつでも)

【図7 外出の目的（経年比較）】

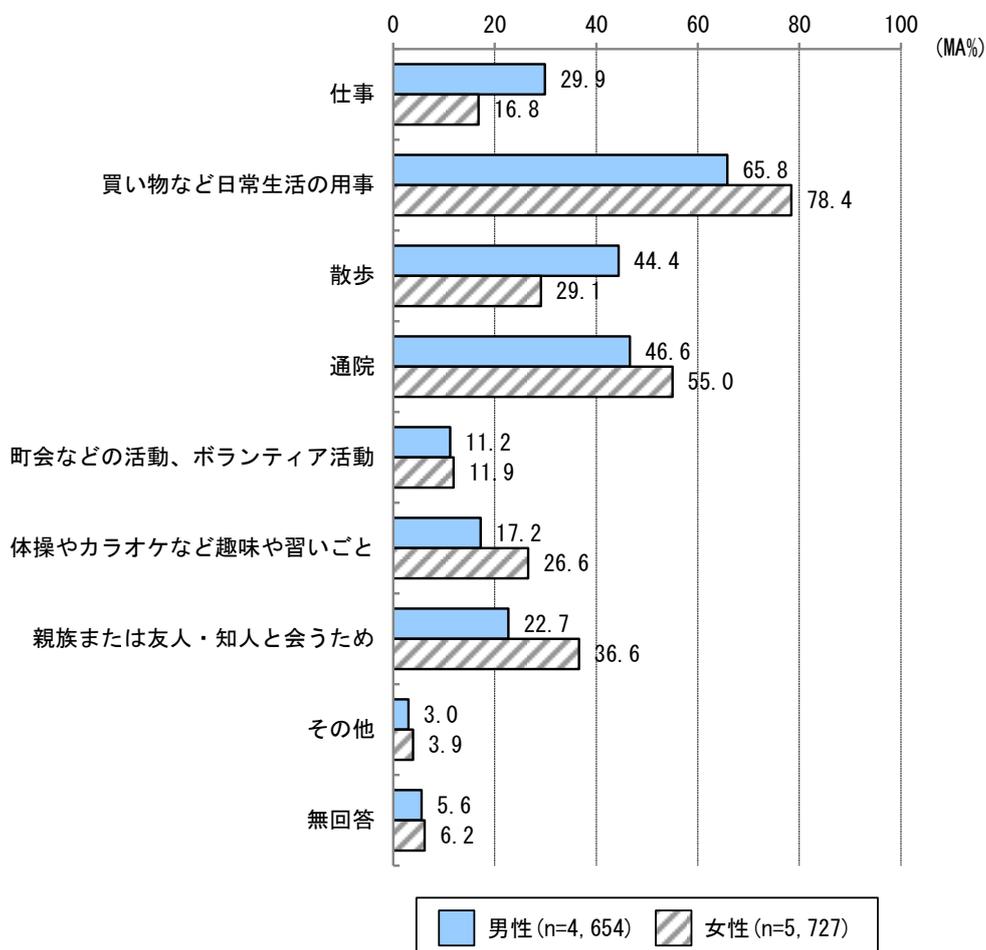


外出の目的については、「買い物など日常生活の用事」が72.5%で最も多く、次いで「通院」が51.1%、「散歩」が35.9%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(図7)

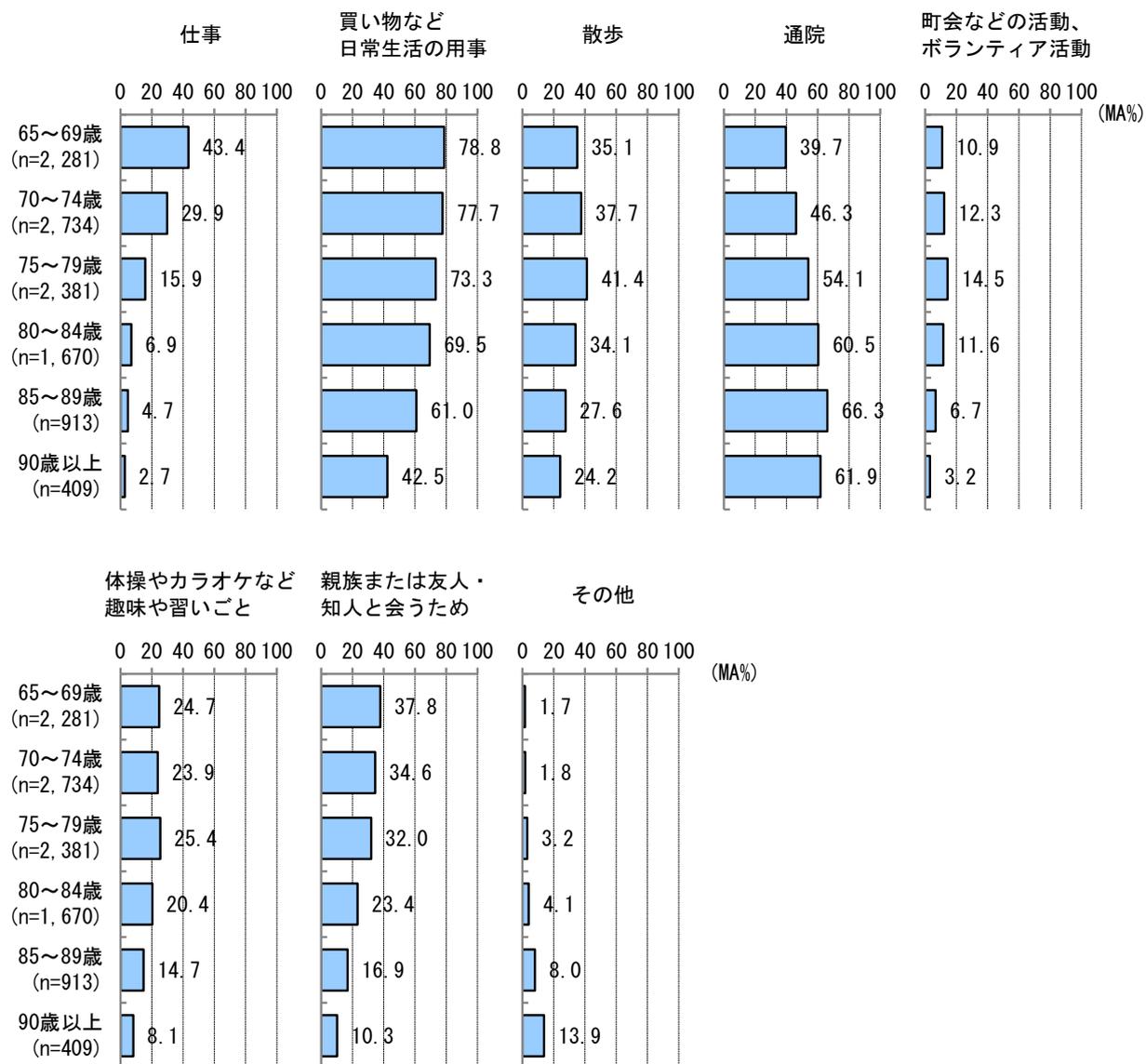
性別でみると、「買い物など日常生活の用事」、「通院」、「町会などの活動、ボランティア活動」、「親族または友人・知人と会うため」、「体操教室やカラオケなど趣味の活動」、「仕事」、「散歩」は男性のほうが高くなっている。(図7-a)

【図7-a 外出するときの目的（性別）】



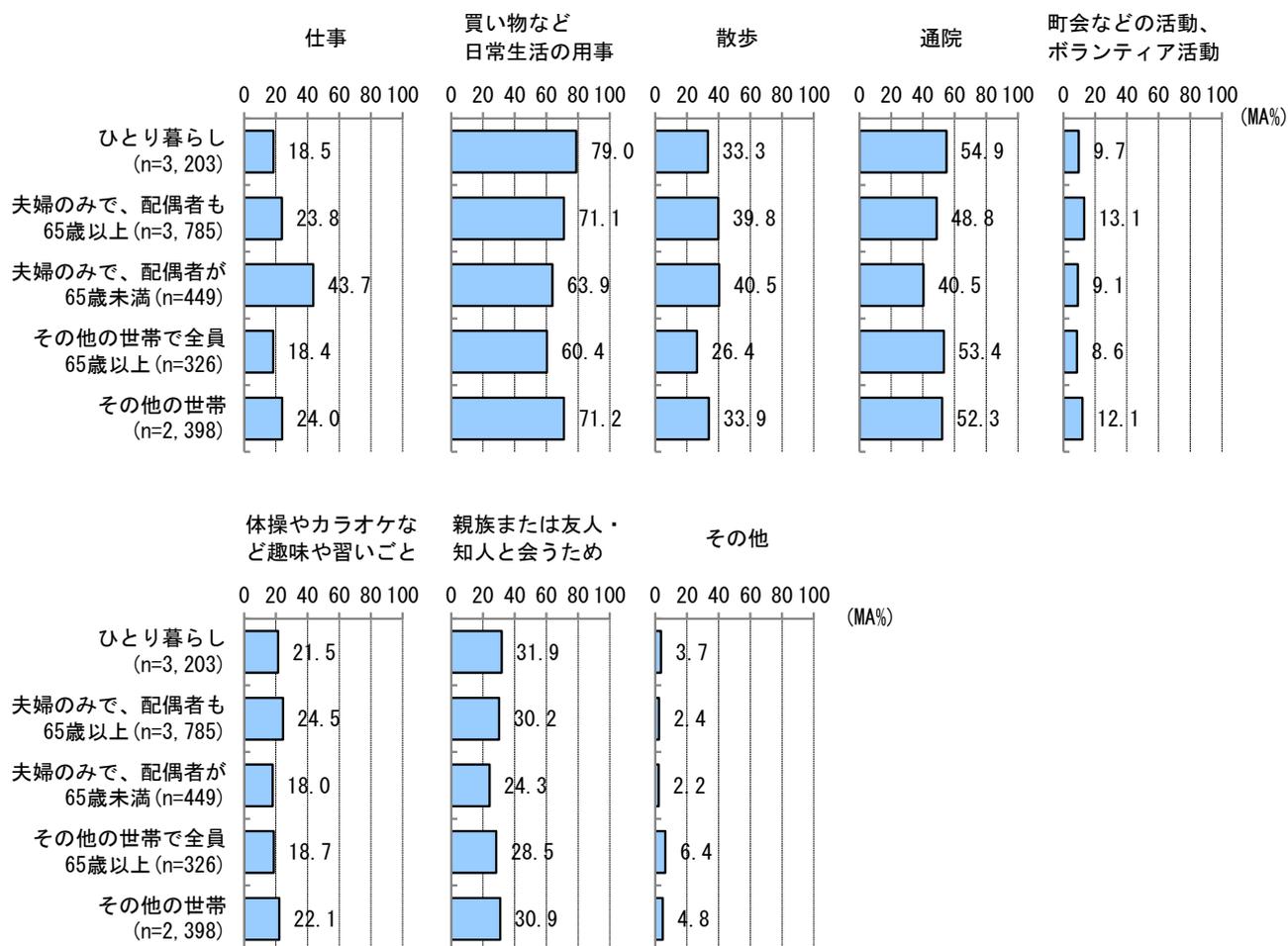
年齢別でみると、「通院」のみが概ね高齢になるほど割合が高くなっている。(図7-b)

【図7-b 外出するときの目的（年齢別）】



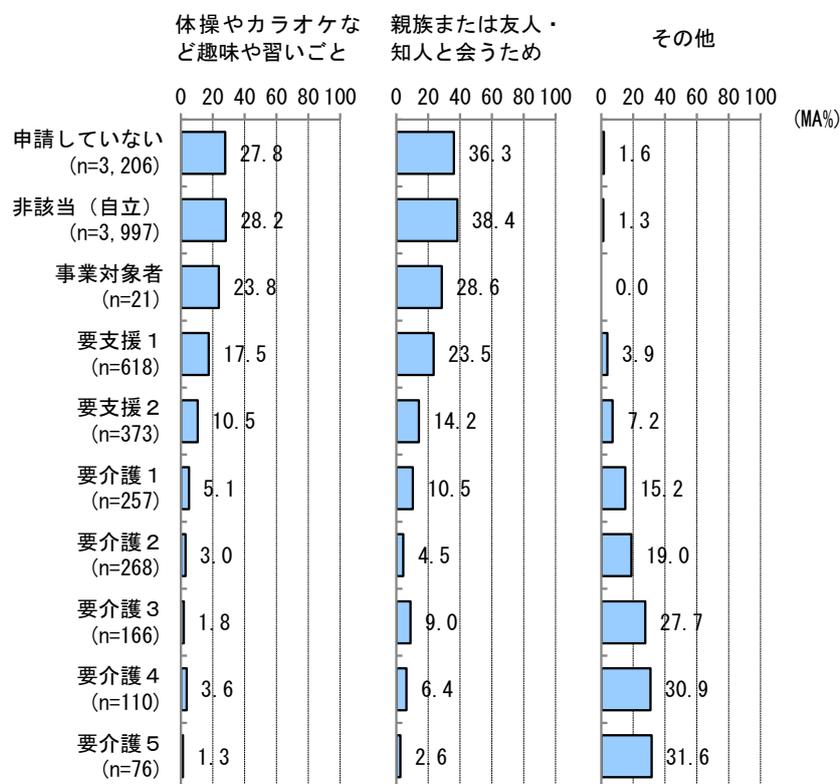
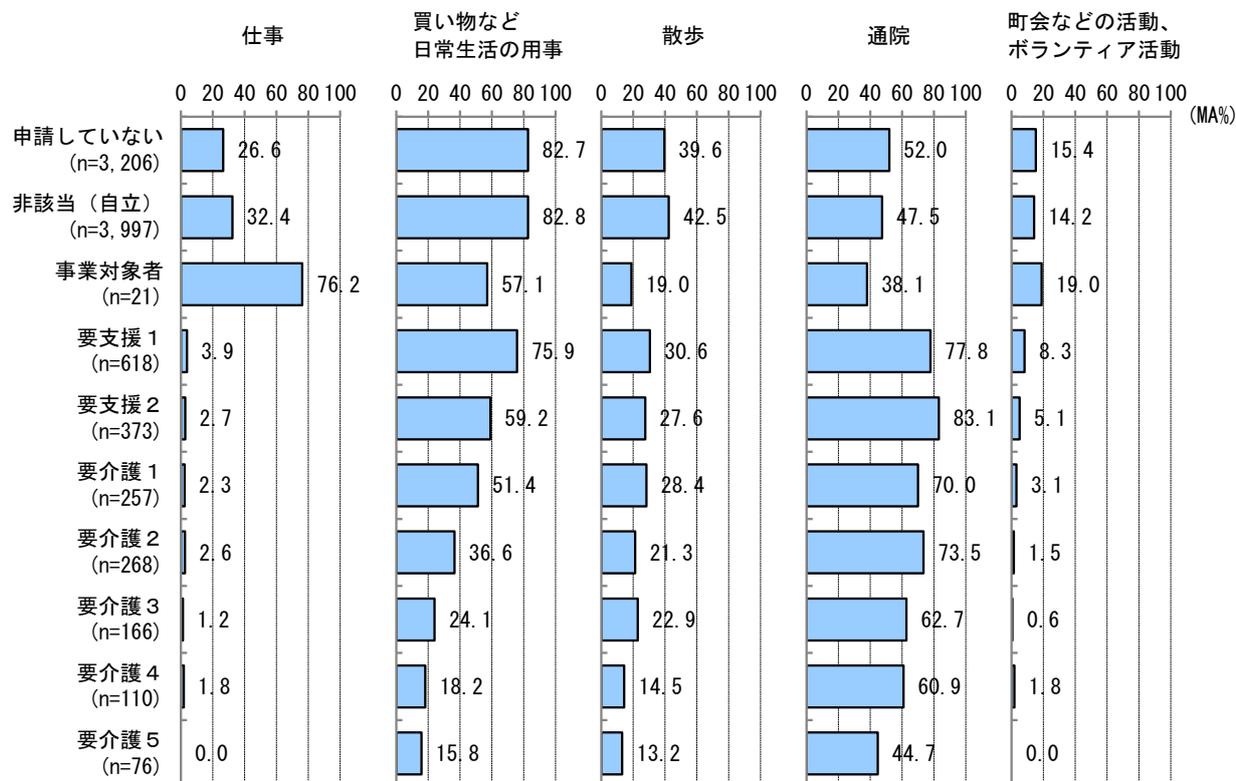
世帯状況別でみると、いずれの世帯も「買い物など日常生活の用事」が最も多くなっている。「仕事」では“夫婦のみで、配偶者が65歳未満”が約4割で最も高くなっている。(図7-c)

【図7-c 外出するときの目的（世帯状況別）】



介護度別でみると、いずれの項目も重度になるほど割合が低くなる傾向にある。(図7-d)

【図7-d 外出するときの目的（介護度別）】

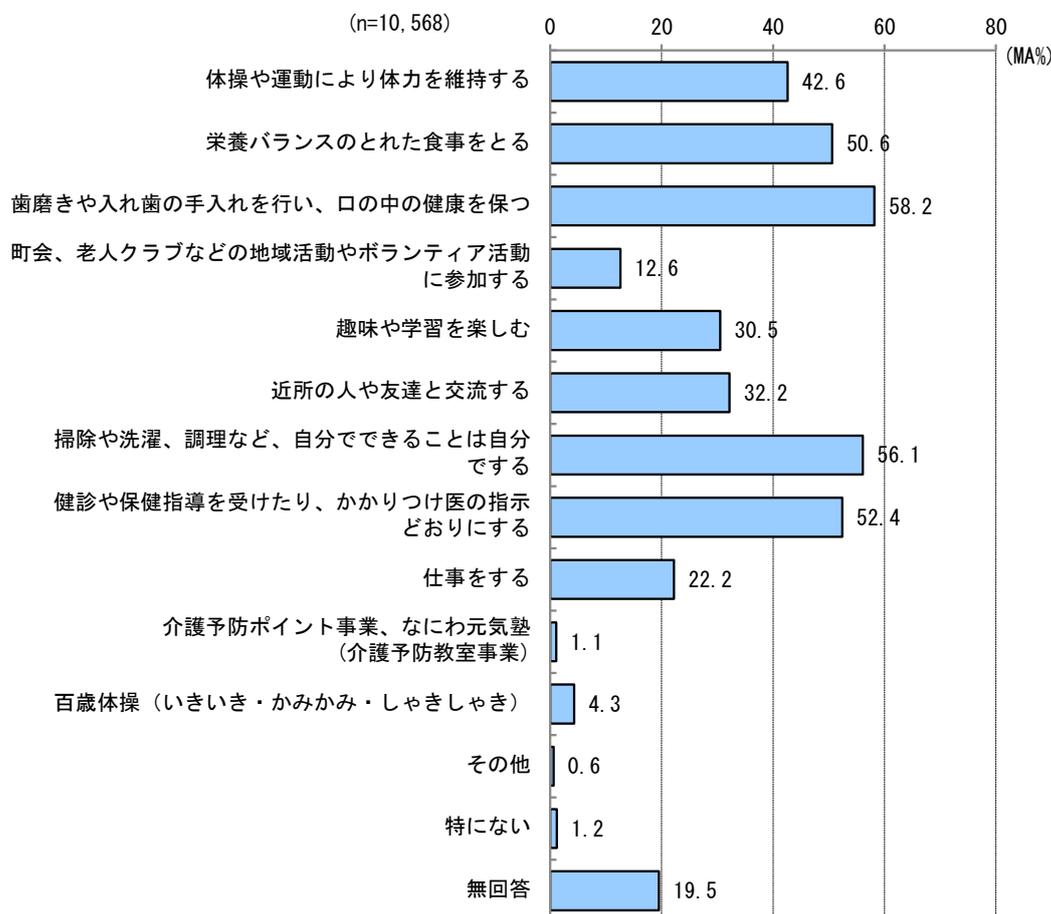


問8 介護予防のための取組み

①介護予防のために取り組んでいること

あなたが、介護予防として、今取り組んでいること、今後取り組んでみたいことに○をつけてください。(○はいくつでも)

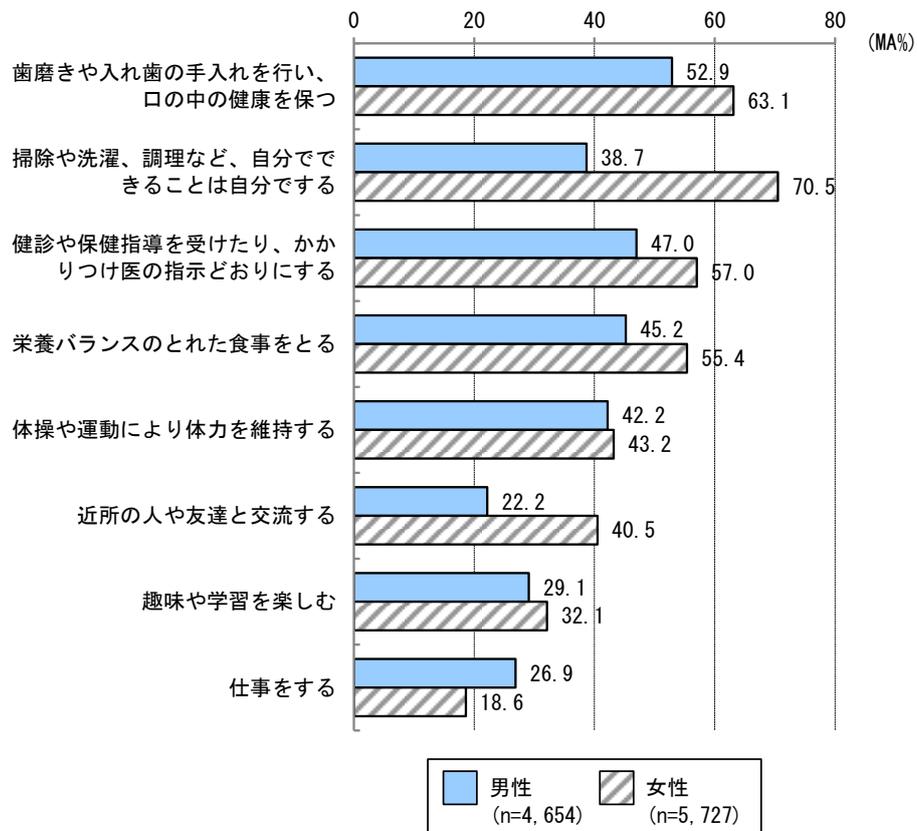
【図8① 介護予防のために取り組んでいること】



介護予防のために取り組んでいることについては、「歯磨きや入れ歯の手入れを行い、口の中の健康を保つ」が58.2%で最も多く、次いで「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」が56.1%、「健診や保健指導を受けたり、かかりつけ医の指示どおりにする」が52.4%、「栄養バランスのとれた食事をとる」が50.6%となっている。(図8①)

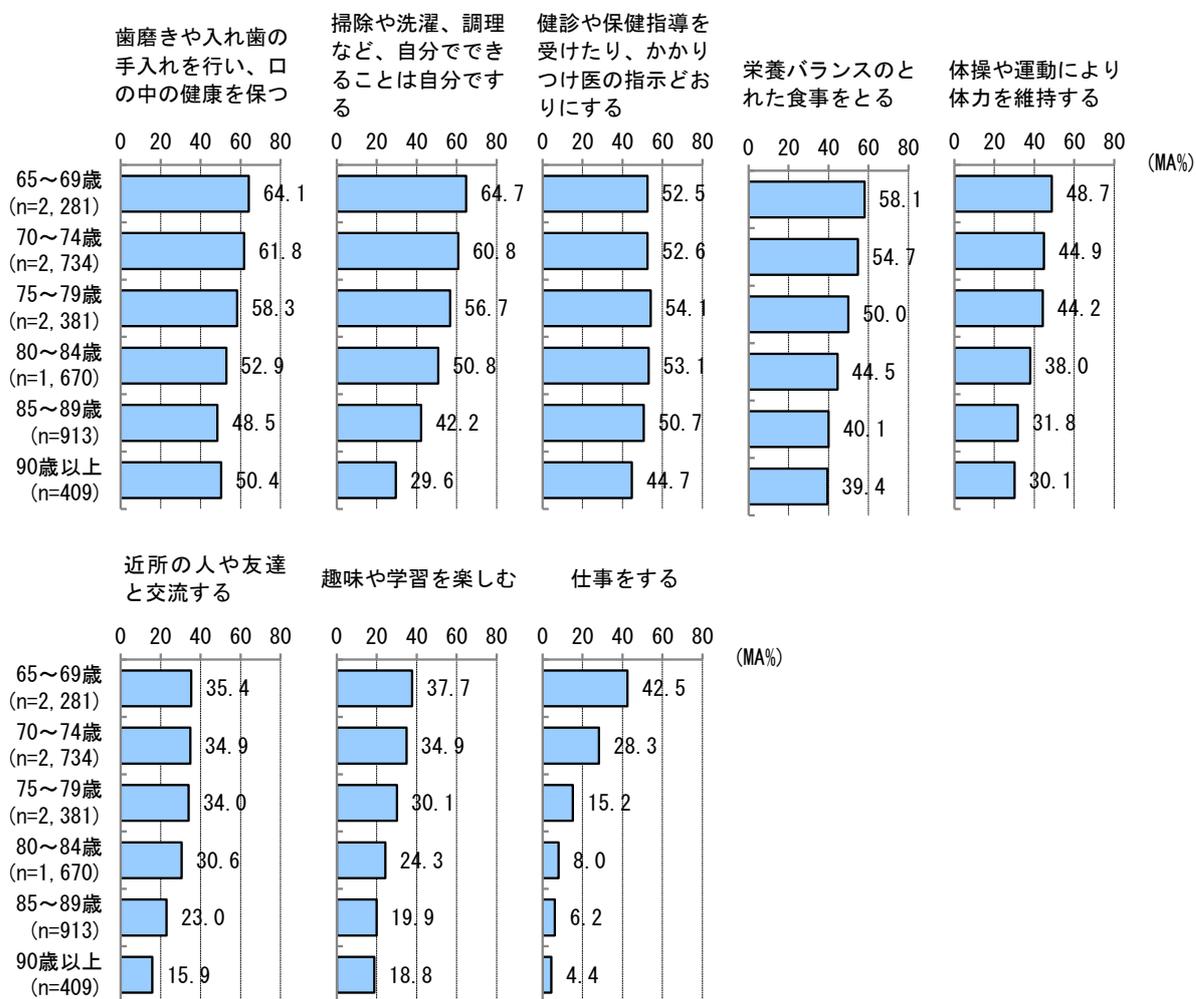
性別でみると、「仕事をする」以外は女性のほうが割合が高くなっている。(図8①-a)

【図8①-a 介護予防のための取組み（性別）（上位項目）】



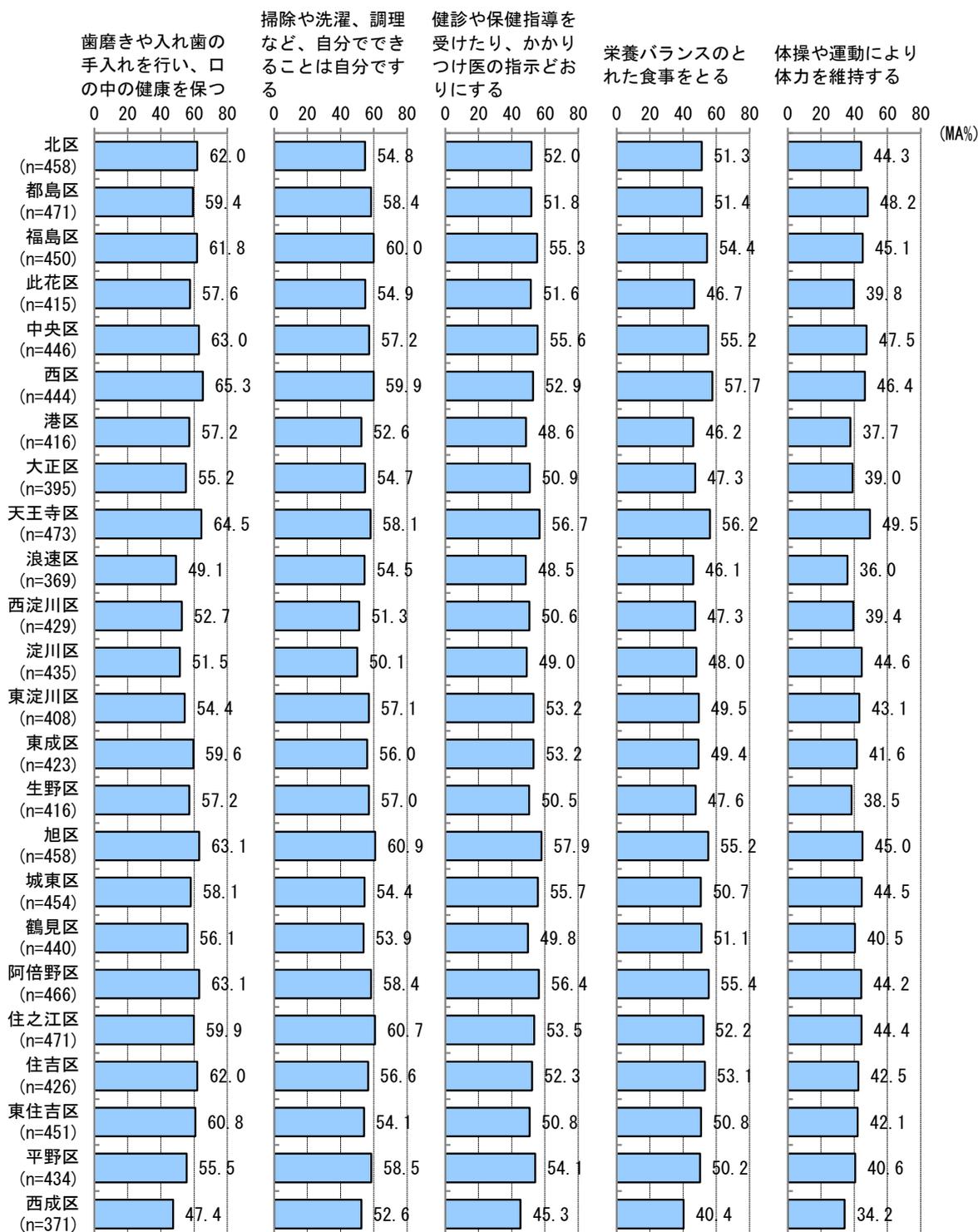
年齢別で見ると、「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」、「栄養バランスのとれた食事をとる」、「体操や運動により体力を維持する」、「近所の人や友達と交流する」、「趣味や学習を楽しむ」、「仕事をする」では高齢になるほど割合が低くなっている。(図8①-b)

【図8①-b 介護予防のための取組み（年齢別）（上位項目）】

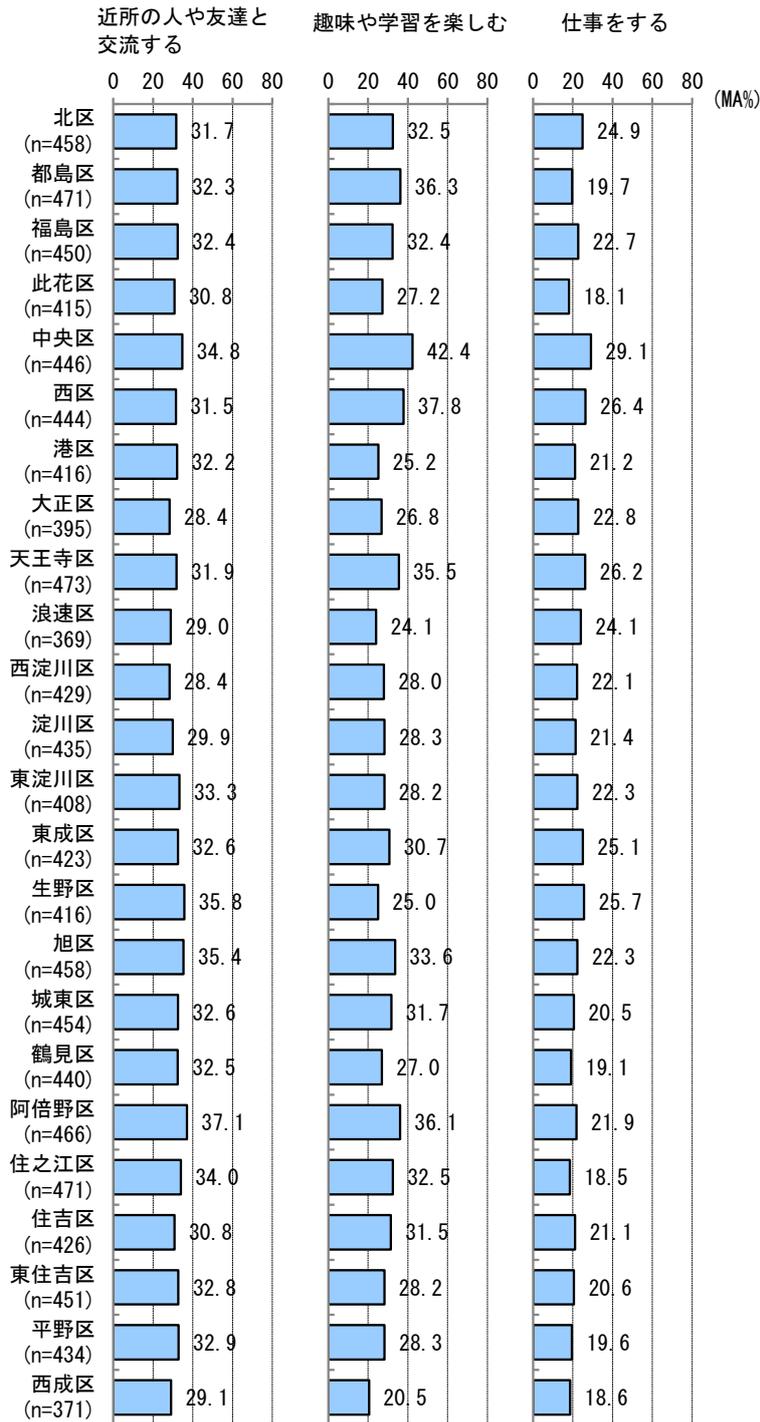


居住区別でみると、「歯磨きや入れ歯の手入れを行い、口の中の健康を保つ」と「栄養バランスのとれた食事をとる」の回答割合は西区で最も高く、「掃除や洗濯、調理など、自分で行えることは自分でする」と「健診や保健指導を受けたり、かかりつけ医の指示どおりにする」では旭区で最も高くなっている。(図8①-c ①②)

【図8①-c 介護予防のための取組み（居住区別）（上位項目）①】

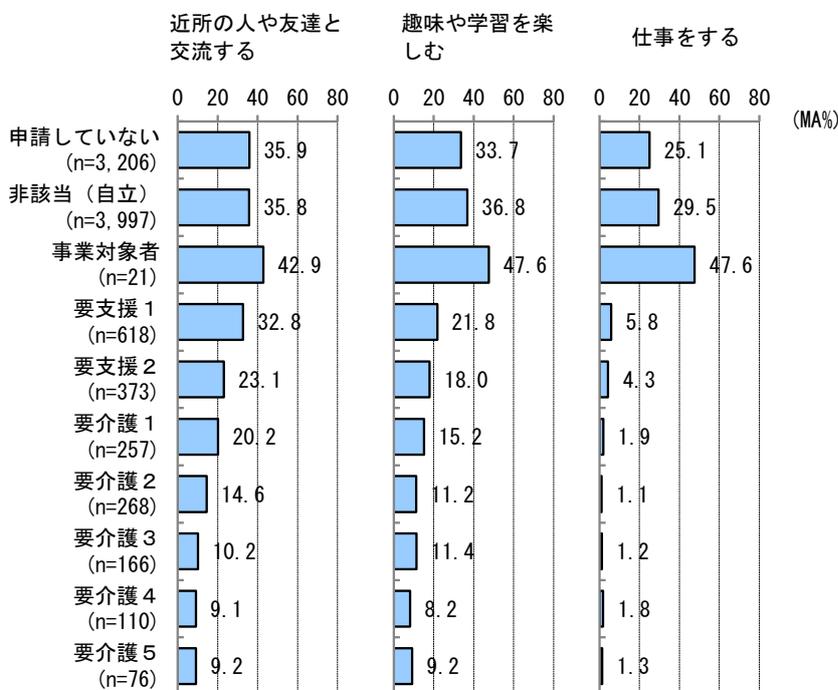
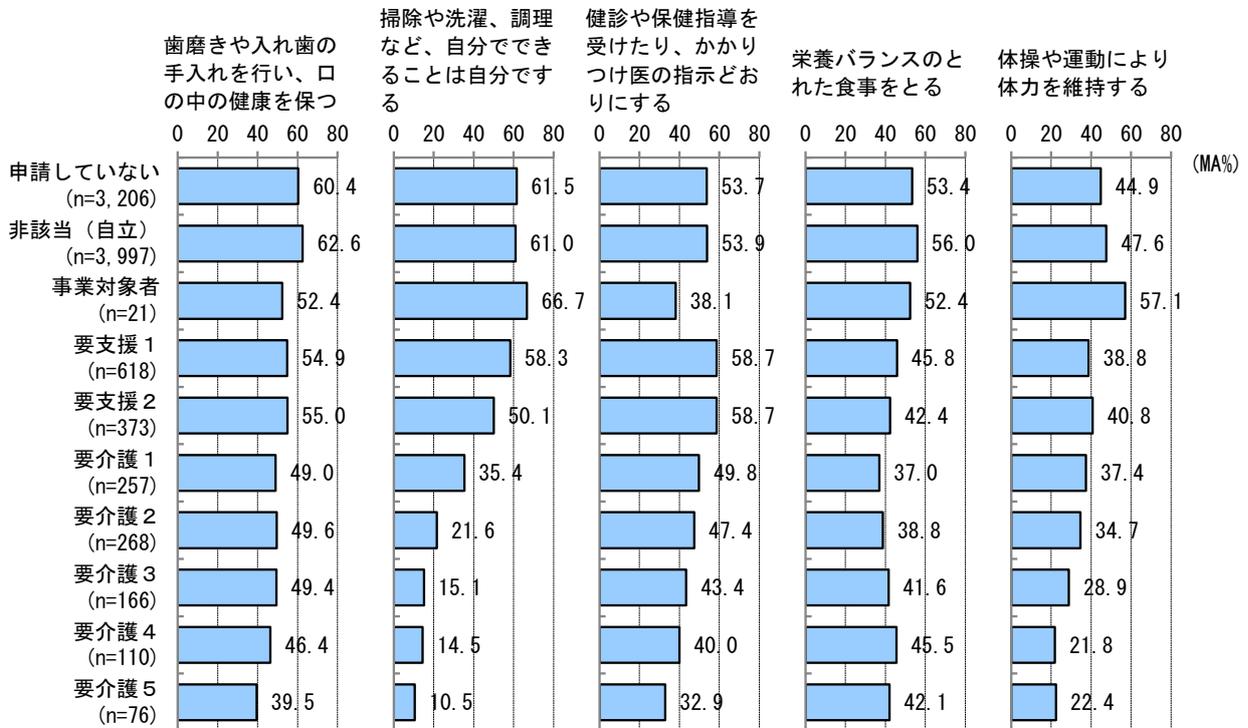


【図8①-c 介護予防のための取組み（居住区別）（上位項目）②】



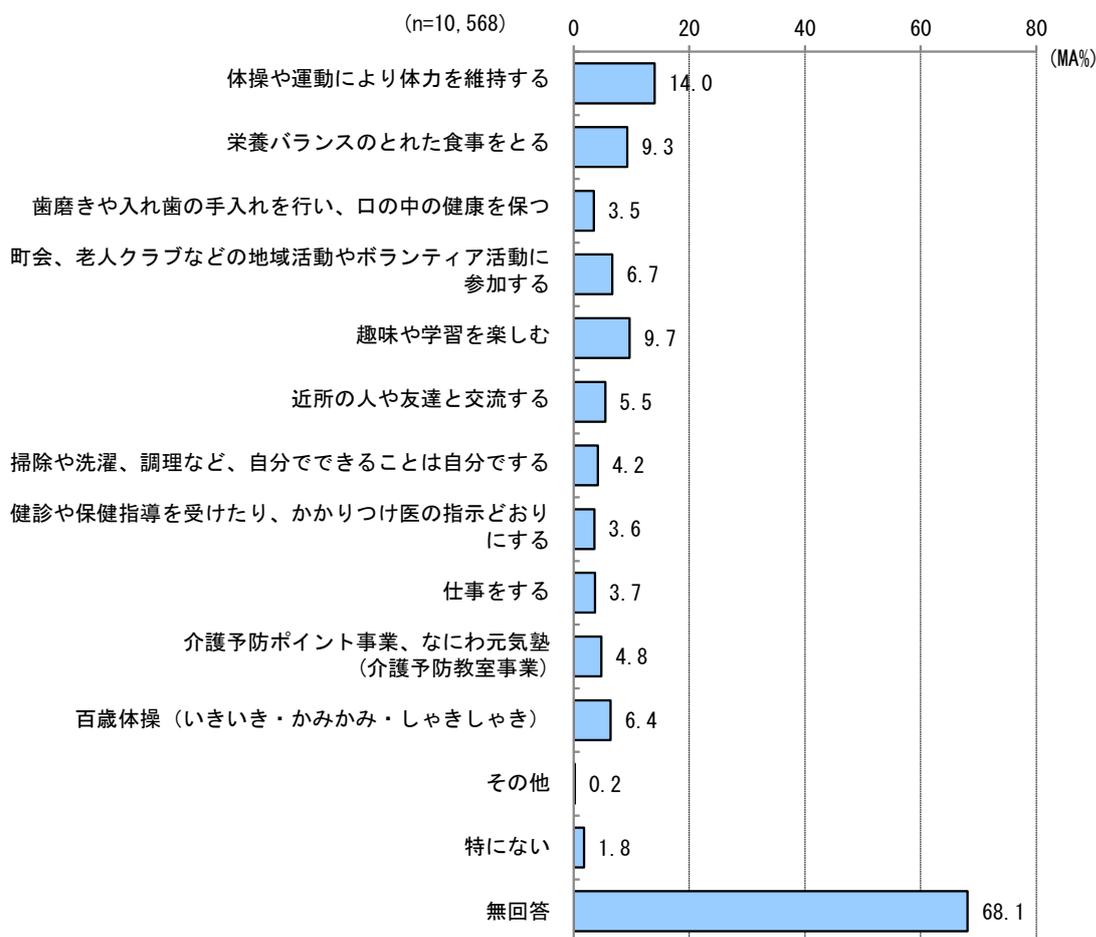
介護度別でみると、「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」、「健診や保健指導を受けたり、かかりつけ医の指示どおりにする」、「近所の人や友達と交流する」の回答割合は、重度になるほど低くなっている。(図8①-d)

【図8①-d 介護予防のための取組み（介護度別）（上位項目）】



②介護予防のために取り組んでみたいこと

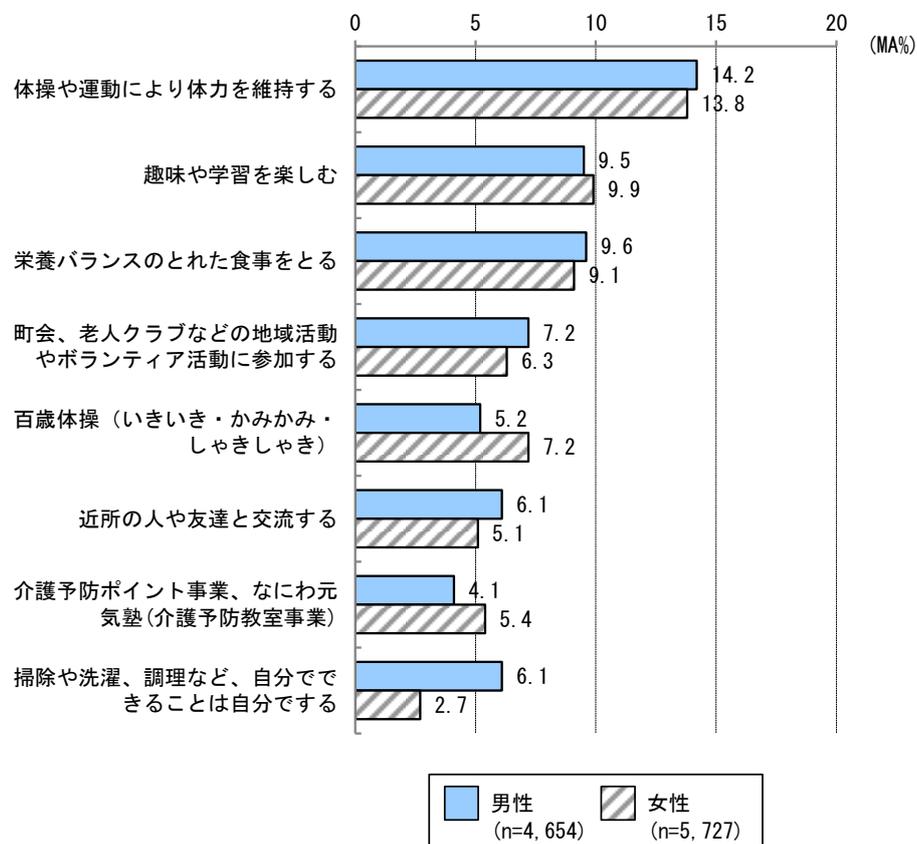
【図8② 介護予防のために取り組んでみたいこと】



介護予防のために取り組んでみたいことについては、「体操や運動により体力を維持する」が14.0%で最も多く、次いで「趣味や学習を楽しむ」が9.7%、「栄養バランスのとれた食事をとる」が9.3%となっている。(図8②)

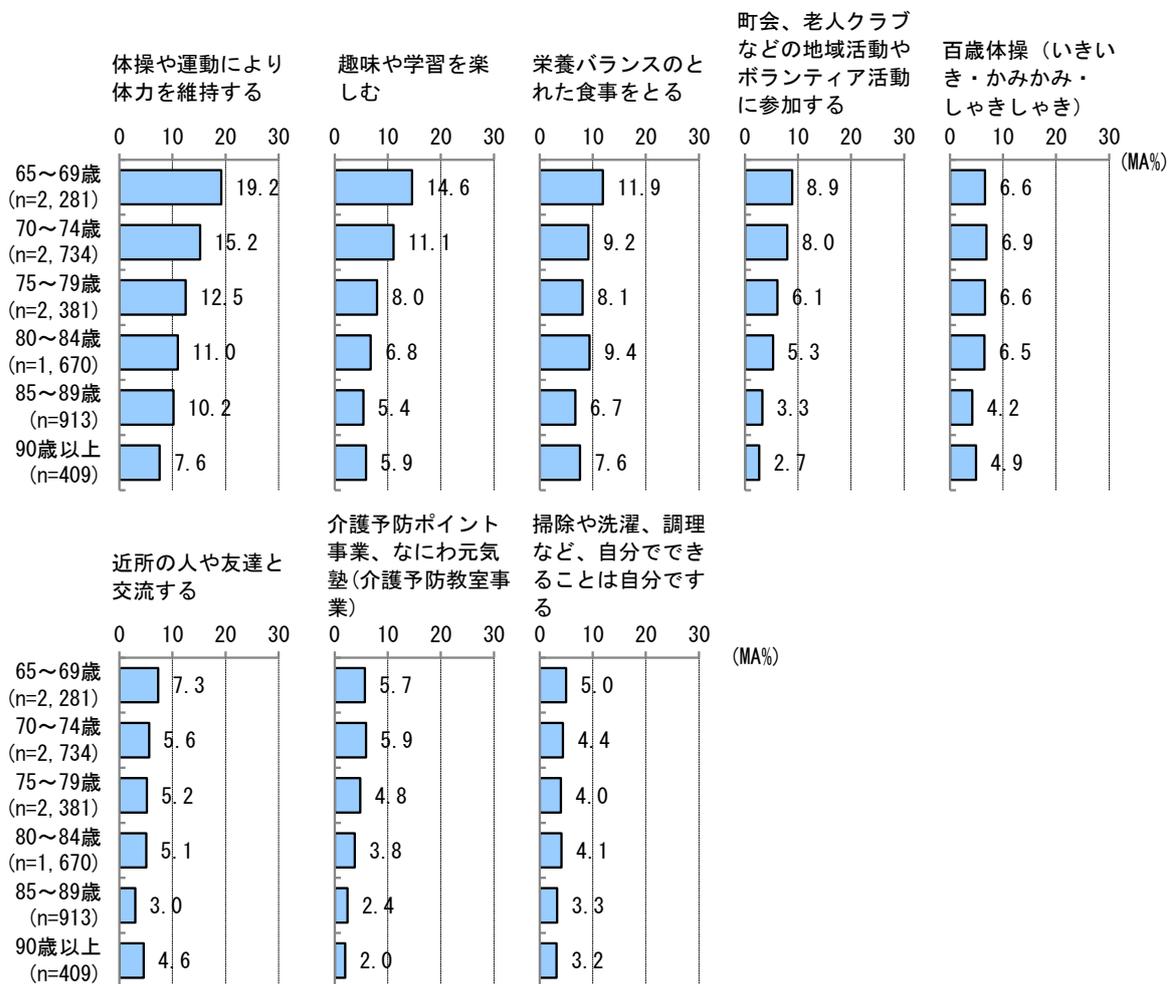
介護予防のために取り組んでみたいことについて、性別で見ると、「体操や運動により体力を維持する」、「栄養バランスのとれた食事をする」、「町会、老人クラブなどの地域活動やボランティア活動に参加する」、「近所の人や友達と交流する」、「掃除や洗濯、調理など、自分のできることは自分でする」は女性より男性のほうが割合が高くなっている。(図8②-a)

【図8②-a 介護予防のために取り組んでみたいこと（性別）（上位項目）】



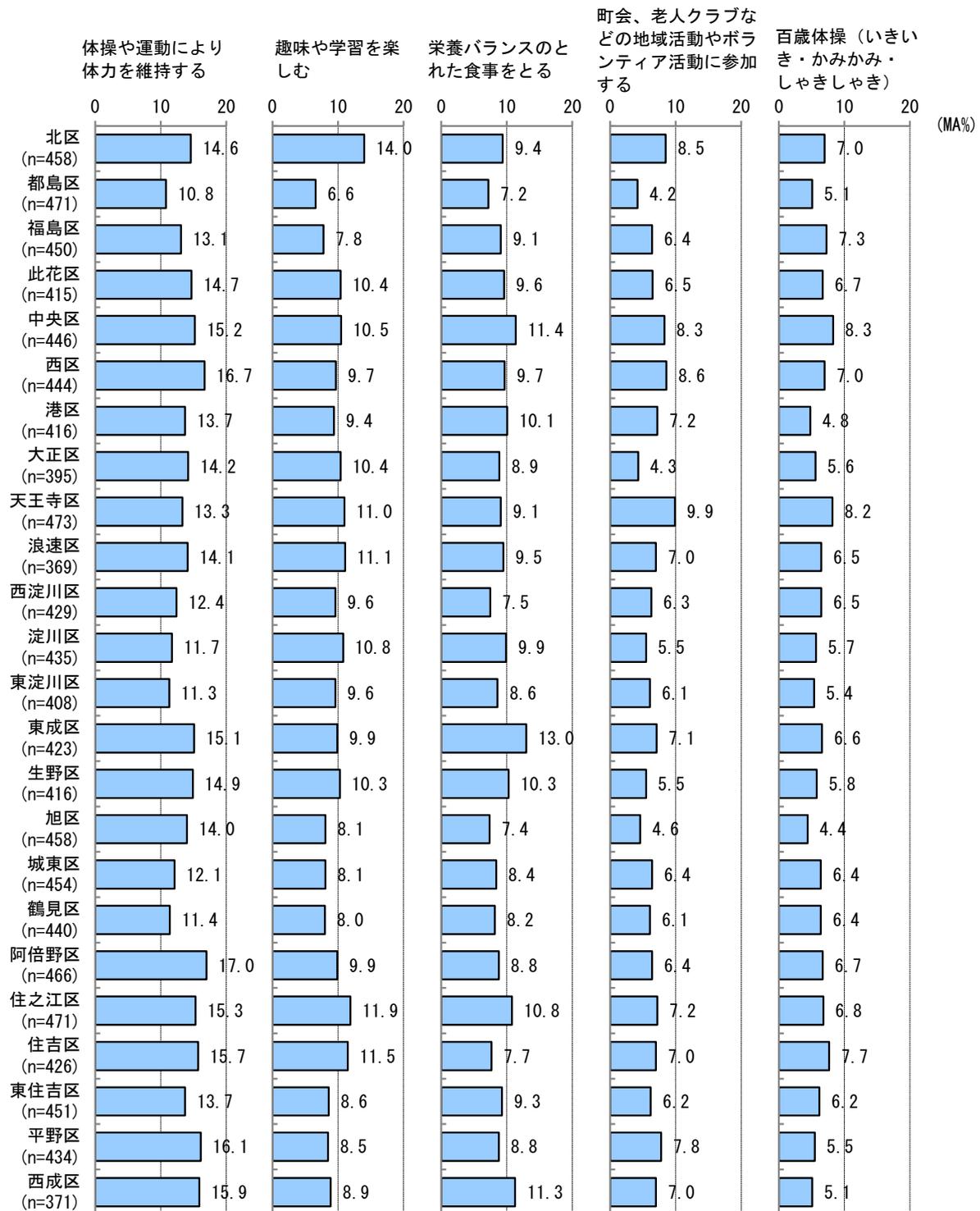
年齢別で見ると、「体操や運動により体力を維持する」、「趣味や学習を楽しむ」、「町会、老人クラブなどの地域活動やボランティア活動に参加する」では高齢になるほど割合が低くなっている。(図8②-b)

【図8②-b 介護予防のために取り組んでみたいこと（年齢別）（上位項目）】

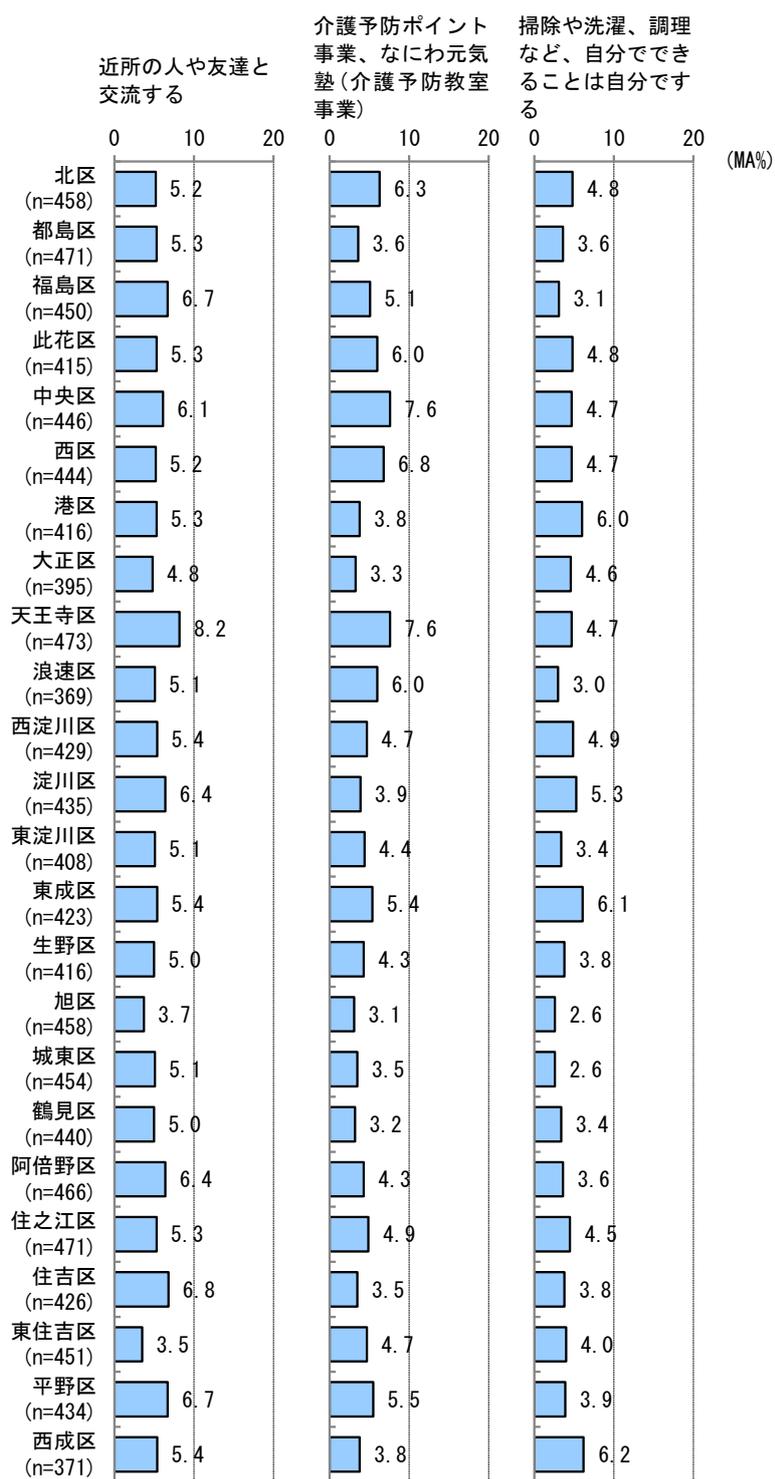


居住区別でみると、「体操や運動により体力を維持する」の回答割合は阿倍野区が17.0%で最も高く、「趣味や学習を楽しむ」では北区が14.0%で最も高くなっている。(図8②-c ①②)

【図8②-c 介護予防のために取り組んでみたいこと（居住区別）（上位項目）①】

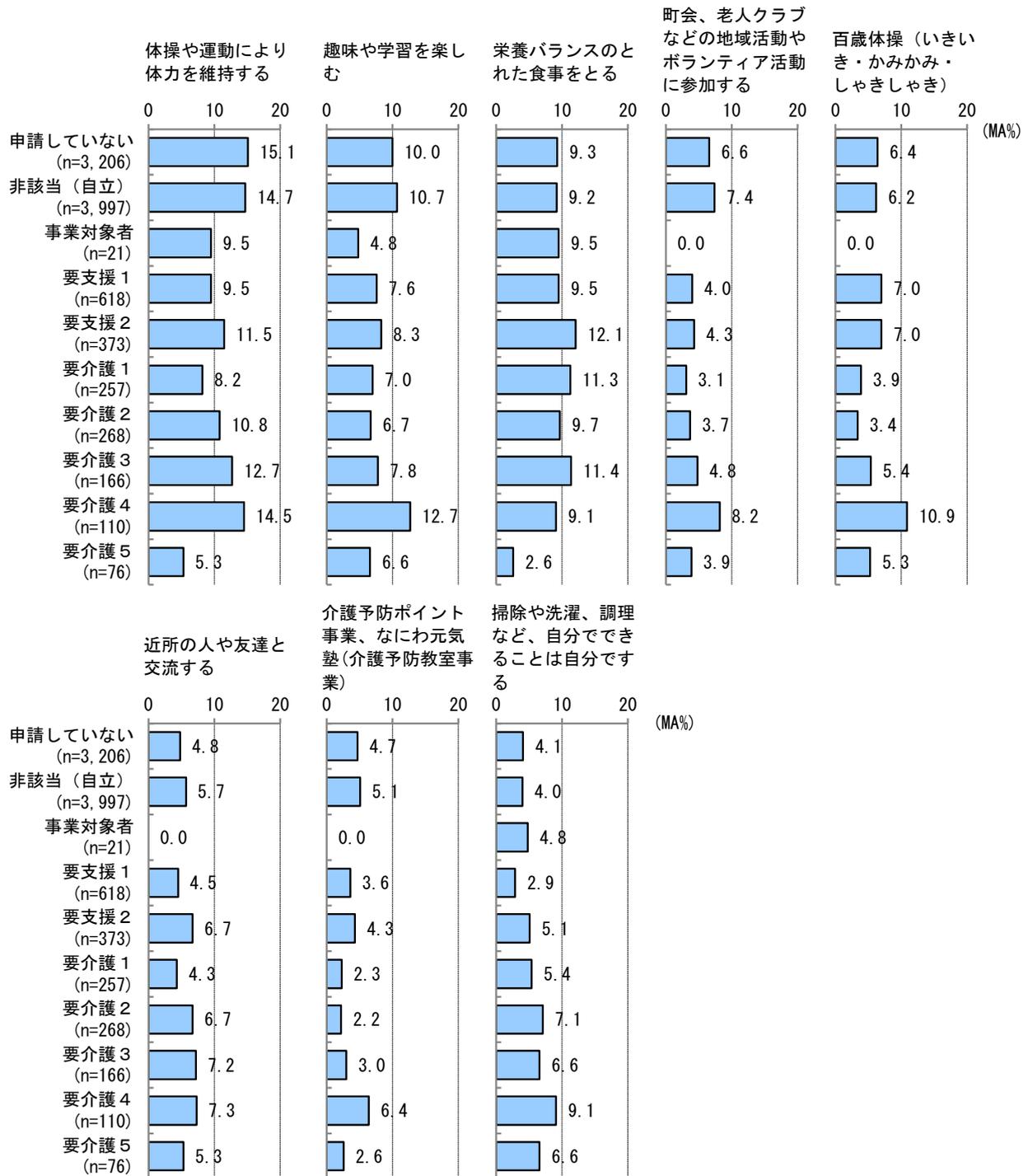


【図8②-c 介護予防のために取り組んでみたいこと（居住区別）（上位項目）②】



介護度別でみると、要支援1以上の要介護認定者では「栄養バランスのとれた食事をする」以外の回答割合は、要介護4で最も高くなっている。(図8②-d)

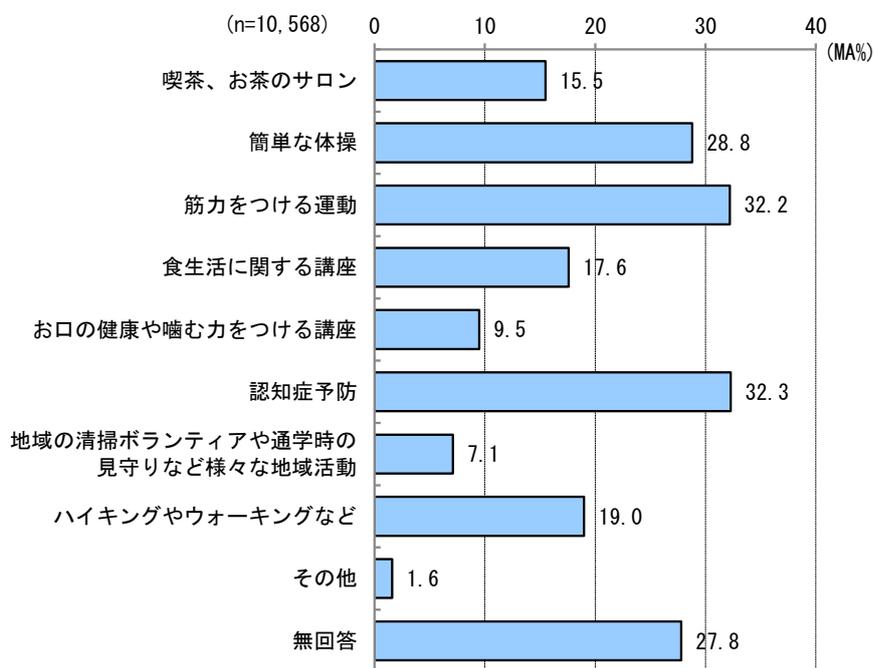
【図8②-d 介護予防のための取組み（介護度別）（上位項目）】



問9 参加してみたい介護予防事業

どのような、介護予防事業があれば参加してみたいと思いますか。(〇はいくつでも)

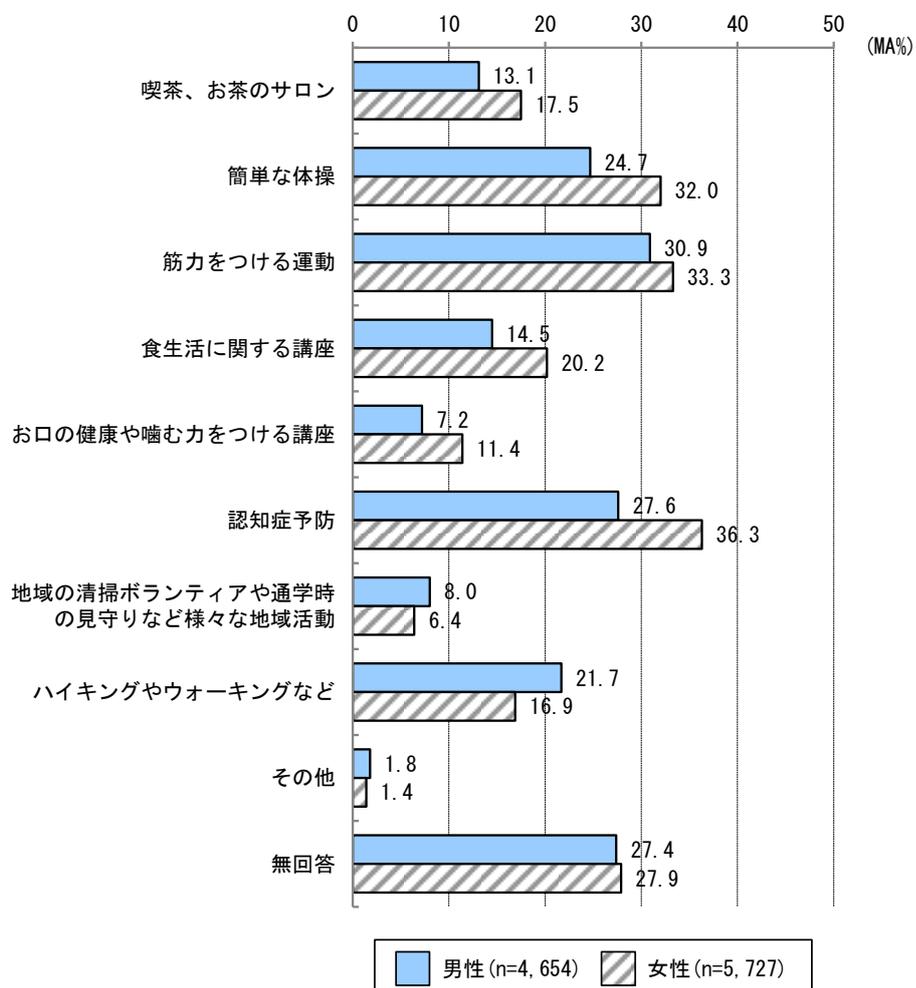
【図9 参加してみたい介護予防事業】



参加してみたい介護予防事業については、「認知症予防」が32.3%で最も多く、次いで「筋力をつける運動」が32.2%、「簡単な体操」が28.8%となっている。(図9)

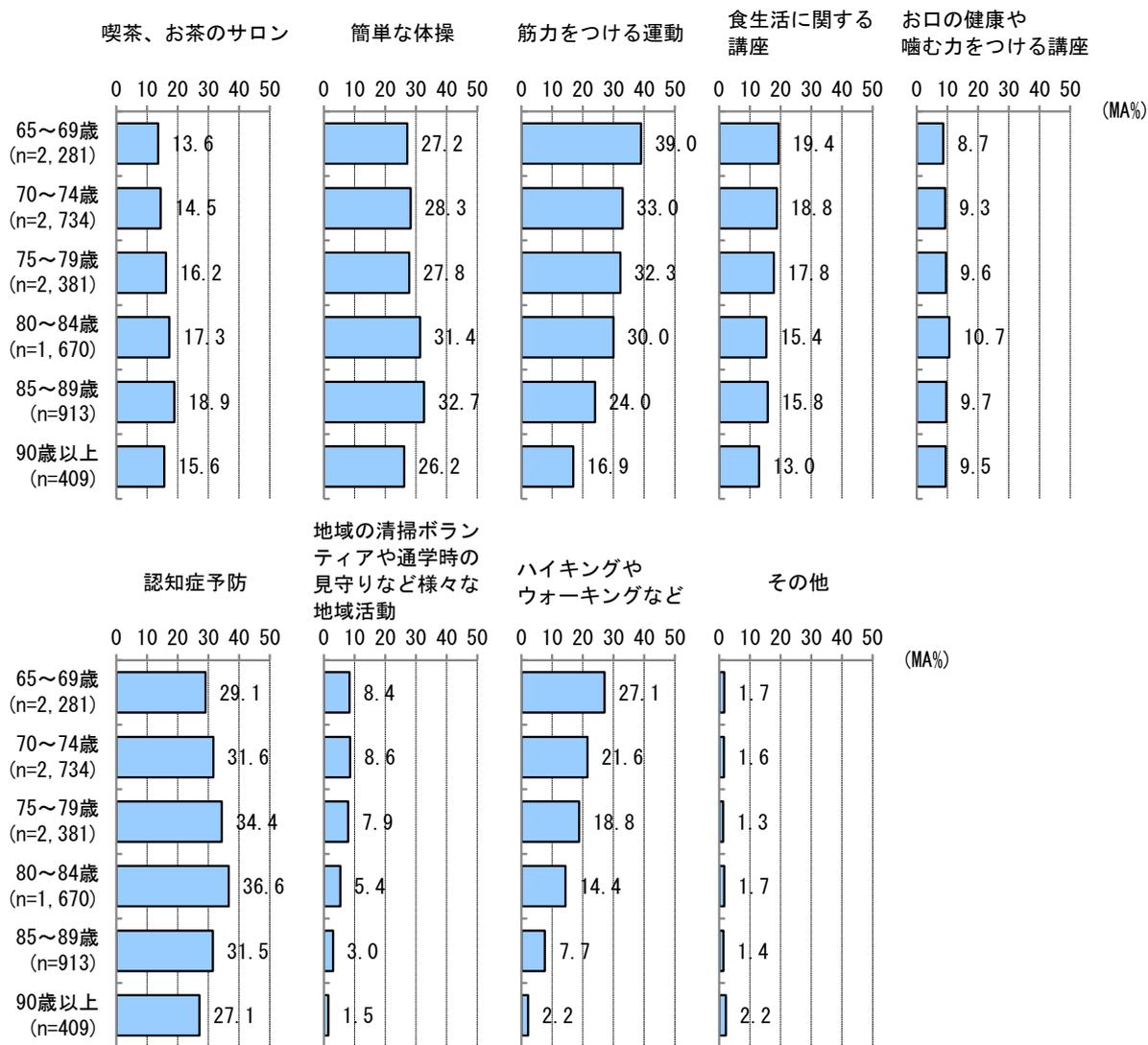
性別でみると、「地域の清掃ボランティアや通学時の見守りなど様々な地域活動」と「ハイキングやウォーキングなど」以外の項目では男性より女性のほうが回答割合が高くなっている。(図9-a)

【図9-a 参加してみたい介護予防事業（性別）】



年齢別でみると、「筋力をつける運動」と「ハイキングやウォーキングなど」では高齢になるほど割合が低くなっている。(図9-b)

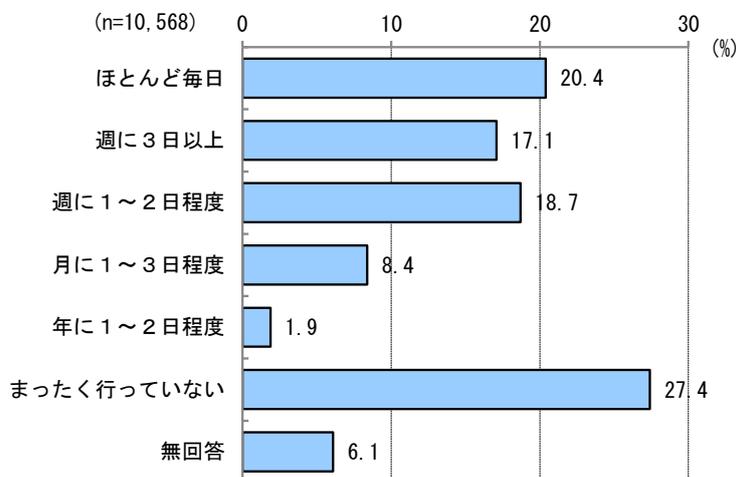
【図9-b 参加してみたい介護予防事業（年齢別）】



問10 運動やスポーツの頻度

あなたは、この1年間に運動（ウォーキング、ラジオ体操、百歳体操など）やスポーツをどの程度行いましたか。（○はひとつ）

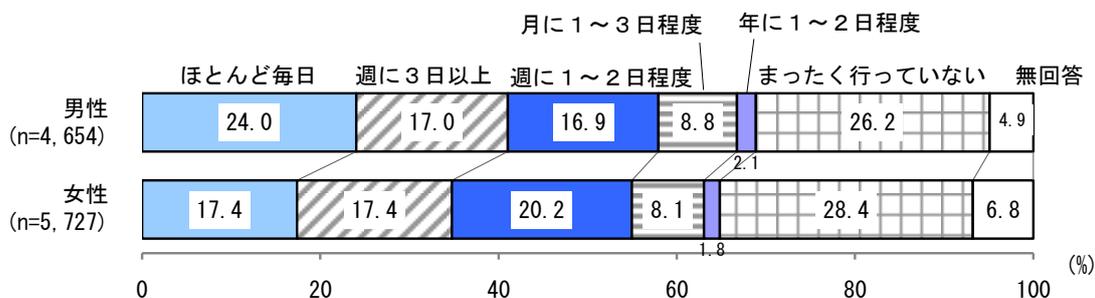
【図10 運動やスポーツの頻度】



この1年間の運動やスポーツの頻度については、「まったく行っていない」が27.4%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が20.4%、「週に1~2日程度」が18.7%となっている。（図10）

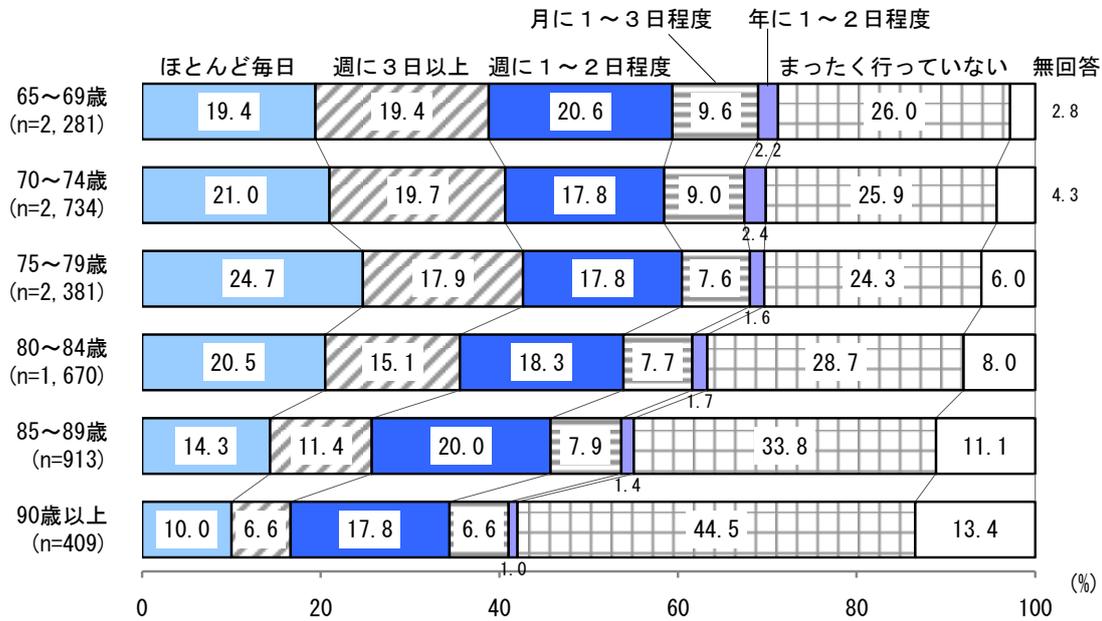
性別でみると、「ほとんど毎日」の回答割合は女性より男性のほうが高くなっている。（図10-a）

【図10-a 運動やスポーツの頻度（性別）】



年齢別でみると、「ほとんど毎日」の回答割合は75～79歳が24.7%で最も高く、以降、高齢になるほど割合が低くなっている。「まったく行っていない」は90歳以上が44.5%で最も高くなっている。(図10-b)

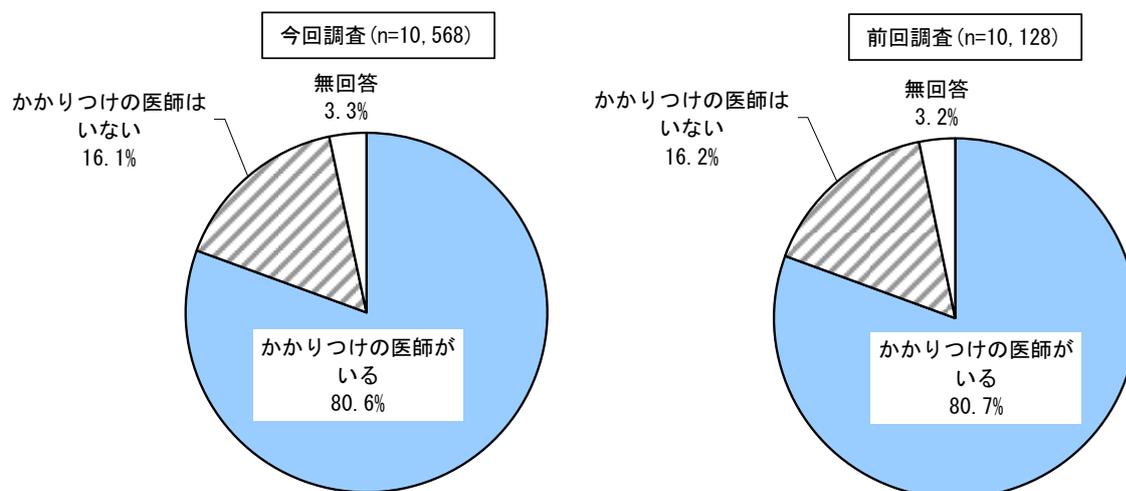
【図10-b 運動やスポーツの頻度（年齢別）】



問11 かかりつけの医師の有無

あなたには、かかりつけの医師はおられますか。(〇はひとつ)

【図11 かかりつけの医師の有無（経年比較）】

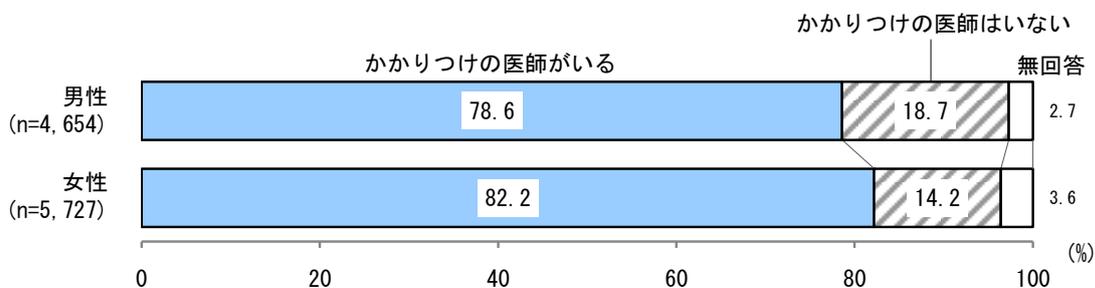


かかりつけの医師の有無については、「かかりつけの医師がいる」が80.6%、「かかりつけの医師は
いない」が16.1%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。(図11)

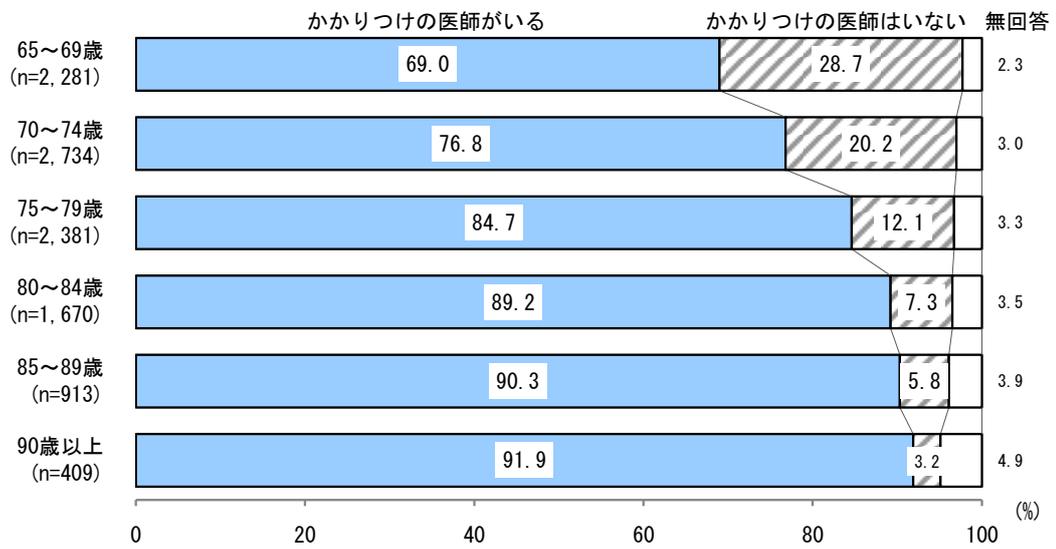
性別でみると、「かかりつけの医師がいる」の回答割合は女性のほうが高くなっている。(図
11-a)

【図11-a かかりつけの医師の有無（性別）】



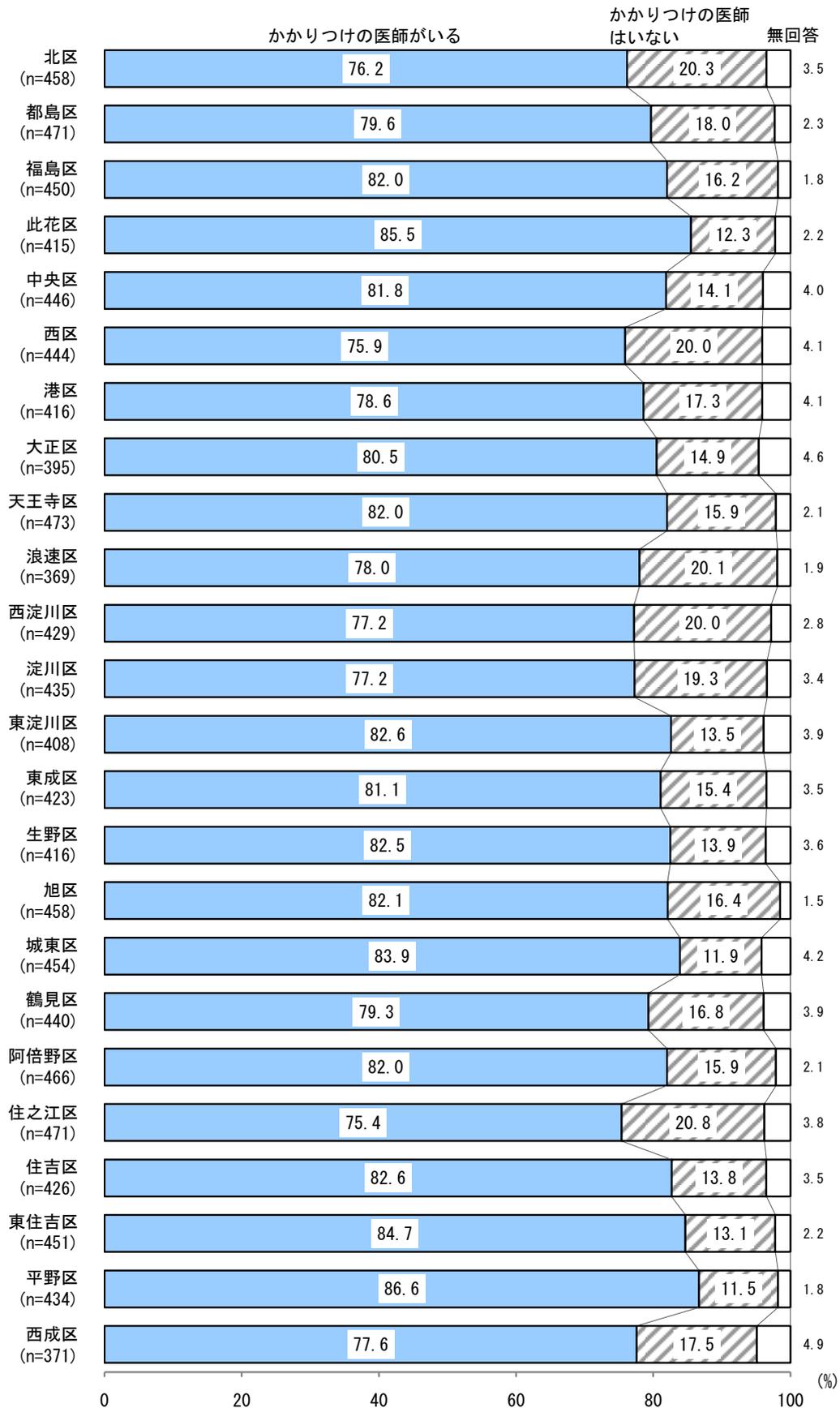
年齢別でみると、「かかりつけの医師がいる」の回答割合は高齢になるほど高くなっている。
 (図11-b)

【図11-b かかりつけの医師の有無（年齢別）】



居住区別でみると、「かかりつけの医師がいる」の回答割合は、平野区が86.6%で最も高く、住之江区が75.4%で最も低くなっている。(図11-c)

【図11-c かかりつけの医師の有無（居住区別）】

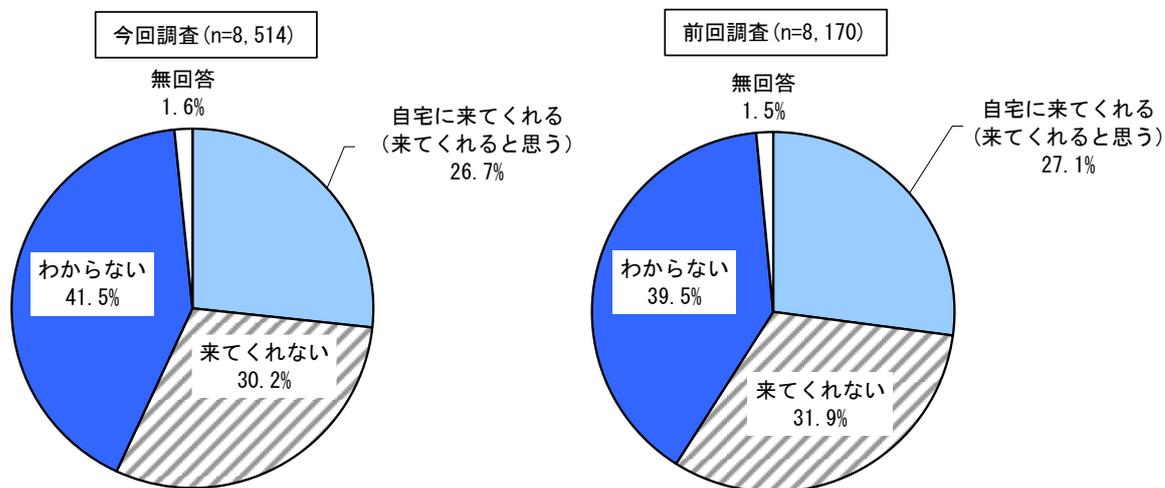


問11-1 かかりつけの医師の訪問診療の有無

【問11で「1」と回答された方におうかがいします。】

かかりつけの医師はあなたが通院出来なくなった時に自宅に来てくれますか。(〇はひとつ)

【図11-1 かかりつけの医師の訪問診療の有無 (経年比較)】



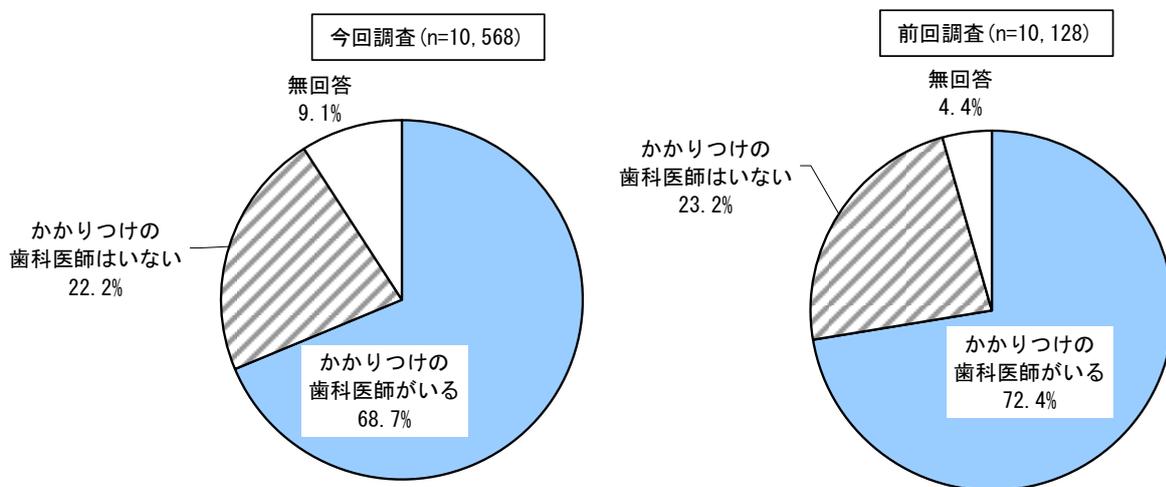
かかりつけの医師がいると回答した人に、通院出来なくなった時に自宅に来てくれるかたずねると、「わからない」が41.5%で最も多く、次いで「来てくれない」が30.2%、「自宅に来てくれる (来てくれると思う)」が26.7%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。(図11-1)

問12 かかりつけの歯科医師の有無

あなたには、かかりつけの歯科医師はおられますか。(〇はひとつ)

【図12 かかりつけの歯科医師の有無（経年比較）】

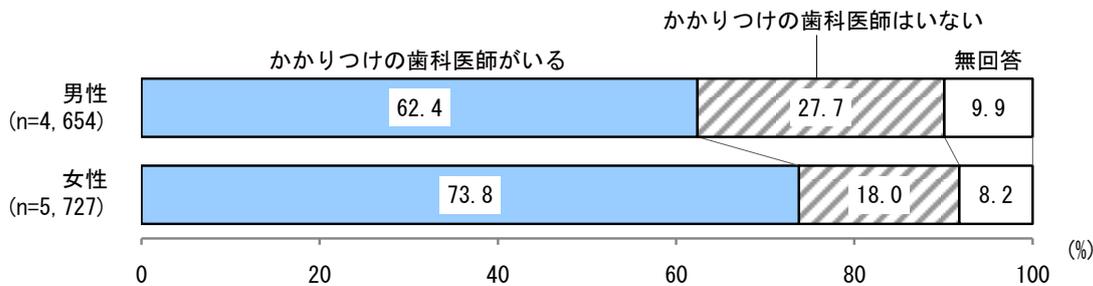


かかりつけの歯科医師の有無については、「かかりつけの歯科医師がいる」は68.7%、「かかりつけの歯科医師はいない」が22.2%となっている。

前回調査と比較すると、「かかりつけ歯科医師がいる」の割合が3.7ポイント低くなっている。(図12)

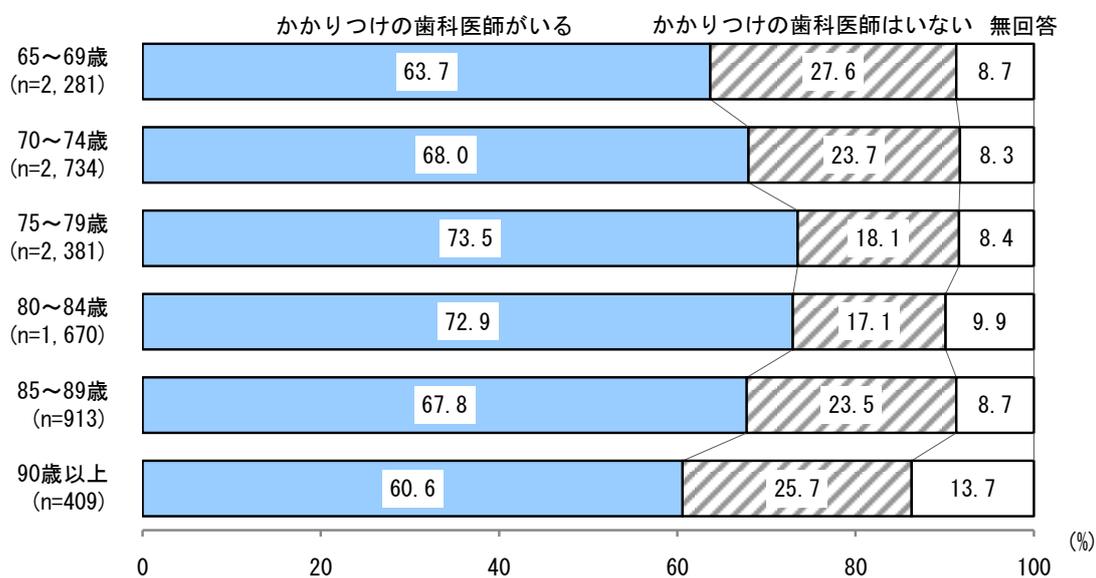
性別でみると、「かかりつけの歯科医師がいる」の回答割合は女性のほうが高くなっている。(図12-a)

【図12-a かかりつけの歯科医師の有無（性別）】



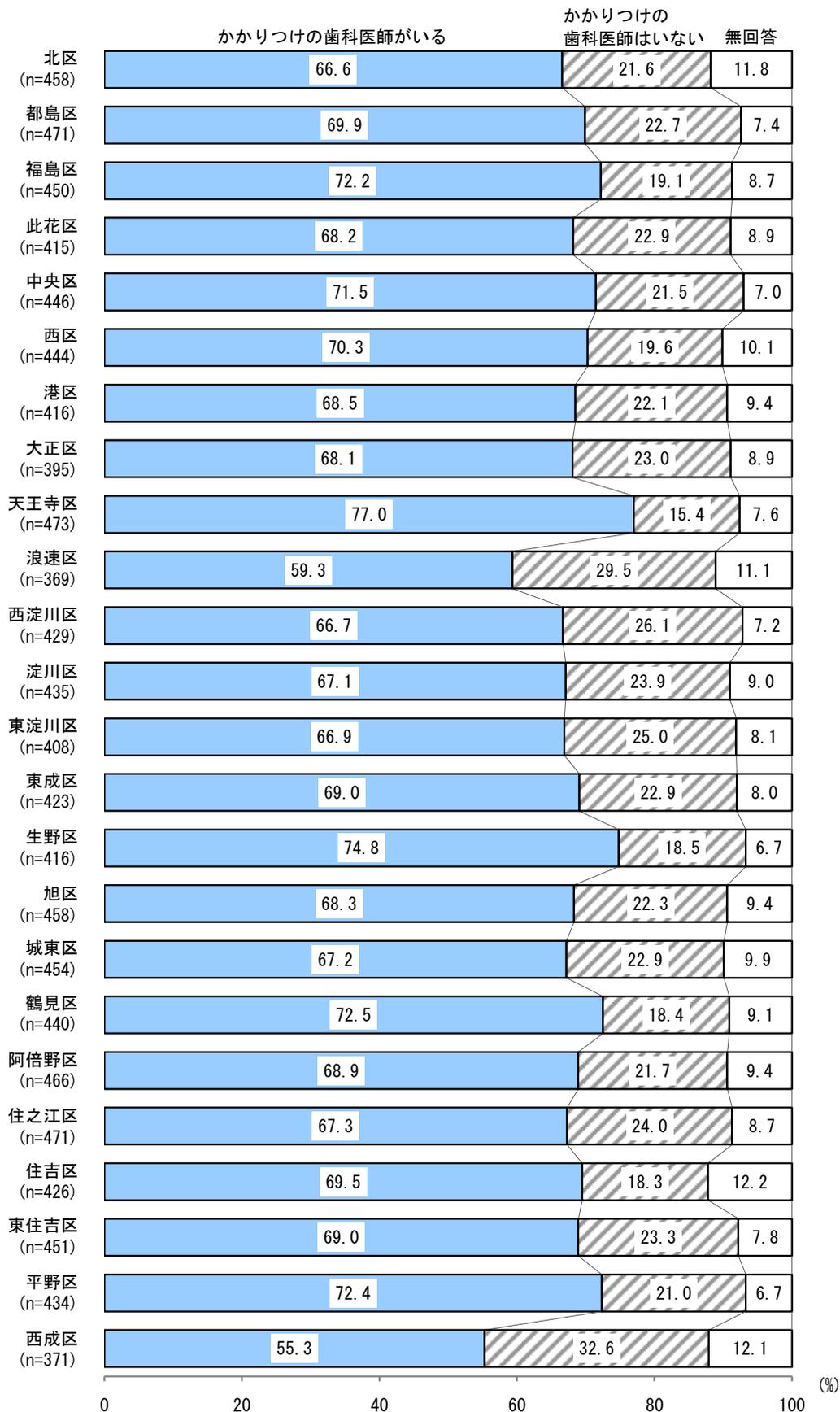
年齢別でみると、「かかりつけの歯科医師がいる」の回答割合は75～79歳が73.5%で最も高くなっている。(図12-b)

【図12-b かかりつけの歯科医師の有無（年齢別）】



居住区別でみると、「かかりつけの歯科医師がいる」の回答割合は、天王寺区が77.0%で最も高く、西成区が55.3%で最も低くなっている。(図12-c)

【図12-c かかりつけの歯科医師の有無（居住区別）】



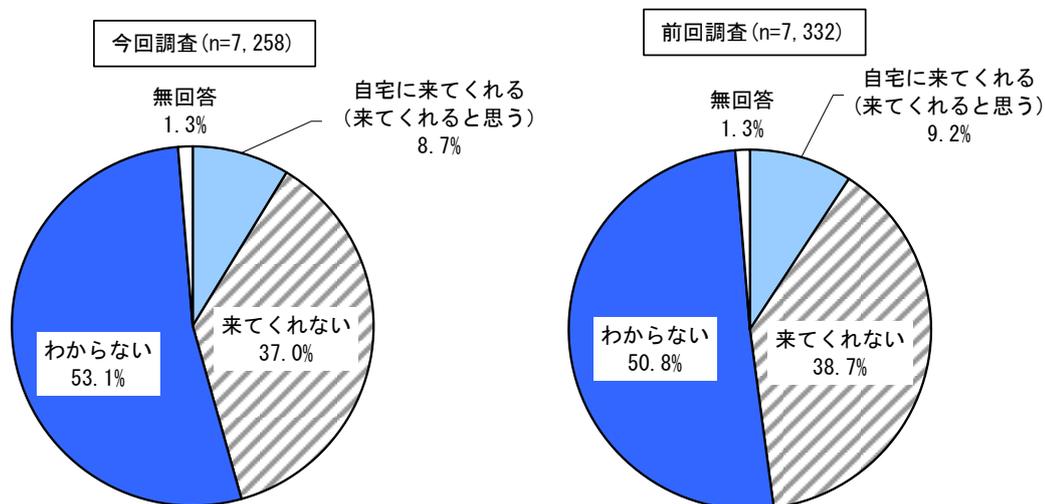
問12-1 かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無

【問12で「1」と回答された方におうかがいします。】

かかりつけの歯科医師はあなたが通院出来なくなった時に自宅に来てくれますか。

(○はひとつ)

【図12-1 かかりつけの歯科医師の訪問歯科の有無（経年比較）】



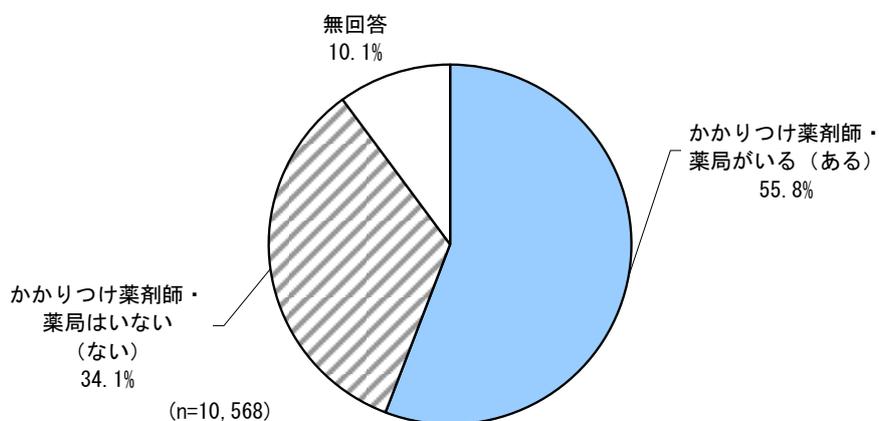
かかりつけの歯科医師がいると回答した人に、通院出来なくなった時に自宅に来てくれるかたずねると、「わからない」が53.1%で最も多く、次いで「来てくれない」が37.0%、「自宅に来てくれる（来てくれると思う）」が8.7%となっている。

前回調査と比較しても、概ね前回と同様の傾向となっている。（図12-1）

問13 かかりつけ薬剤師・薬局の有無

あなたには、かかりつけ薬剤師・薬局がありますか。(〇はひとつ)

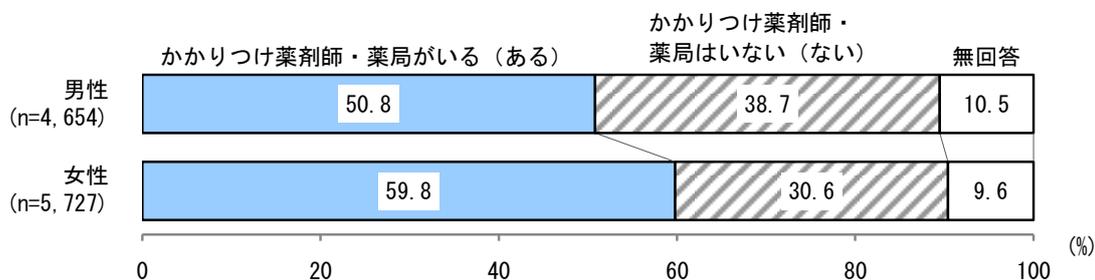
【図13 かかりつけ薬剤師・薬局の有無】



かかりつけ薬剤師・薬局の有無については、「かかりつけ薬剤師・薬局がある (ある)」が55.8%、「かかりつけ薬剤師・薬局はない (ない)」が34.1%となっている。(図13)

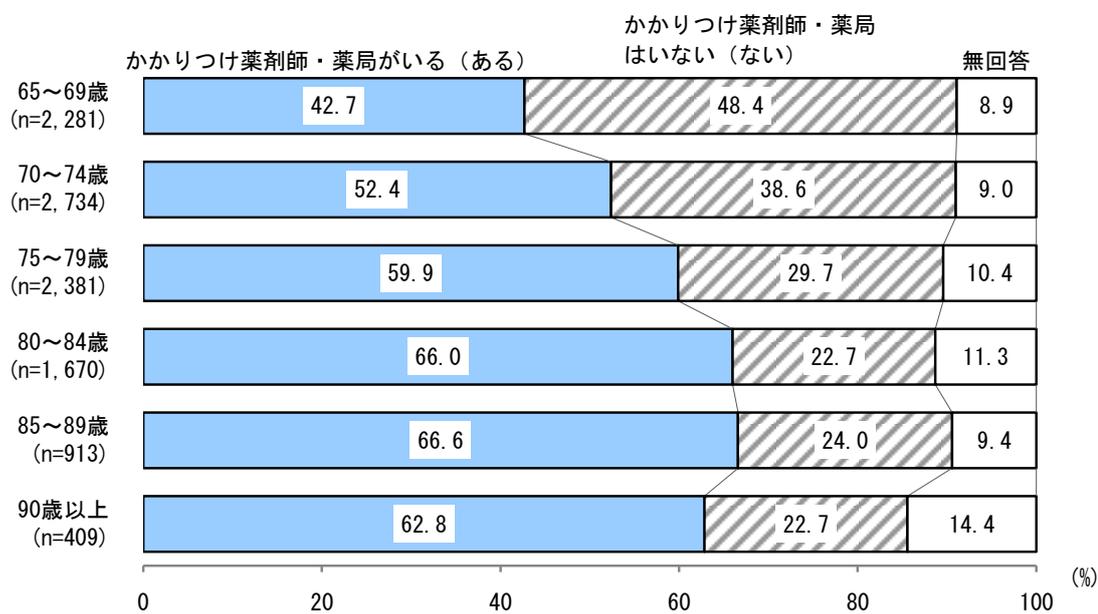
性別でみると、「かかりつけの薬剤師・薬局がある (ある)」の回答割合は女性のほうが高くなっている。(図13-a)

【図13-a かかりつけ薬剤師・薬局の有無 (性別)】



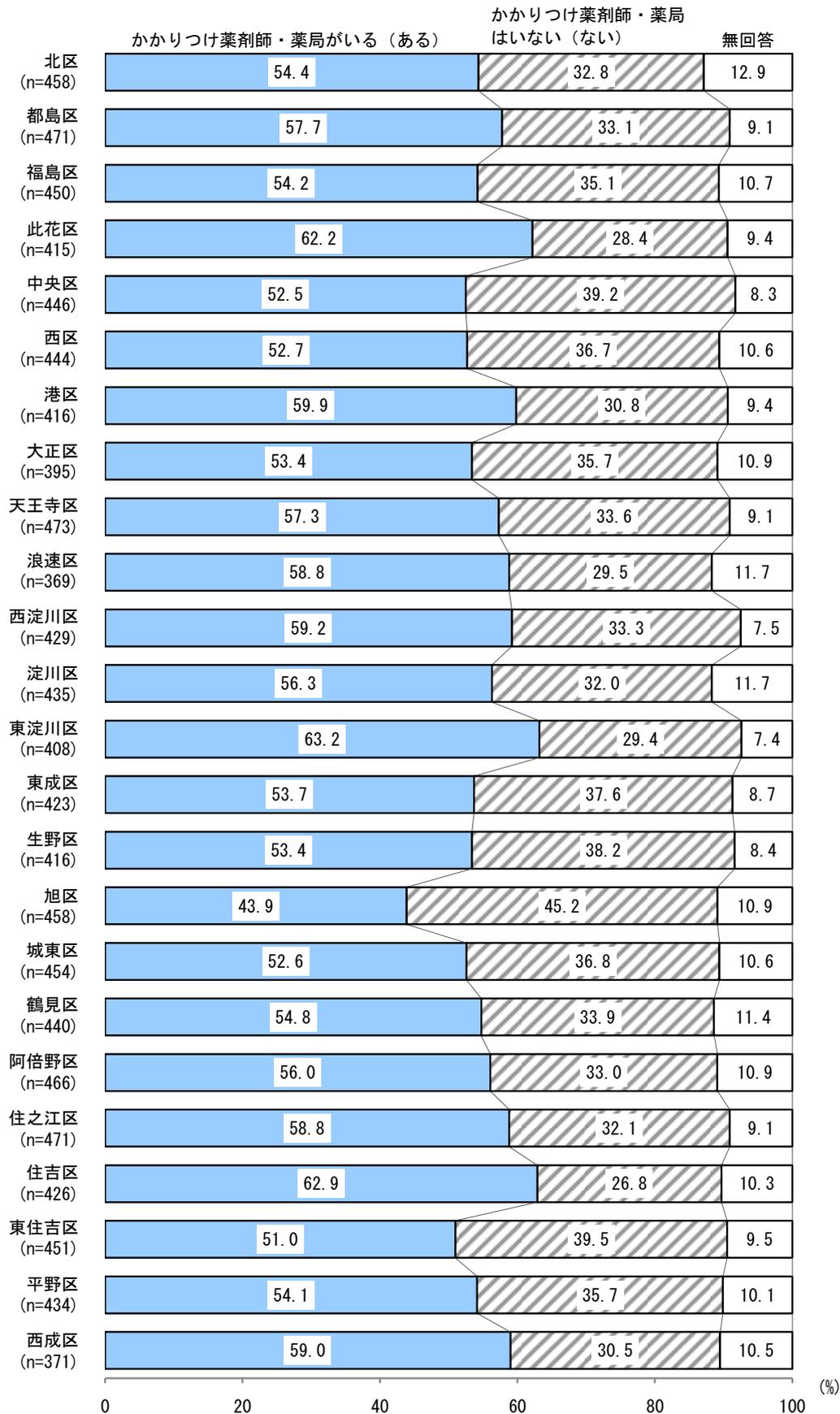
年齢別でみると、「かかりつけの薬剤師・薬局がある(ある)」の回答割合は85～89歳が66.6%で最も高くなっている。(図13-b)

【図13-b かかりつけ薬剤師・薬局の有無(年齢別)】



居住区別でみると、「かかりつけの薬剤師・薬局がある（ある）」の回答割合は、東淀川区が63.2%で最も高く、旭区が43.9%で最も低くなっている。（図13-c）

【図13-c かかりつけ薬剤師・薬局の有無（居住区別）】

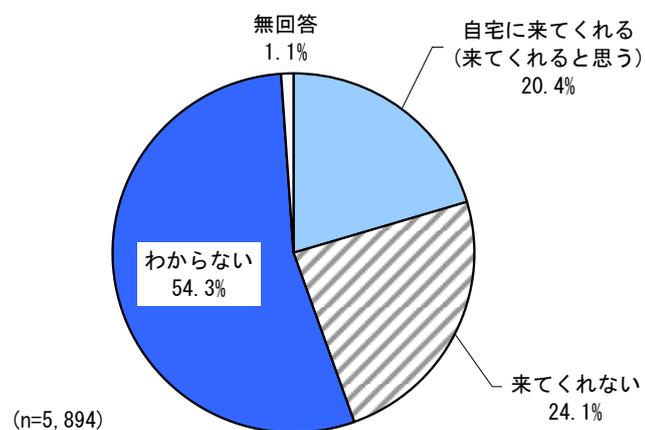


問13-1 かかりつけ薬剤師・薬局の在宅訪問の有無

【問13で「1」と回答された方におうかがいします。】

かかりつけ薬剤師・薬局はあなたが薬局へ行けなくなった時に自宅に来てくれますか。
(○はひとつ)

【図13-1 かかりつけ薬剤師・薬局の在宅訪問の有無】

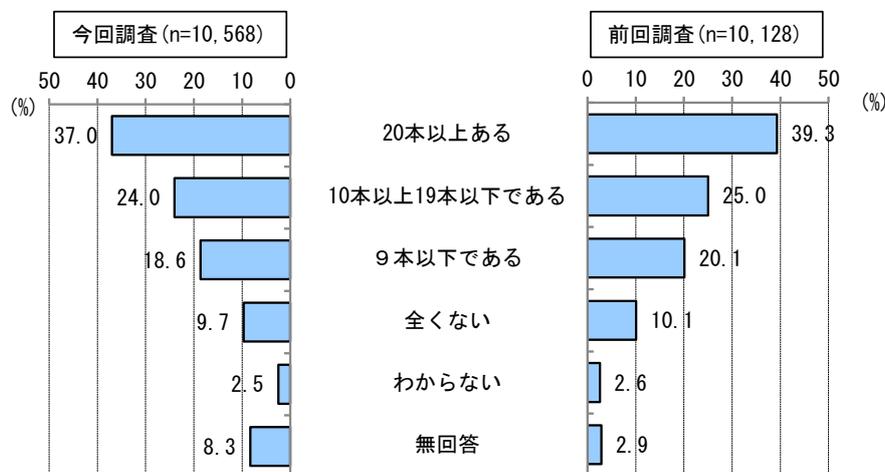


かかりつけ薬剤師・薬局がいる（ある）と回答した人に、薬局へ行けなくなった時に自宅に来てくれるかたずねると、「わからない」が54.3%で最も多く、「来てくれない」が24.1%、「自宅に来てくれると思う（来てくれると思う）」が20.4%となっている。（図13-1）

問14 歯の本数

あなたご自身の歯（根っこのある歯（歯科インプラントは除きます）は、どの程度ありますか。
（〇はひとつ）

【図14 歯の本数（経年比較）】

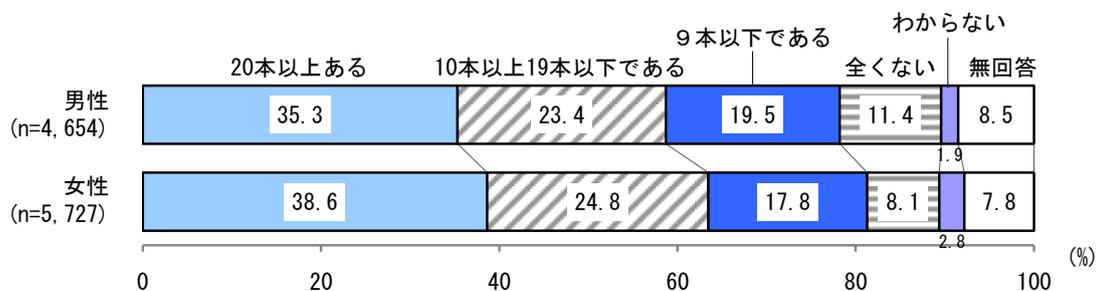


歯の本数については、「20本以上ある」が37.0%で最も多く、次いで「10本以上19本以下である」が24.0%、「9本以下である」が18.6%となっている。

前回調査と比較すると、「20本以上ある」の割合が2.3ポイント低くなっている。（図14）

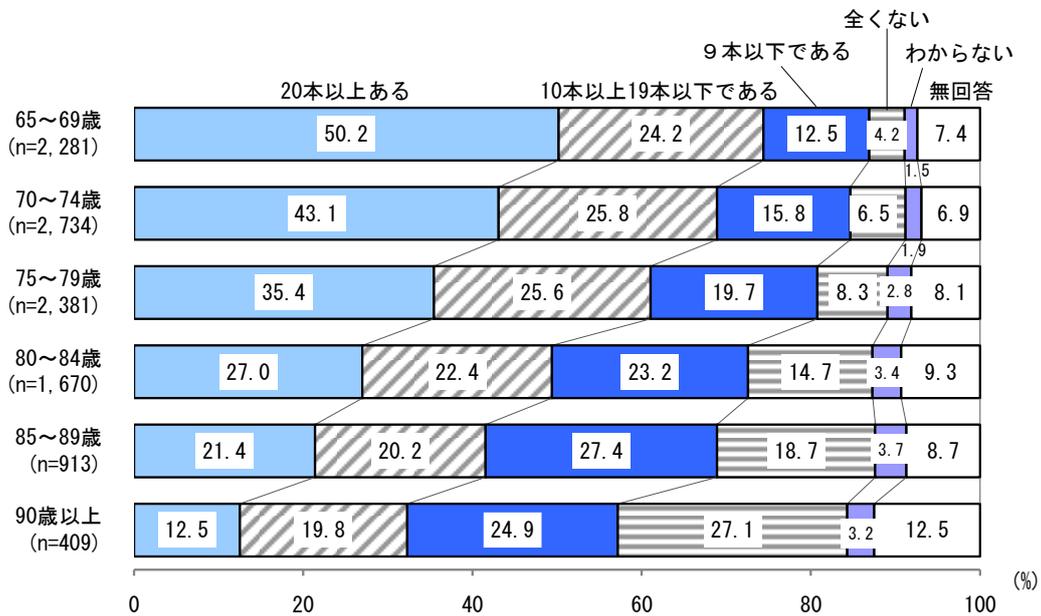
性別で見ると、「20本以上ある」、「10本以上19本以下である」は男性より女性のほうが割合が高く、女性のほうが歯の本数が多い傾向がみられる。（図14-a）

【図14-a 歯の本数（性別）】



年齢別では、高齢になるほど「20本以上ある」の回答割合が低くなり、歯の本数が減っていることがうかがえる。また、80歳以上で20本以上の歯を維持できているのは、80歳～84歳で27.0%、85～89歳で21.4%、90歳以上で12.5%となっている。(図14-b)

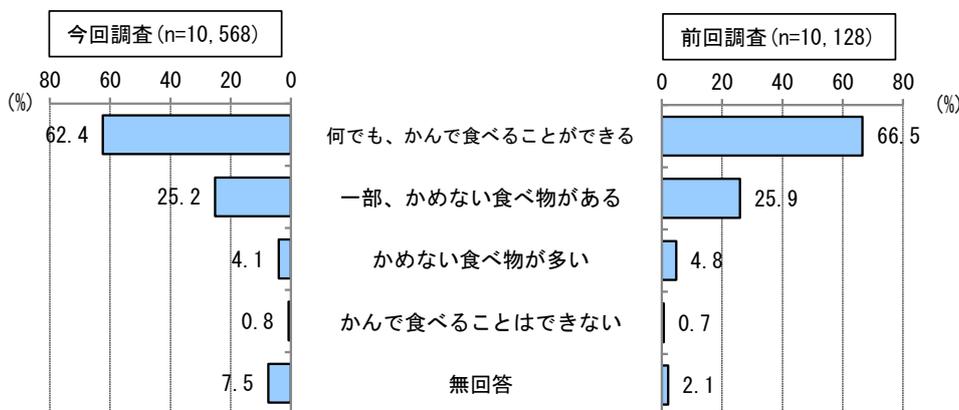
【図14-b 歯の本数（年齢別）】



問15 かんで食べることの可否

あなたがかんで食べる時の状態は、次のどれにあてはまりますか。(○はひとつ)

【図15 かんで食べることの可否 (経年比較)】

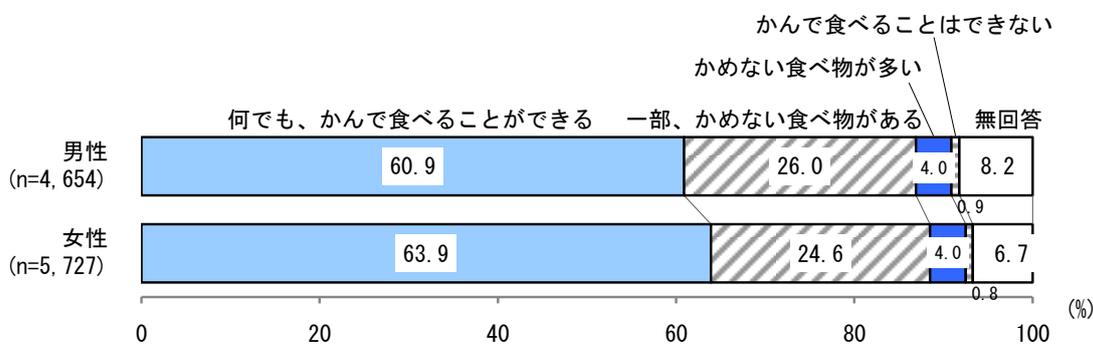


かんで食べることの可否については、「何でも、かんで食べることができる」が62.4%で最も多く、次いで「一部、かめない食べ物がある」が25.2%となっている。

前回調査と比較すると、「何でも、かんで食べることができる」の割合が4.1ポイント低くなっている。(図15)

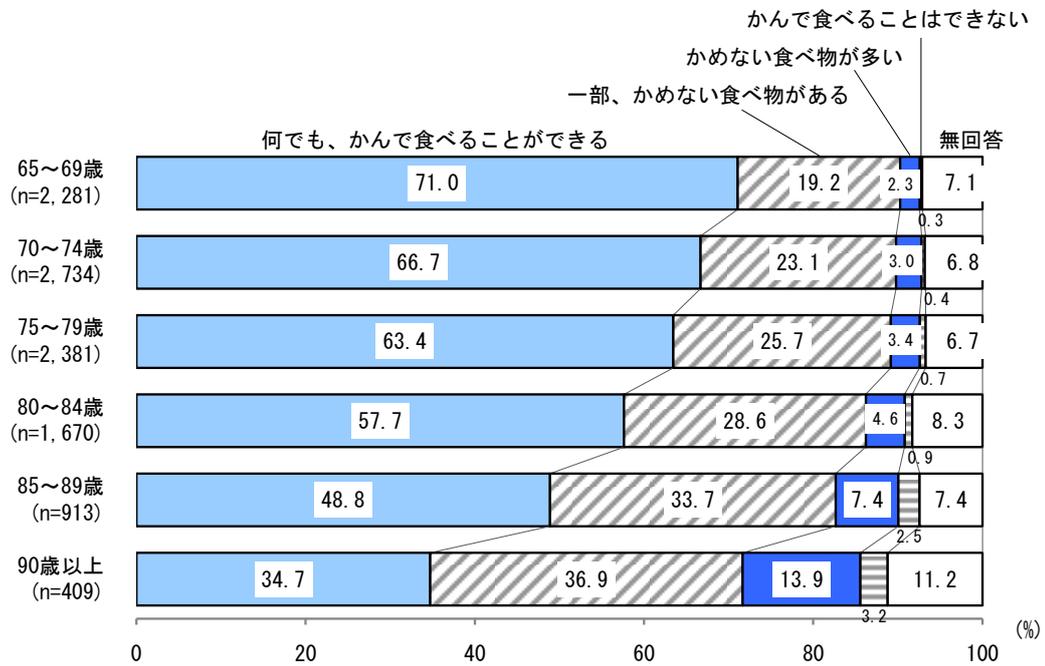
性別でみると、女性のほうが比較的良好な口腔機能を維持しているとの結果となっている。(図15-a)

【図15-a かんで食べる時の状態 (性別)】



年齢別では、高齢になるほど「何でも、かんで食べることができる」との回答割合は低くなるが、90歳以上で「一部、かめない食べ物がある」、「かめない食べ物が多い」、「かんで食べることはできない」の割合が最も高い。(図15-b)

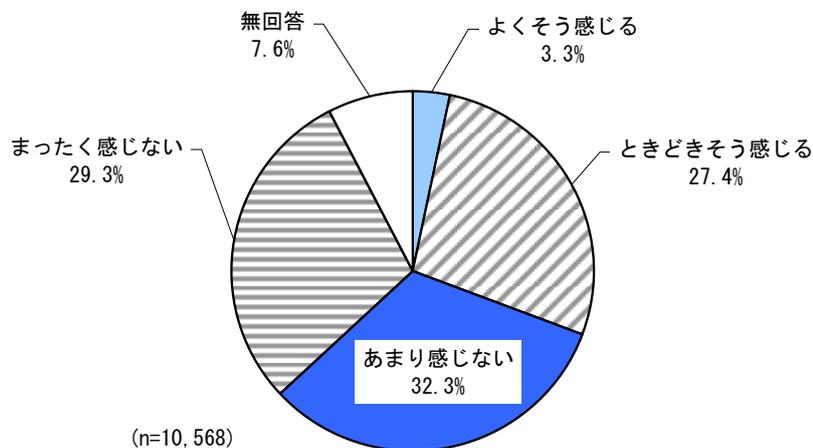
【図15-b かんで食べるときの状態（年齢別）】



問16 飲み込みにくいと感じることの有無

食べ物や飲み物を飲み込む時に、むせたり、飲み込みにくいと感じることがありますか。
(○はひとつ)

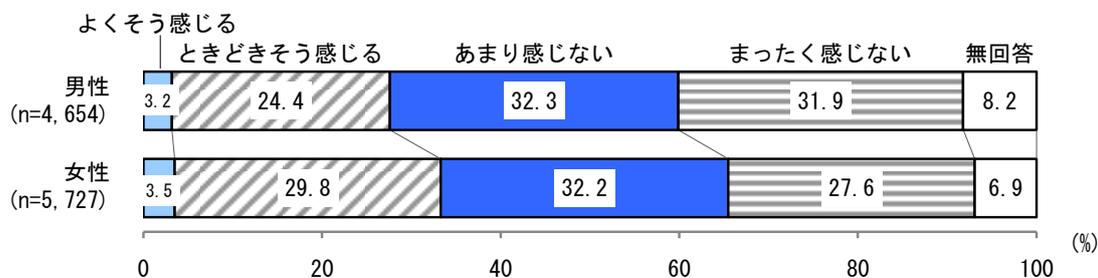
【図16 飲み込みにくいと感じることの有無】



飲み込みにくいと感じることがあるかについては、「あまり感じない」が32.3%で最も多く、次いで「まったく感じない」が29.3%、「ときどきそう感じる」が27.4%となっている。(図16)

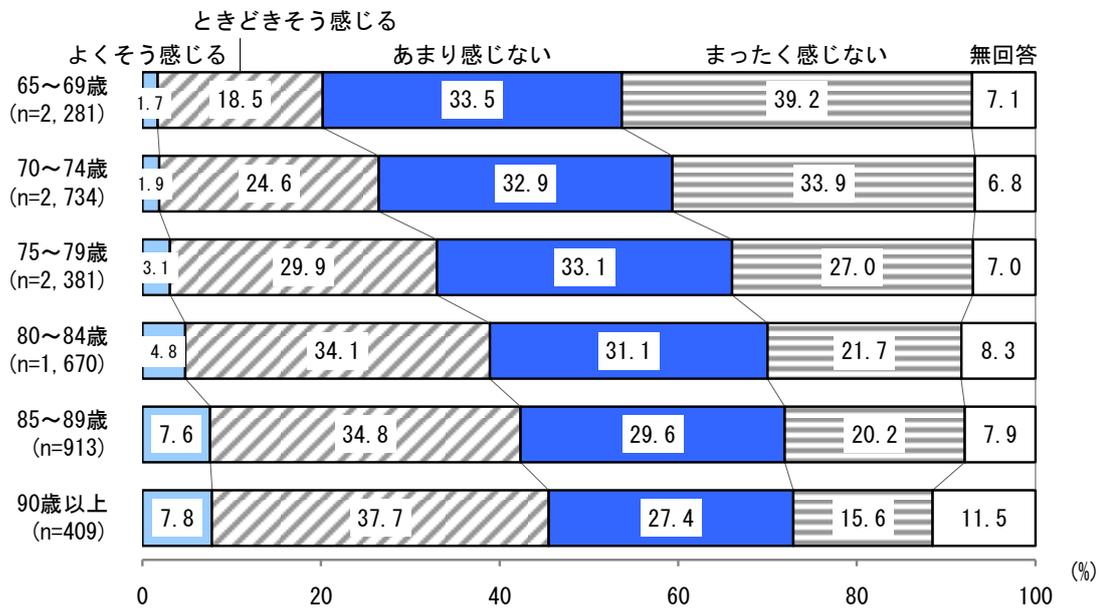
性別でみると、「よくそう感じる」、「ときどきそう感じる」は男性より女性のほうが高くなっている。(図16-a)

【図16-a 飲み込みにくいと感じることの有無 (性別)】



年齢別でみると、「よくそう感じる」、「ときどきそう感じる」は高齢になるほど回答割合が高くなっている。(図16-b)

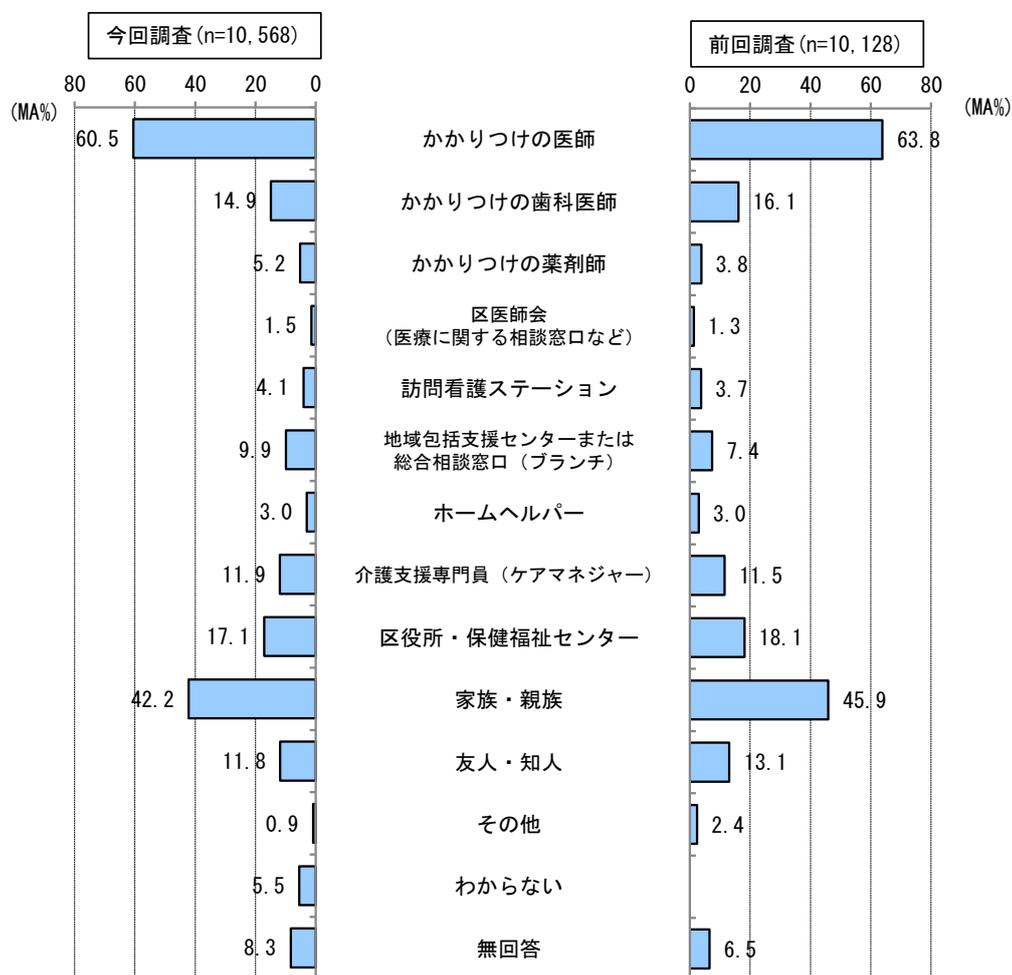
【図16-b 飲み込みにくいと感ずることの有無（年齢別）】



問17 医療の相談先

在宅で生活をしていて医療が必要になった時、どこに相談されますか。(〇はいくつでも)

【図17 医療の相談先（経年比較）】



※「わからない」は、前回調査に設けられていない。

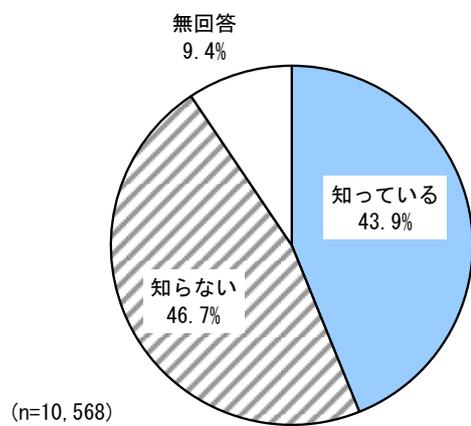
医療の相談先については、「かかりつけの医師」が60.5%で最も多く、次いで「家族・親族」が42.2%、「区役所・保健福祉センター」が17.1%となっている。

前回調査と比較すると、「かかりつけの医師」の割合が3.3ポイント、「家族・親族」が3.7ポイント低くなっている。(図17)

問18 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度

あなたは、希望すれば在宅医療を受けられることを知っていますか。(〇はひとつ)

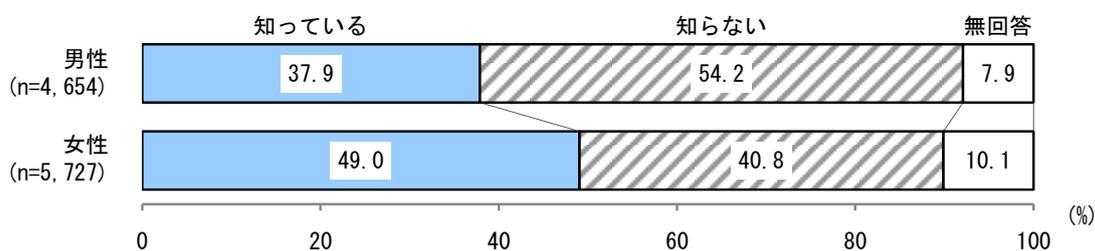
【図18 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度】



希望すれば在宅医療を受けられることを知っているかについては、「知っている」が43.9%、「知らない」が46.7%となっている。(図18)

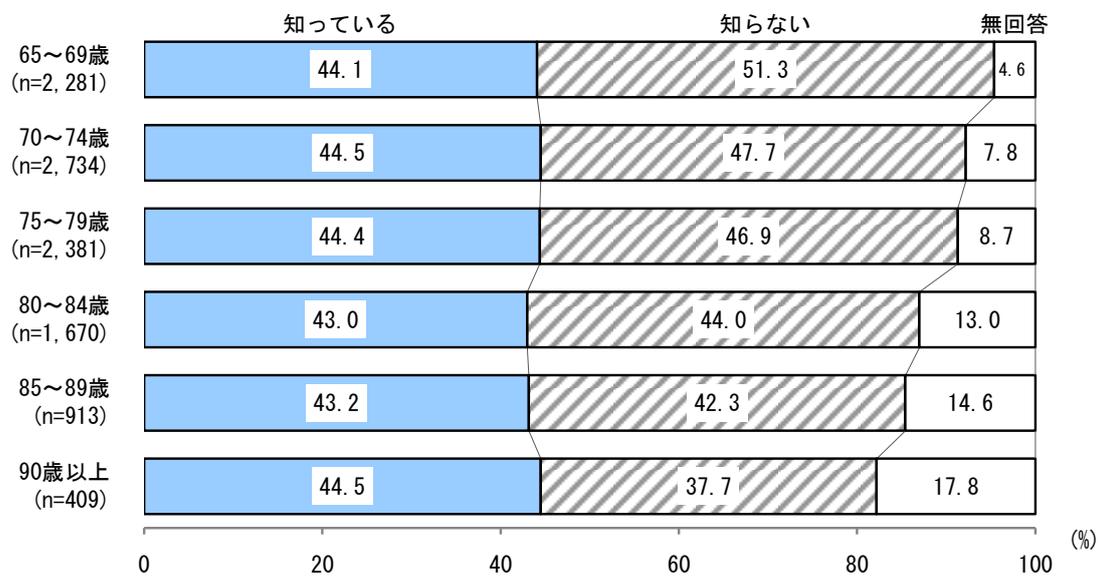
性別でみると、「知らない」は女性より男性のほうが高くなっている。(図18-a)

【図18-a 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度 (性別)】



年齢別で見ると、「知らない」は低い年齢ほど割合が高くなっている。(図18-b)

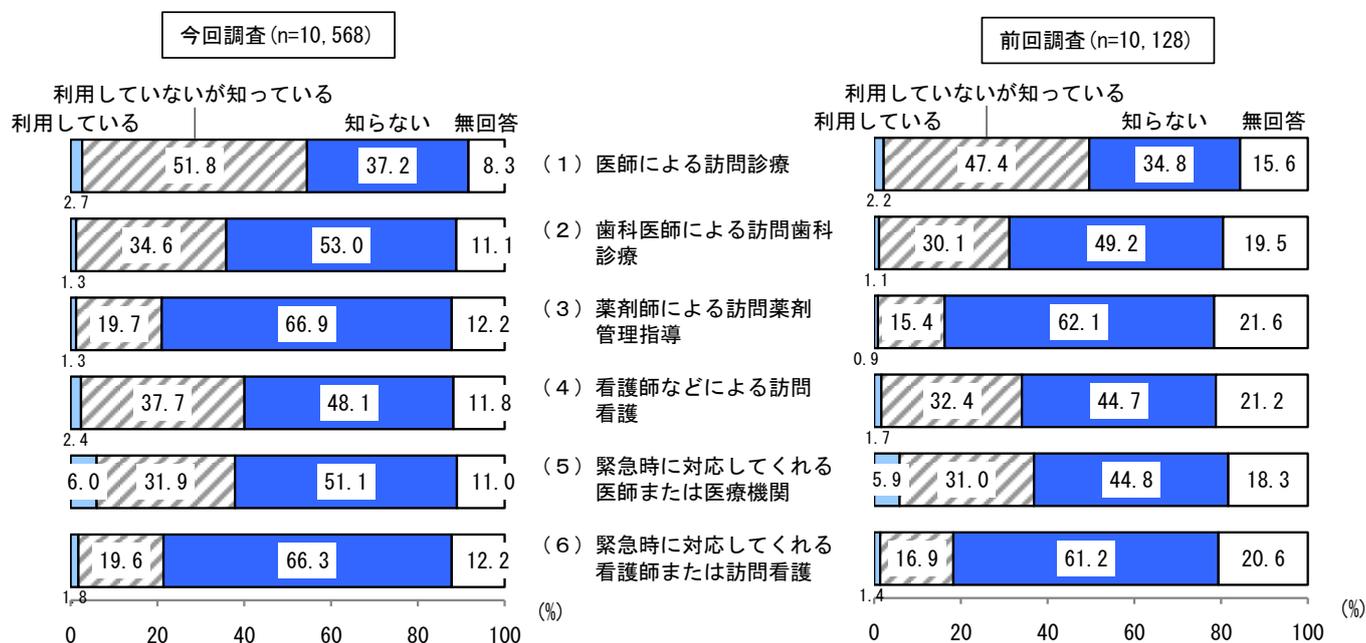
【図18-b 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度（年齢別）】



問19 在宅医療の利用状況

次の項目それぞれについて「利用している」「利用していないが知っている」「知らない」のいずれか該当するものを番号で選んでください。(〇はひとつずつ)

【図19 在宅医療の利用状況（経年比較）】



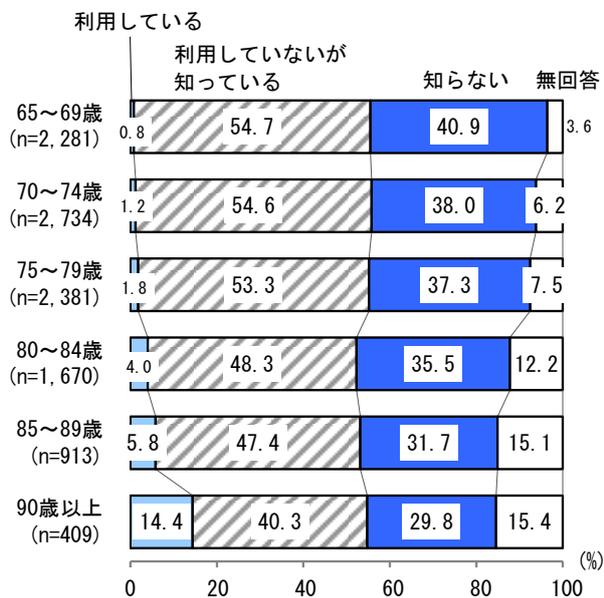
在宅医療の利用状況については、「利用している」の割合が最も高いのは、“(5) 緊急時に対応してしてくれる医師または医療機関” (6.0%) となっている。「利用している」と「利用していないが知っている」をあわせた認知度は、“(1) 医師による訪問診療” (54.5%) が最も高くなっている。

前回調査と比較すると、構成割合は概ね同様であるが、「知らない」の回答割合は(1)～(6)のいずれも前回調査より高くなっている。(図19)

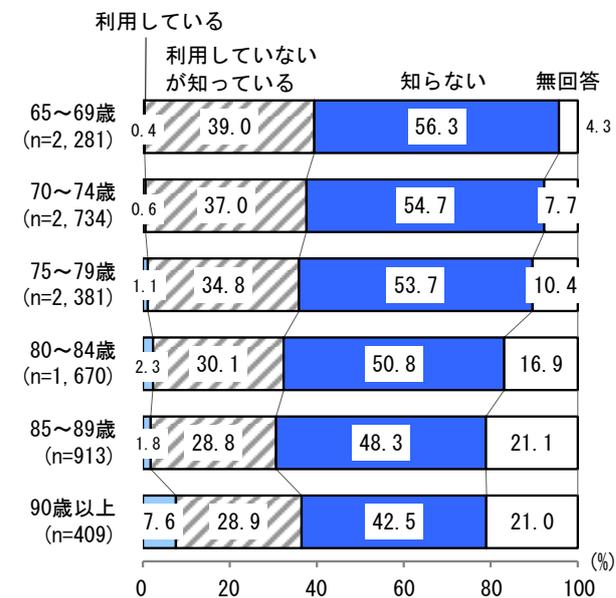
年齢別でみると、いずれの項目も高齢になるほど「利用している」の回答割合が高くなっている。(図19-a ①②)

【図19-a 在宅で提供される医療（年齢別）①】

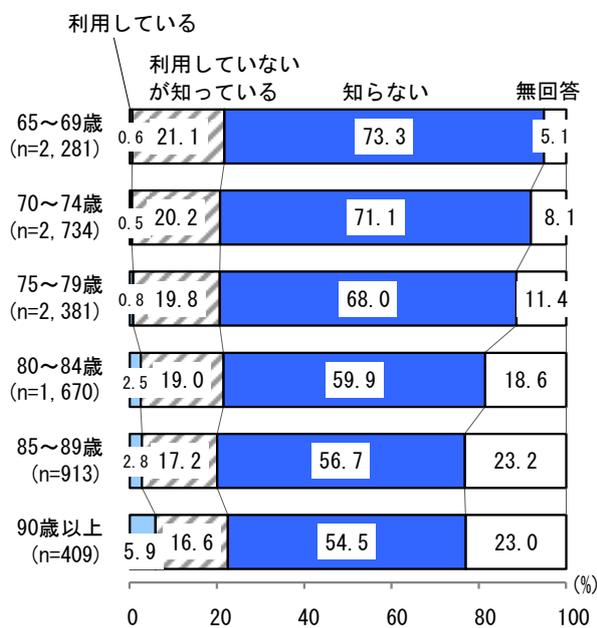
(1) 医師による訪問診療



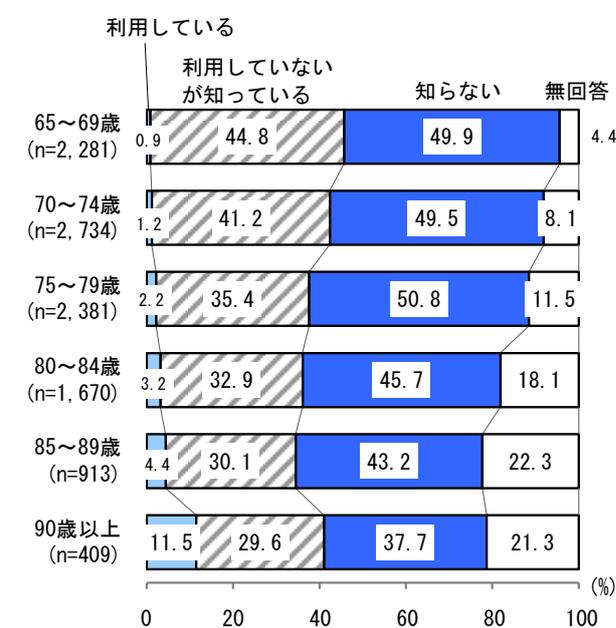
(2) 歯科医師による訪問歯科診療



(3) 薬剤師による訪問薬剤管理指導



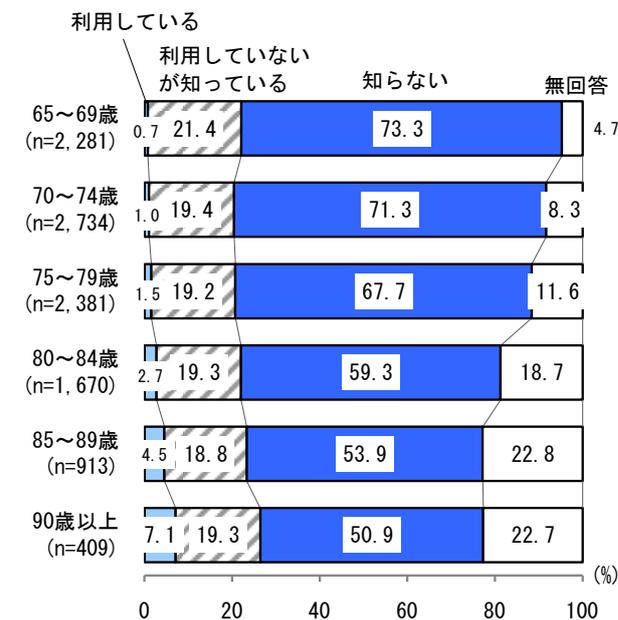
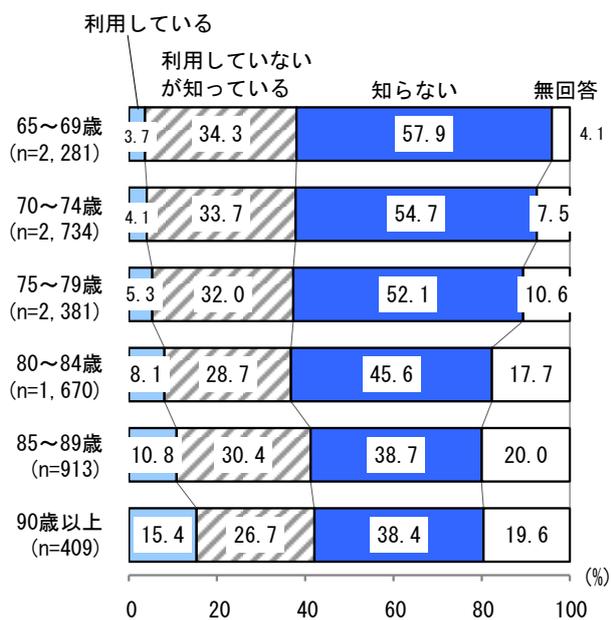
(4) 看護師などによる訪問看護



【図19-a 在宅で提供される医療（年齢別）②】

(5) 緊急時に対応してくれる医師または医療機関

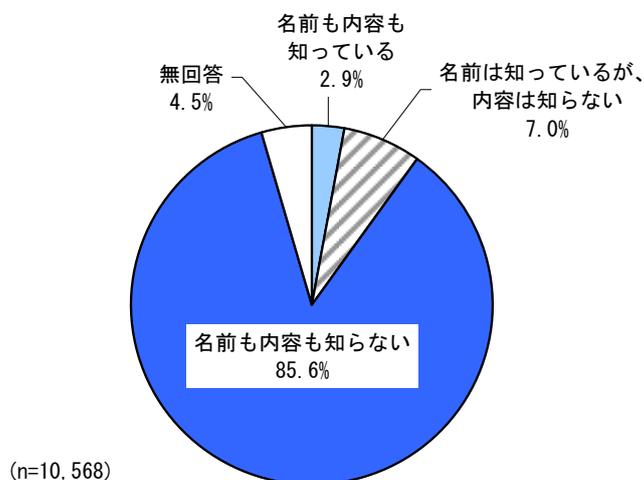
(6) 緊急時に対応してくれる看護師または訪問看護



問20 人生会議（ACP）の認知度

あなたは、『人生会議（ACP）』について知っていますか。（○はひとつ）

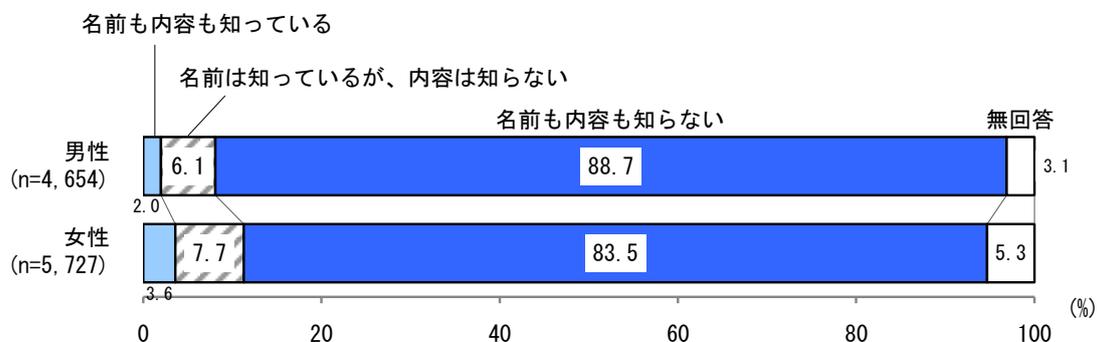
【図20 人生会議（ACP）の認知度】



人生会議（ACP）の認知度については、「名前も内容も知らない」が85.6%で最も多く、次いで「名前は知っているが、内容は知らない」が7.0%、「名前も内容も知っている」が2.9%となっている。（図20）

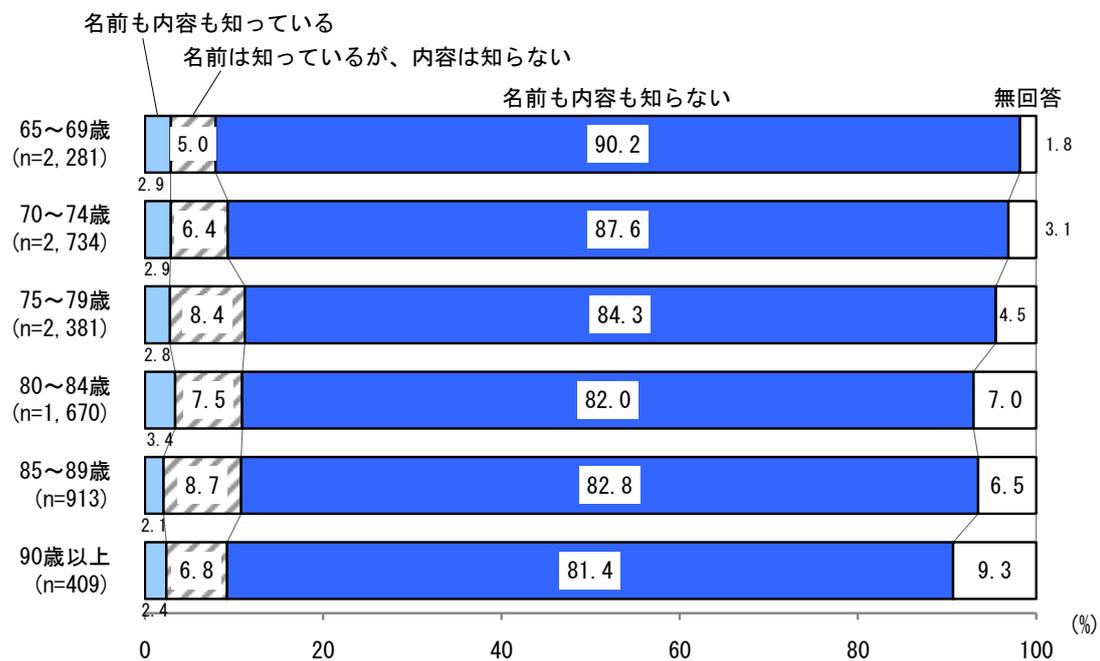
性別でみると、「名前も内容も知らない」は女性より男性のほうが高くなっている。（図20-a）

【図20-a 人生会議（ACP）の認知度（性別）】



年齢別でみると、「名前も内容も知らない」は65～69歳で最も高くなっている。(図20-b)

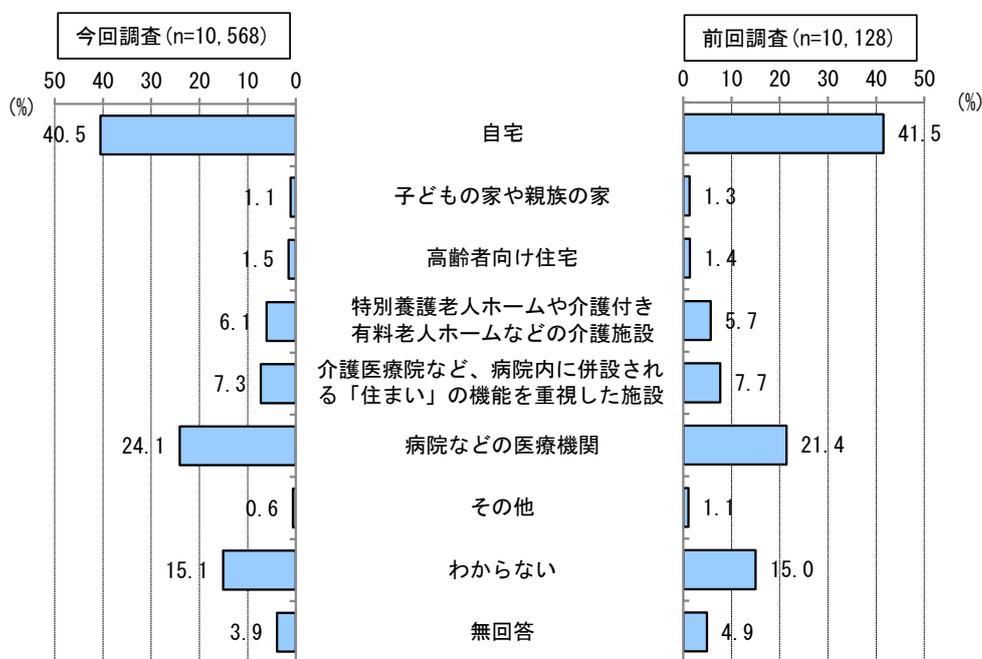
【図20-b 人生会議（ACP）の認知度（年齢別）】



問21 人生の最終段階に過ごしたい場所

万一、あなたが治る見込みのない病気になった場合、人生の最終段階をどこで過ごしたいですか。なお、必要な医療については、それぞれの場所で受けることができるものとしてお答えください。(〇はひとつ)

【図21 人生の最終段階に過ごしたい場所（経年比較）】

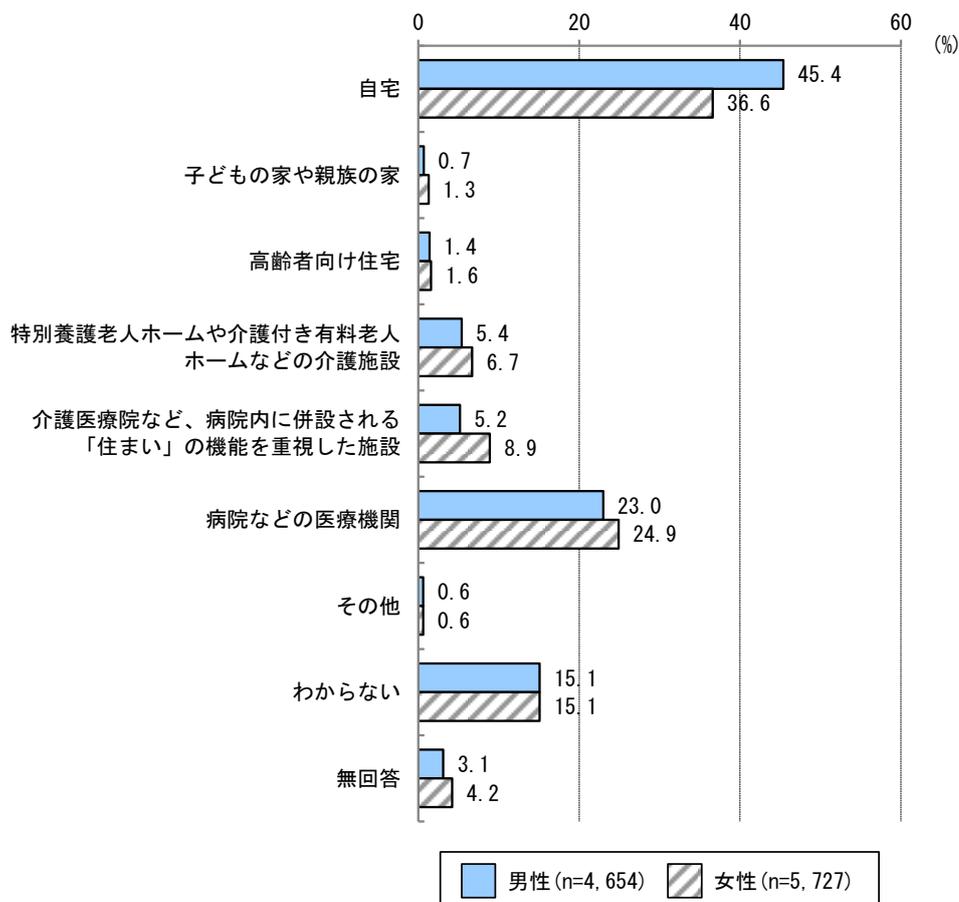


人生の最終段階に過ごしたい場所については、「自宅」が40.5%で最も多く、次いで「病院などの医療機関」が24.1%となっている。

前回調査と比較すると、概ね傾向は変わらないが、「病院などの医療機関」の割合は2.7ポイント高くなっている。(図21)

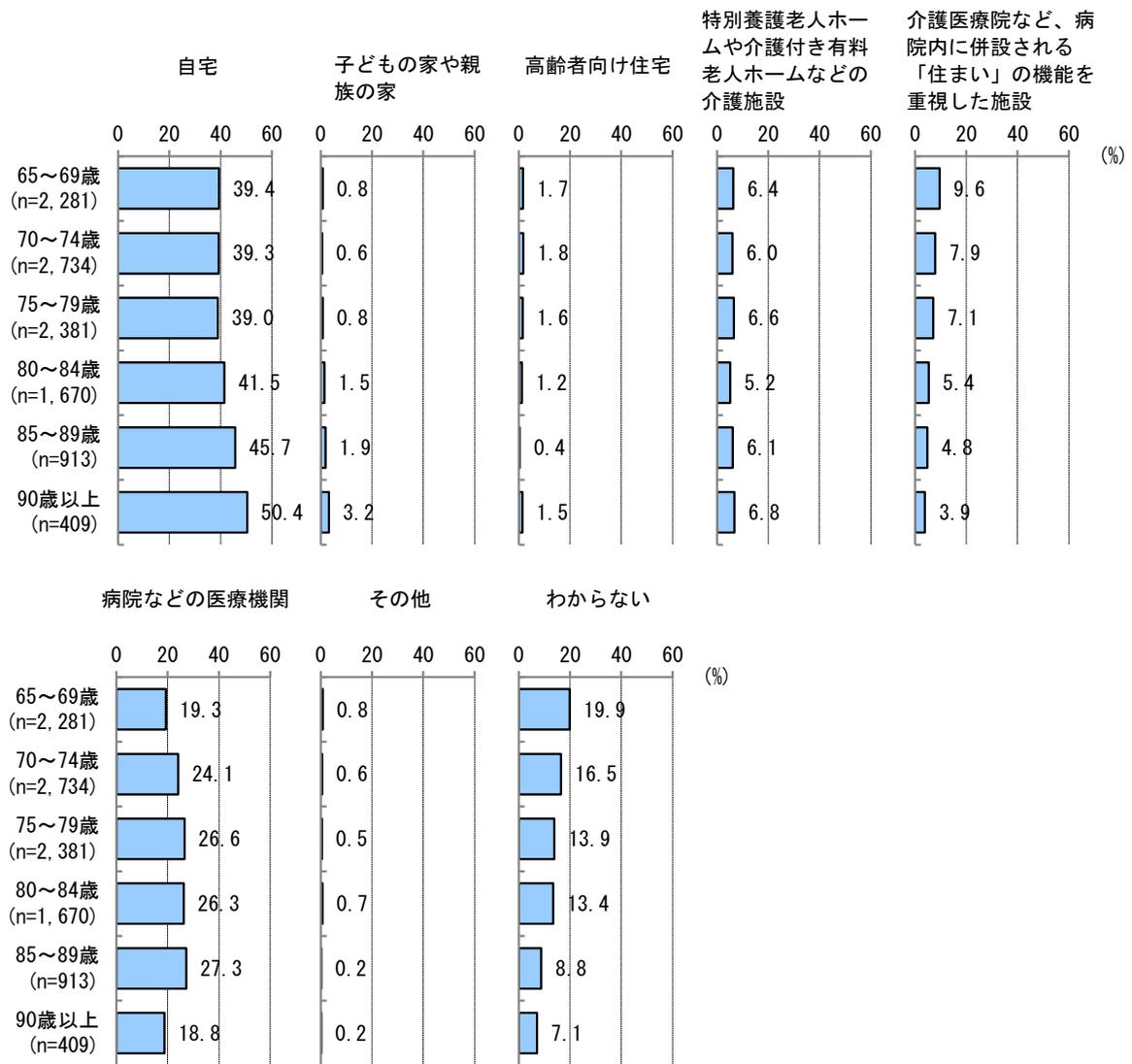
性別でみると、「自宅」の回答割合は男性のほうが高くなっている。(図21-a)

【図21-a 人生の最終段階に過ごしたい場所（性別）】



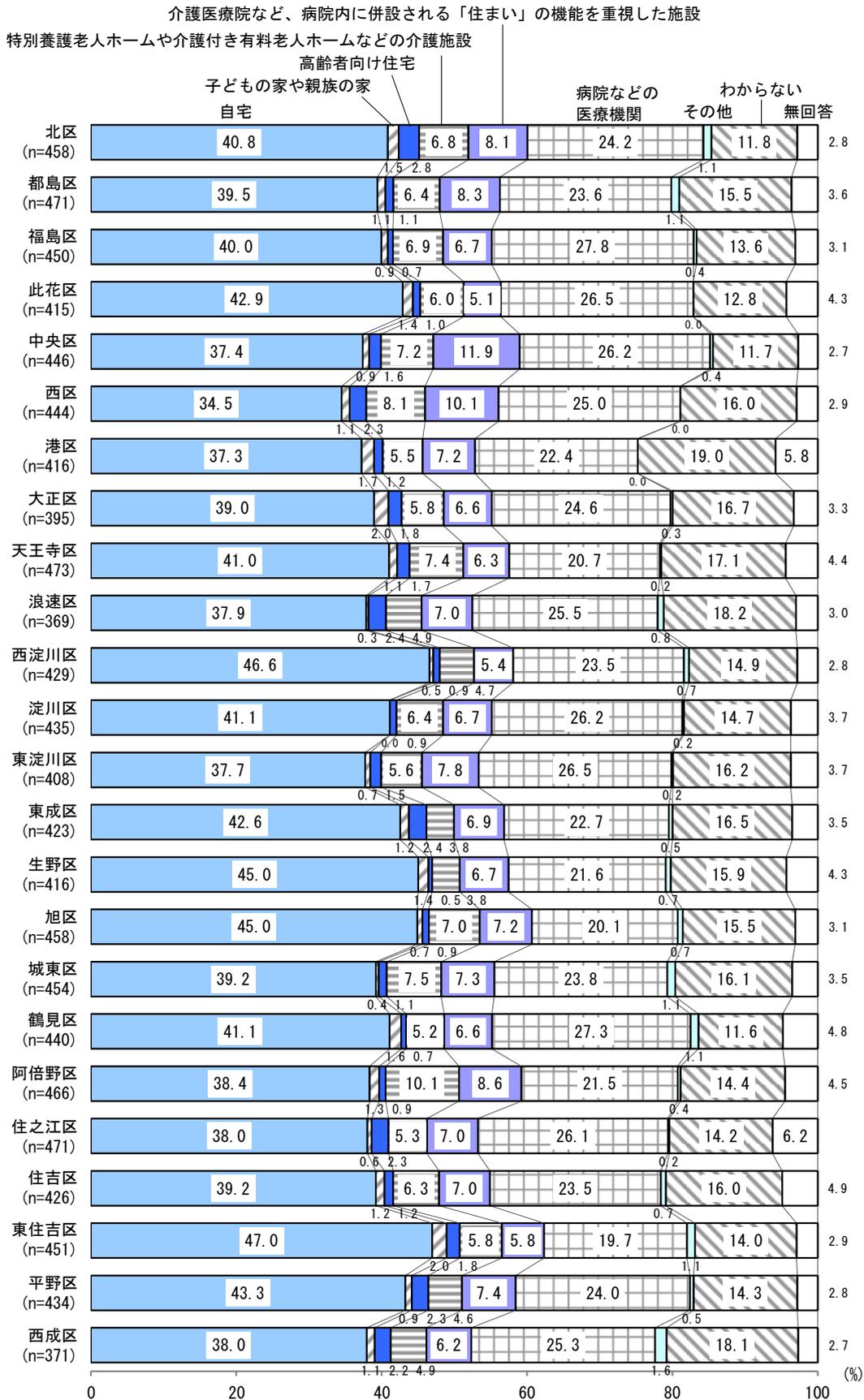
年齢別でみると、「自宅」の回答割合は高齢になるほど高く、「介護医療院など、病院内に併設される「住まい」の機能を重視した施設」は高齢になるほど低くなっている。(図21-b)

【図21-b 人生の最終段階に過ごしたい場所（年齢別）】



居住区別でみると、「自宅」の回答割合は東住吉区が47.0%で最も高く、「病院などの医療機関」は福島区が27.8%で最も高くなっている。(図21-c)

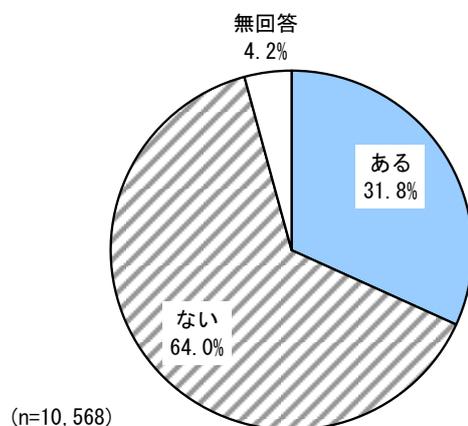
【図21-c 人生の最終段階に過ごしたい場所（居住区別）】



問22 人生の最終段階についての話し合いの有無

問21の人生の最終段階の過ごし方について、誰かと話し合ったことがありますか。(〇はひとつ)

【図22 人生の最終段階についての話し合いの有無】

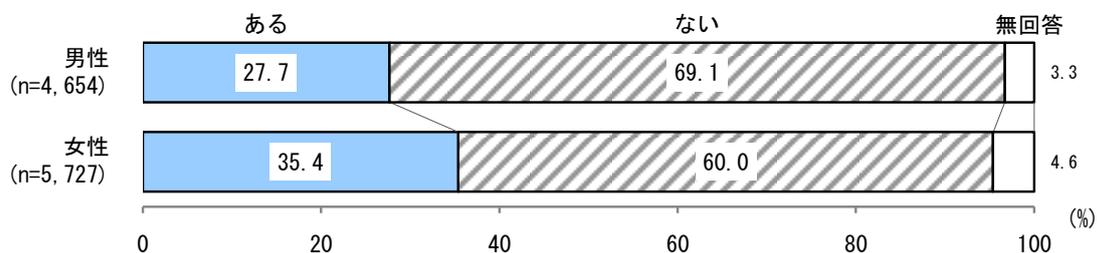


※選択肢の変換：「はい」→「ある」、「いいえ」→「ない」

人生の最終段階について話し合ったことがあるかについて、「ある」が31.8%、「ない」が64.0%となっている。(図22)

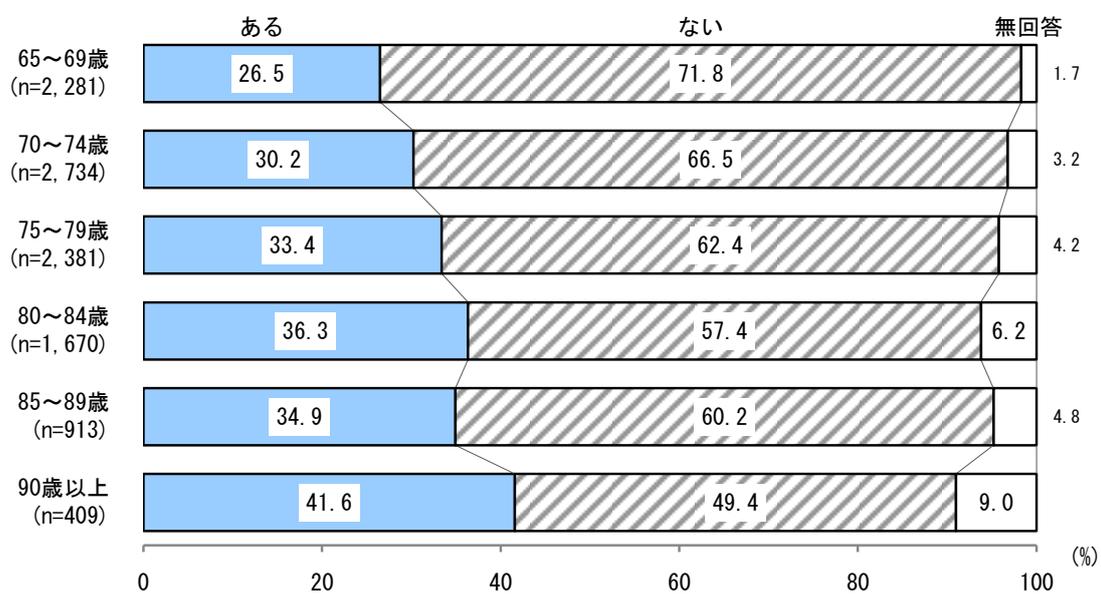
性別でみると、「ある」は男性より女性のほうが高くなっている。(図22-a)

【図22-a 人生の最終段階についての話し合いの有無 (性別)】



年齢別で見ると、「ある」は高齢になるほど高い傾向にあり、90歳以上（41.6%）で最も高くなっている。（図22-b）

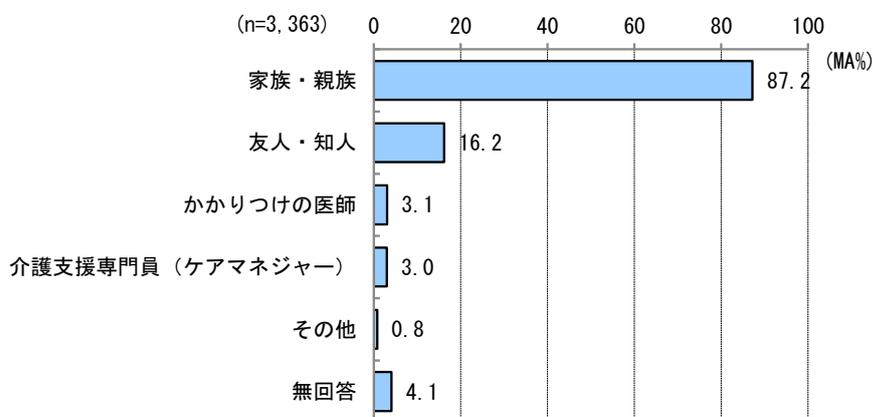
【図22-b 人生の最終段階についての話し合いの有無（年齢別）】



問22-1 人生の最終段階について話し合った相手

【問22で「1 はい」と回答された方におうかがいします。】
誰と話し合われましたか。(〇はいくつでも)

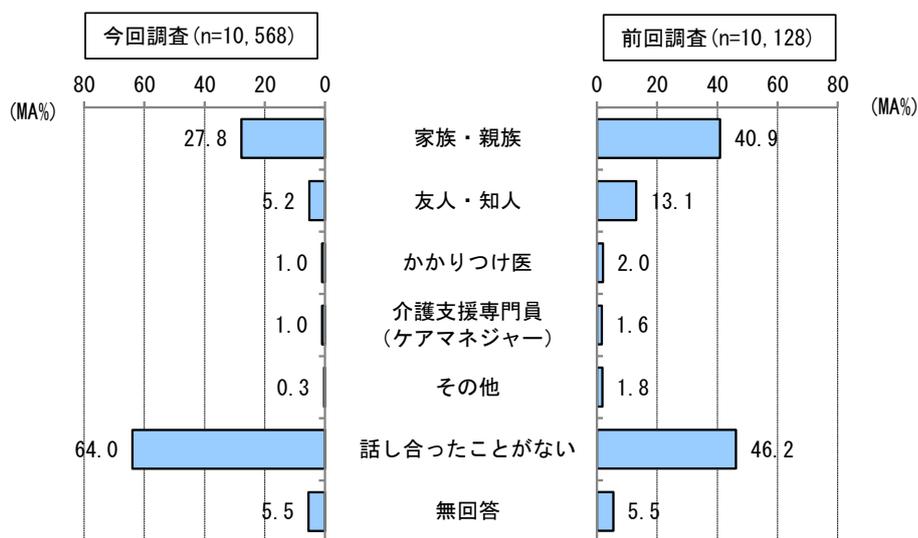
【図22-1 人生の最終段階について話し合った相手】



人生の最終段階について話し合ったことがあると回答した人に、話し合った相手をたずねると、「家族・親族」が87.2%で最も多く、次いで「友人・知人」が16.2%となっている。(図22-1)

前回調査とは設問形式が異なるため、一概に比較はできないが、参考としてみると、「話し合ったことがない」の割合が高くなっている。一方、話し合った相手の割合では低くなっているが、項目の傾向に大きく変化はみられない。(図22-1-a)

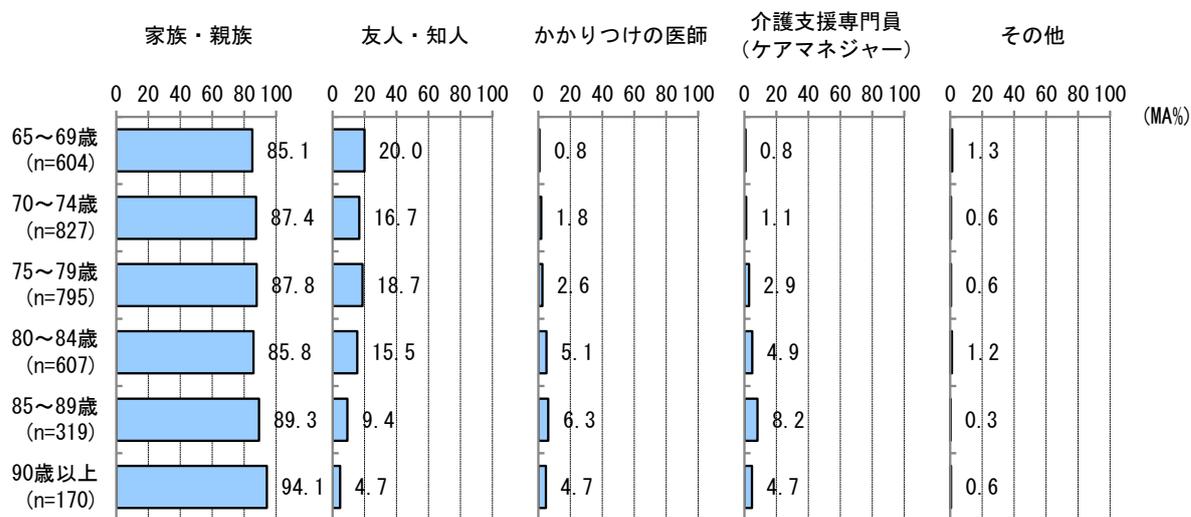
【図22-1-a 人生の最終段階について話し合った相手 (経年比較)】



※今回調査の問22「2 いいえ (ない)」の回答者を、「話し合ったことがない」とする。

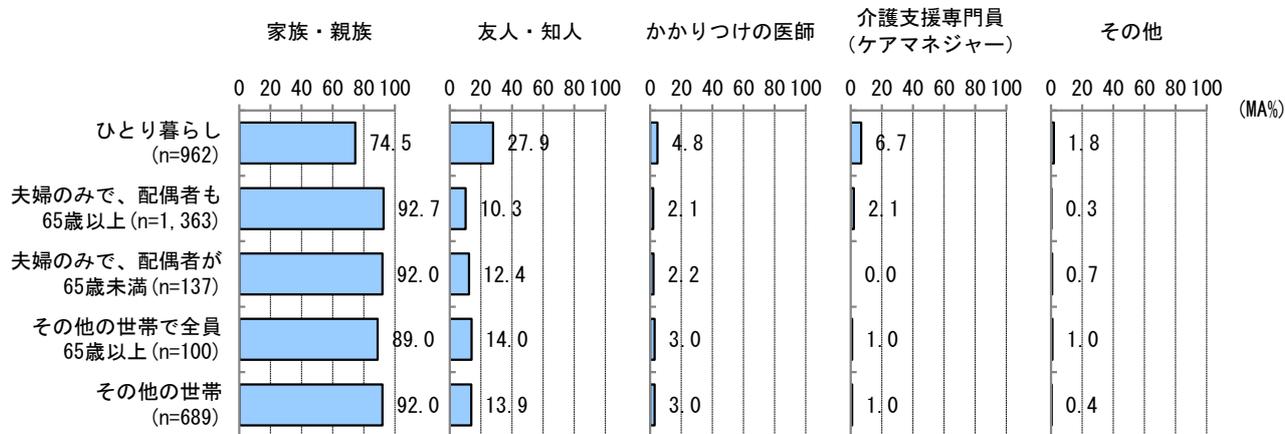
年齢別でみると、「家族・親族」の回答割合は90歳以上が94.1%で最も高く、「友人・知人」は65～69歳が20.0%で最も高くなっている。(図22-1-b)

【図22-1-b 人生の最終段階について話し合った相手（年齢別）】



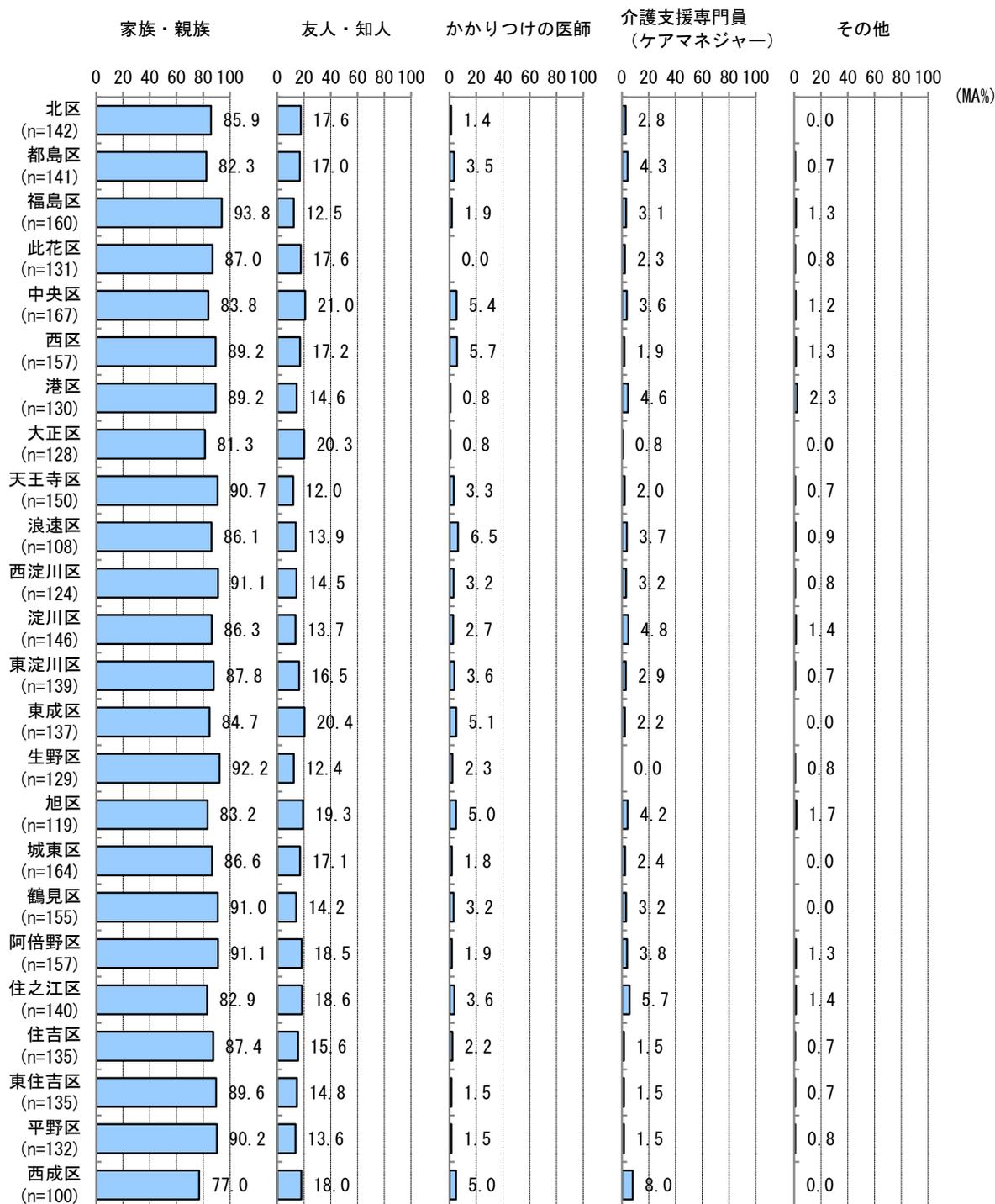
世帯状況別でみると、「友人・知人」と「かかりつけの医師」、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」は“ひとり暮らし”で最も高くなっている。(図22-1-c)

【図22-1-c 人生の最終段階について話し合った相手（世帯状況別）】



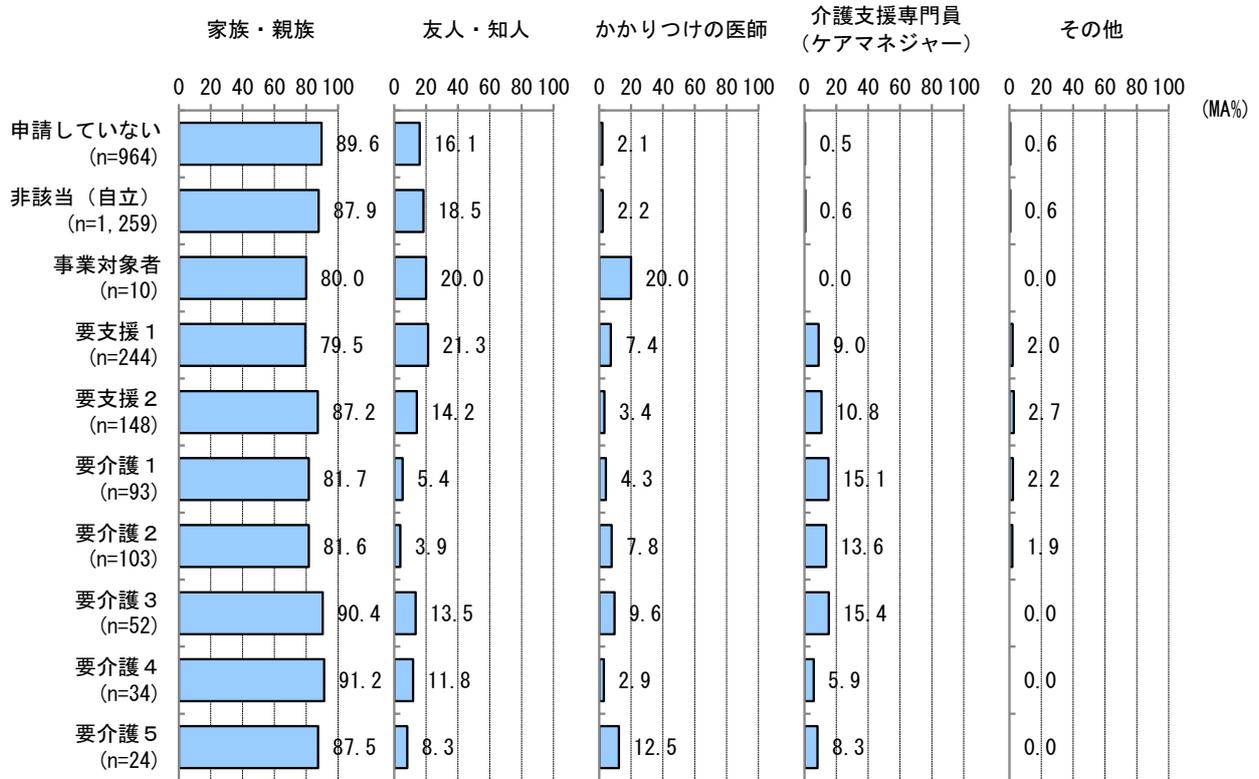
居住区別でみると、「家族・親族」の回答割合は福島区が93.8%で最も高く、「友人・知人」は中央区が21.0%で最も高くなっている。(図22-1-d)

【図22-1-d 人生の最終段階について話し合った相手（居住区別）】



介護度別でみると、「家族・親族」の回答割合は、要介護4が91.2%で最も高くなっている。
 (図22-1-e)

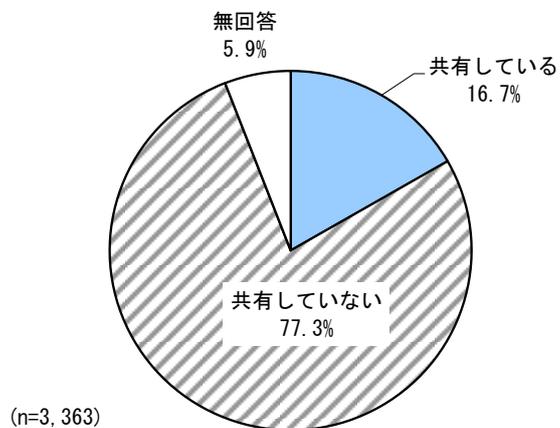
【図22-1-e 人生の最終段階について話し合った相手（介護度別）】



問22-2 話し合いで決めた内容の共有有無

【問22で「1 はい」と回答された方におうかがいします。】
決めた内容を文書に記載するなど共有できるようにしていますか。(〇はひとつ)

【図22-2 話し合いで決めた内容の共有有無】



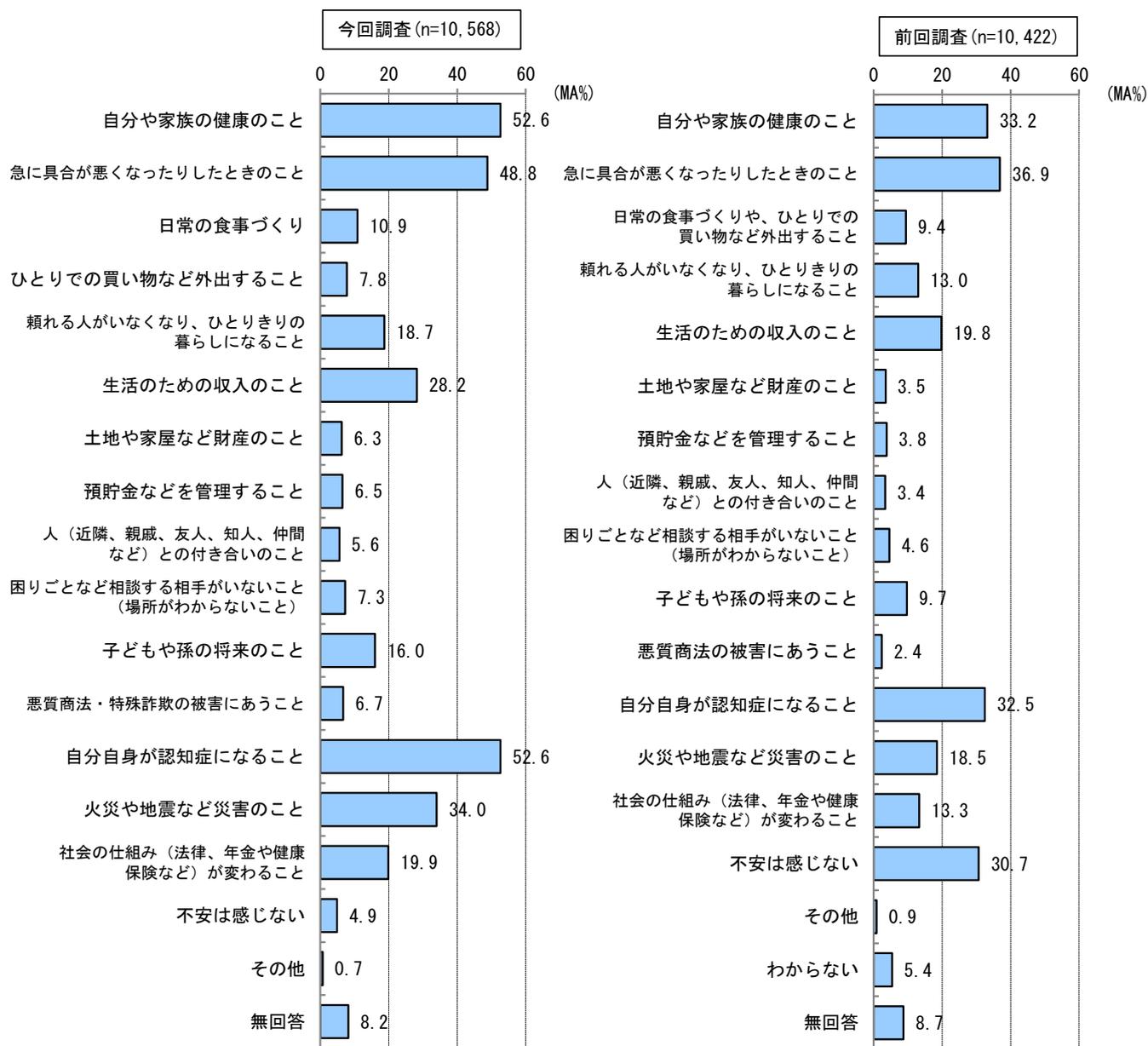
※選択肢の変換：「はい」→「共有している」、「いいえ」→「共有していない」

人生の最終段階について話し合ったことがあると回答した人に、決めた内容を共有できるようにしているかたずねると、「共有している」が16.7%、「共有していない」が77.3%となっている。(図22-2)

問23 日常生活への不安

あなたは、日常生活全般で不安に感じることはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

【図23 日常生活への不安（経年比較）】



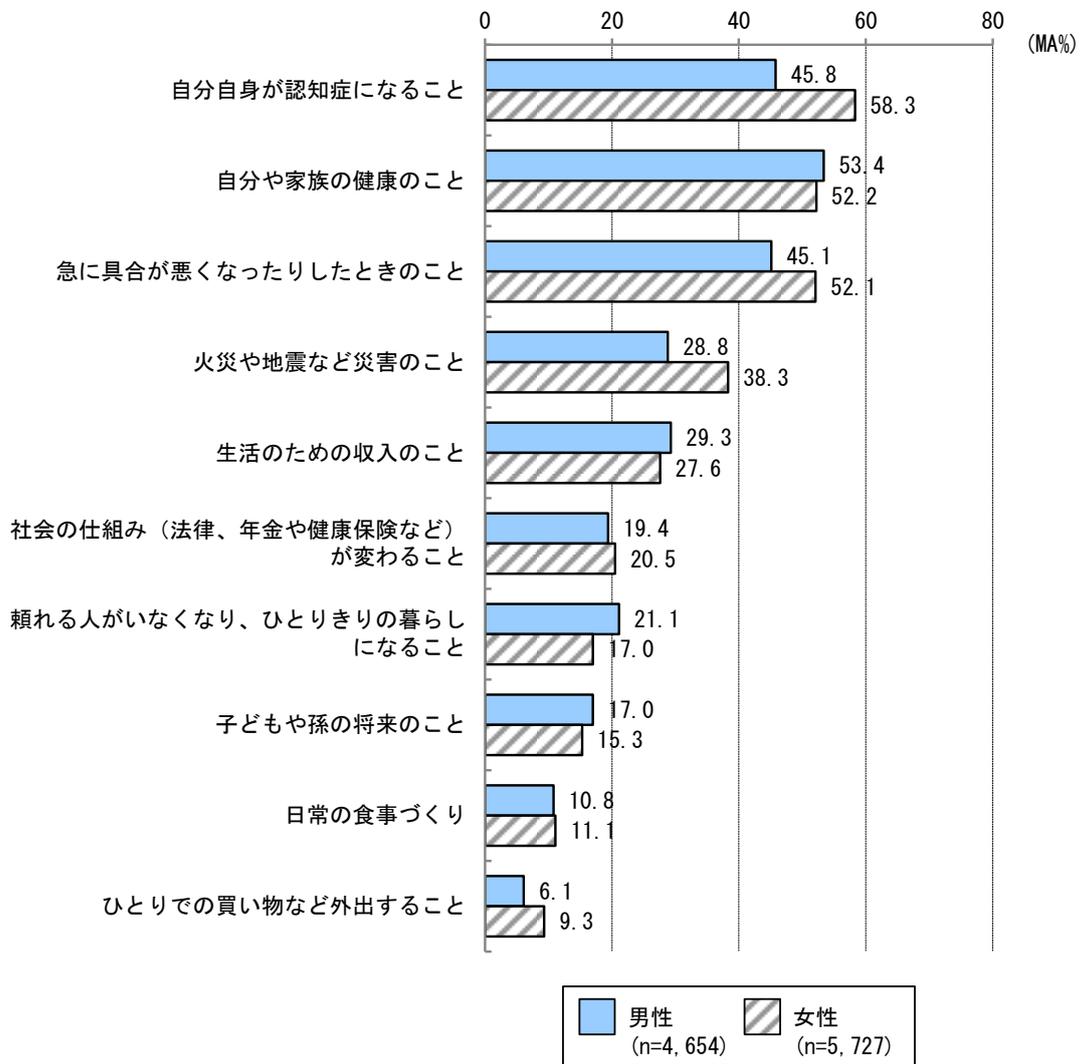
※前回調査は、設問形式が今回調査と異なる。

日常生活への不安については、「自分や家族の健康のこと」、「自分自身が認知症になること」が52.6%で最も多く、次いで「急に具合が悪くなったりしたときのこと」が48.8%、「火災や地震などの災害のこと」が34.0%となっている。

前回調査とは設問形式が異なるため、一概に比較はできないが、参考としてみると、「自分や家族の健康のこと」「急に具合が悪くなったときのこと」「自分自身が認知症になること」が多い傾向は変わらない。(図23)

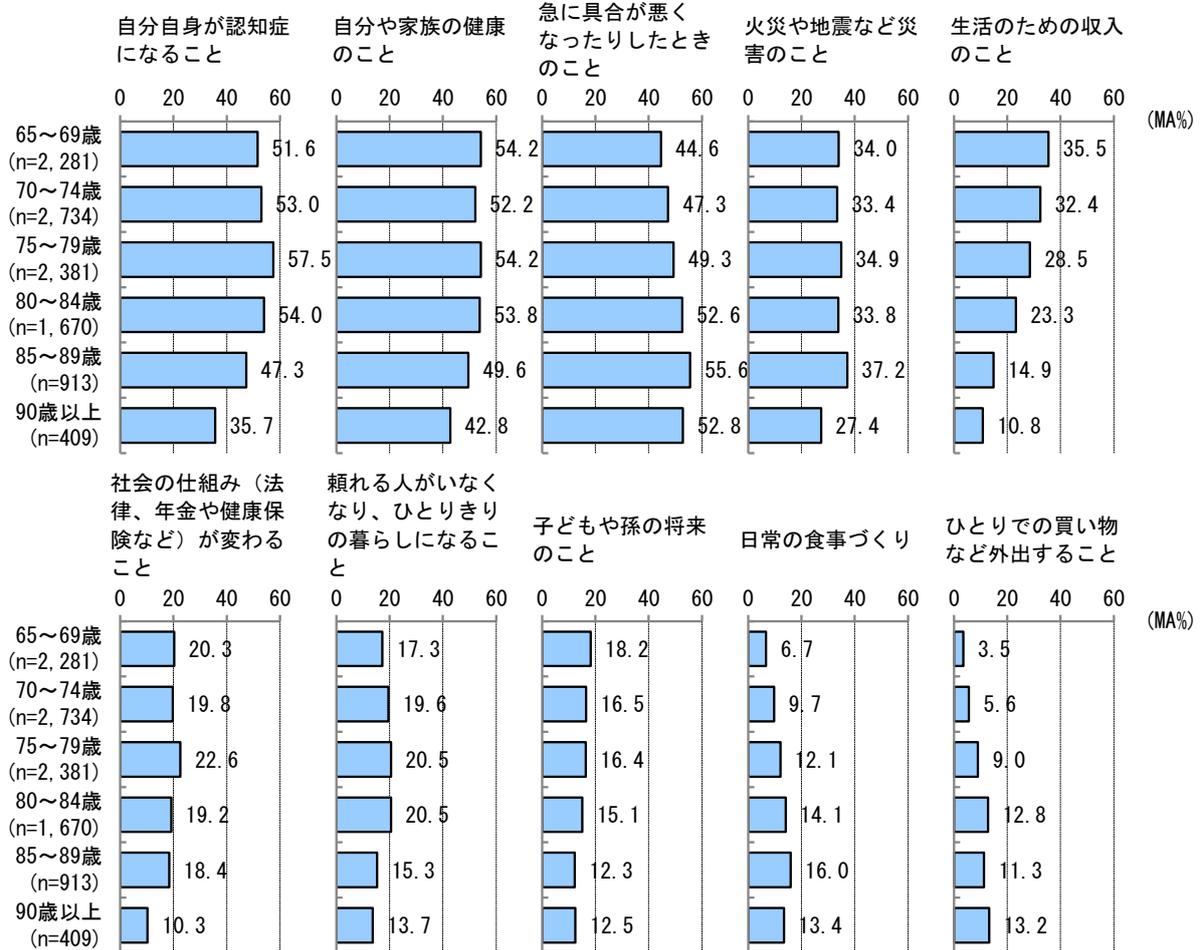
性別でみると、「自分自身が認知症になること」の回答割合は女性のほうが1割以上高くなっている。(図23-a)

【図23-a 日常生活への不安（性別）（上位項目）】



年齢別でみると、「自分自身が認知症になること」、「自分や家族の健康のこと」の回答割合は65～84歳で5割台と高く、「生活のための収入のこと」の回答割合は高齢になるほど低くなっている。(図23-b)

【図23-b 日常生活への不安（年齢別）（上位項目）】



介護度別でみると、「自分自身が認知症になること」の回答割合は、「申請していない」から「要支援2」の割合が高い。「急に具合が悪くなったりしたときのこと」は要支援1・2で6割台と高く、要介護1～4も5割台と高くなっている。(図23-c)

【図23-c 日常生活への不安（介護度別）（上位項目）】

